

科目名	プログラミング基礎(再) (FIV00700)
英文科目名	Fundamental Programming
担当教員名	黒田正博 (くろだまさひろ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：Excelでのプログラミング言語であるVBAについて説明する。
2回	変数・関数・四則計算について説明および演習を実施する。
3回	データ型、分岐・ループについて説明、演習する。
4回	IF文による条件分岐のための文法構造を説明する。
5回	演習問題：IF文による条件分岐のためのVBAプログラムを作成する。
6回	SELECT文による条件分岐のための文法構造を説明する。
7回	演習問題：SELECT文による条件分岐のためのVBAプログラムを作成する。
8回	DO WHILE文による繰り返し処理のための文法構造を説明する。
9回	演習問題：DO WHILE文による繰り返し処理のためVBAプログラムを作成する。
10回	FOR文による繰り返し処理のための文法構造を説明する。
11回	演習問題：FOR文による繰り返し処理のためVBAプログラムを作成する。
12回	これまでに学習したIF文、SELECT文、DO WHILE文、FOR文を用いた総合的なVBAプログラミングによる演習をおこなう。
13回	EXCEL関数を利用したVBAプログラムの作成する。
14回	EXCELのグラフ機能を利用したVBAプログラムの作成する。
15回	これまでの内容を総括し、最終評価試験を実施する。
16回	最終評価試験の出題意図と解答の解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	VBAプログラムについて予習をしておくこと (標準学習時間60分)
2回	プログラミングにおける変数の役割を予習しておくこと (標準学習時間60分)
3回	プログラムの基本構造について予習をしておくこと (標準学習時間60分)
4回	IF文の文法構造について予習をしておくこと (標準学習時間60分)
5回	IF文の文法構造についてについて復習しておくこと (標準学習時間60分)
6回	SELECT文の文法構造について予習をしておくこと (標準学習時間60分)
7回	SELECT文の文法構造についてについて復習しておくこと (標準学習時間60分)
8回	DO WHILE文の文法構造について予習をしておくこと (標準学習時間60分)
9回	DO WHILE文の文法構造についてについて復習しておくこと (標準学習時間60分)
10回	FOR文の文法構造について予習をしておくこと (標準学習時間60分)
11回	FOR文の文法構造についてについて復習しておくこと (標準学習時間60分)
12回	条件分岐、繰り返しのための文法について復習しておくこと (標準学習時間120分)
13回	EXCELの基本的関数の使い方を復習しておく (標準学習時間60分)
14回	EXCELのグラフ作成について復習しておく (標準学習時間60分)
15回	講義内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間180分)
16回	最終評価試験の問題を復習しておくこと (標準学習時間60分)

講義目的	VBA言語によるプログラミング実習を行う。データの入出力と簡単な四則演算、配列を使ったデータの格納方法、プログラムを作成するうえで基礎となる制御文 (条件判断や分岐、反復) を記述するための文法を学習する。そして、初等的な計算処理に関するアルゴリズムとそれを実現するためのVBAのプログラムを記述するための技術を演習で習得する。 (社会情報学科の「学位授与方針」の項目A、B、Fにもっとも強く関与する)
達成目標	基本的な処理をアルゴリズムの形で表現し、そのアルゴリズムをコンピュータ言語によって記述すること。 (社会情報学科の「学位授与方針」の項目A、B、Fにもっとも強く関与する)
キーワード	アルゴリズム、プログラミング
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	最終評価試験 (100%) により達成目標を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	学生のためのExcel VBA／若山芳三郎／東京大学出版局／978-4-501-53600-8
関連科目	応用プログラミング
参考書	なし。
連絡先	黒田研究室 A1号館8階
授業の運営方針	教科書の補助資料と演習問題は講義の際に配布するとともに、必要に応じてMomo-campusを利用して配布する。

アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習問題の解答については、講義中に模範解答を示すとともに、Momo-campusを利用して配布する。 最終評価試験のフィードバックを第16回目の講義でおこなう。その際に、解答の解説に加えて出題意図についても話す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	データ解析システム(再) (FIV01900)
英文科目名	Data Analysis System
担当教員名	大田靖 (おおたやすし)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、授業の進め方、授業内容、及び成績評価の方法を説明する。続いて、統計ソフト（エクセル等）の利用とデータについて解説する。
2回	実際に社会や経営において利用されているデータについて解説する。
3回	1変量データの視覚化の手法について解説する。特に、量的データの処理をエクセルの実習形式により説明する。
4回	1変量データの視覚化の手法について解説する。特に、質的データの処理をエクセルの実習形式により説明する。
5回	1変量データの数量化の手法を解説する。特に、基本統計量である平均値、中央値などの中央傾向の代表値、及び分散、標準偏差などの散らばり傾向の代表値についてエクセルの実習形式により説明する。
6回	2変量データの視覚化と数量化の手法を解説する。特に、量的データを用いて、散布図の書き方、共分散、相関係数などをエクセルの実習形式により説明する。
7回	2変量データの視覚化と数量化の手法を解説する。特に、質的データを用いて、クロス集計表の作り方、オッズ比の計算方法などをエクセルの実習形式により説明する。
8回	小テストとその解説を実施する。
9回	記述統計と推測統計の違いについて解説する。さらに、サンプル調査の特徴について解説する。特に、母集団と標本についてエクセルの実習形式により説明する。
10回	推測統計の考え方について具体的な例を用いて解説する。特に、区間推定、仮説検定の手法についてエクセルの実習形式により説明する。
11回	区間推定の手法について解説する。さらに、日常における区間推定の利用例（視聴率や選挙速報など）をあげ、エクセルの実習形式により説明する。
12回	仮説検定の手順について、具体例を用いて解説する。さらに、日常における仮説検定の利用例をあげ、エクセルの実習形式により説明する。
13回	クロス表と独立性検定について、具体例を用いて解説する。さらに、日常におけるクロス表と独立性の検定の利用例をあげ、エクセルの実習形式により説明する。
14回	これまでに学んだデータ分析の手法を用いて、総合的な演習を実施する。特に、各自課題を設定し、適切なデータを取得し、データ分析を行えるように、具体的な演習例をあげて解説する。
15回	前回到引き続き、これまでの内容をふまえた総合的な演習を実施する。

回数	準備学習
1回	これまで学んだ統計関係の授業内容を見直しておくこと。（標準学習時間90分）
2回	インターネット等で経営などで使われているデータについて調べておくこと。（標準学習時間90分）
3回	量的データ（1変量）のグラフについて、その用途や解釈について整理しておくこと。（標準学習時間90分）
4回	質的データ（1変量）のグラフについて、その用途や解釈について整理しておくこと。（標準学習時間90分）
5回	データ解析基礎において学んだ記述統計の内容について調べておくこと。（標準学習時間120分）
6回	変量間の関係について復習しておくこと。（標準学習時間120分）
7回	データ解析基礎において学んだクロス集計表の内容について調べておくこと。（標準学習時間90分）
8回	第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）
9回	母集団と標本についてよく復習しておくこと。（標準学習時間120分）
10回	推測統計、特に仮説検定の考え方についてよく復習しておくこと。（標準学習時間120分）
11回	視聴率や選挙速報が発表される仕組みについてインターネット等で事前に調べておくこと。（標準学習時間90分）
12回	仮説検定の仕組みについてよく復習しておくこと。（標準学習時間120分）
13回	クロス集計表を用いたカイ2乗検定についてよく復習しておくこと。（標準学習時間120分）
14回	これまでの学習内容をしっかりと理解しておくこと。（標準学習時間120分）
15回	前回の内容を補い、総合演習が完成できるように備えておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	経営学部で学ぶデータ分析の基礎的な科目として、統計解析パッケージを用いたデータ分析を身に
------	--

	つけさせることを講義目的とする。具体的には、実データを利用した1変量データと2変量データの記述統計としてのデータ分析（データの視覚化と数量化）からはじめ、その後推測統計としてのデータ分析（区間推定、比率の検定、適合度検定、独立性検定）について学ぶ。すべての学習には、統計解析パッケージを活用し、その利用手順と出力の解釈を通して、経営学部で学ぶデータ分析の基礎について学ぶ。（社会情報学科の学位授与方針項目B、Fにもっとも強く関与し、Aに強く関与する）
達成目標	① 経営で用いられるデータを意識したデータ分析の基礎を習得すること(B) ② 統計解析パッケージの基本操作をみにつけること(A) ③ 記述統計、及び推測統計について学んだ内容を統計解析パッケージで再現できること(A、F)
キーワード	統計パッケージ、データ分析、データの視覚化、データの数量化、推定・検定
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト：評価割合15%（①～③を確認）、適宜課す課題：評価割合35%（②③を確認）、総合演習：評価割合50%（①～③を確認）によって評価し、すべての課題と総合演習課題が提出されたものに対して、総計で得点率 60%以上を合格とする。
教科書	教科書は利用しない。Web等で教科書としての資料を配布する。
関連科目	データ解析基礎、情報リテラシー、社会調査入門、社会調査法
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・授業資料の配布・提出にはMomo-campusを利用する。 ・PCを利用した演習形式で実施する。 ・グループ形式で行い、自ら考える力、グループで協力する力などを身につけさせることを目標とする。 ・グループ形式で行うため、遅刻・欠席に関しては厳しく評価する。 ・毎回課題を課すため、授業外の学習に積極的に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	・コンピュータ室を利用した演習形式の授業である。 ・5～6人程度のグループ形式の授業である。 ・毎時間課題を与え、その解決法をグループでみつける課題解決型の授業である。
課題に対するフィードバック	・総合演習に対しては、講評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・「社会調査士」認定科目である。

科目名	応用プログラミング(再)【火1金1】 (FIV06100)
英文科目名	Advanced Programming
担当教員名	黒田正博 (くろだまさひろ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Rの起動と終了, 代入, 及びベクトル・行列といったデータの整形方法について説明をする。
2回	Rによる度数分布表, 及びヒストグラムの作成方法について説明をする。
3回	平均値などの代表値, 及び分散と標準偏差の計算プログラムの関数の作成方法について説明をする。 また, これらのR関数の利用方法について説明する。
4回	箱ひげ図の作成方法について説明をする。さらに, 記述統計の結果を出力するRプログラムの作成方法について説明をする。
5回	演習として, 1変量データ処理のための記述統計のRプログラムを作成する。
6回	共分散と相関係数を計算するためのRプログラムの作成方法について説明する。さらに, 散布図の作成と相関係数を計算するR関数を説明する。
7回	単回帰分析のR関数の使用方法について説明をする。さらに, 出力結果の読み方について説明をする。
8回	演習として, 2変量データ処理のための散布図作成と単回帰分析をおこなうRプログラムを作成する。
9回	重回帰分析のためのR関数の使用方法について説明をする。さらに, 出力結果の読み方について説明をする。
10回	時系列データの分析のためのRプログラムの作成方法について説明する。
11回	演習として, 経営・経済データを用いた重回帰分析及び時系列分析のためのRプログラムを作成する。
12回	クロス集計表の作成とグラフ表示のためのRプログラムを作成する。
13回	クロス集計表の解析のためのRプログラムの使用方法について説明をする。さらに, 出力結果の読み方について説明をする。
14回	演習として, 経営・経済データを用いたクロス集計表の解析のためのRプログラムを作成する。
15回	これまでの内容を総括し, 最終評価試験を実施する。
16回	最終評価試験の出題意図と解答の解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	統計解析ソフトRについて予習しておくこと (標準学習時間60分)
2回	データ解析基礎で学習した度数分布表及びヒストグラムについて復習をしておくこと (標準学習時間60分)
3回	データ解析基礎で学習した代表値と散布度について復習をしておくこと (標準学習時間60分)
4回	Rによる関数の作成方法について復習をしておくこと (標準学習時間60分)
5回	第5回目までに作成したRプログラムの処理内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)
6回	データ解析基礎で学習した相関係数と散布図について復習をしておくこと (標準学習時間60分)
7回	データ解析基礎で学習した単回帰について復習をしておくこと (標準学習時間60分)
8回	第7・8回目までに作成したRプログラムの処理内容を復習しておくこと (標準学習時間60分)
9回	データ解析基礎で学習した単回帰の復習と重回帰分析について予習をしておくこと (標準学習時間60分)
10回	時系列データの処理方法について予習をしておくこと (標準学習時間60分)
11回	重回帰分析のためのR関数と出力結果の読み方について復習をしておくこと (標準学習時間60分)
12回	データ解析基礎で学習したクロス集計表の見方について復習をしておくこと (標準学習時間60分)
13回	データ解析基礎で学習したクロス集計表の指標について復習をしておくこと (標準学習時間60分)
14回	クロス集計表の解析のためのR関数と出力結果の読み方について復習をしておくこと (標準学習時間60分)
15回	講義内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間180分)
16回	最終評価試験の問題を復習しておくこと (標準学習時間60分)

講義目的	統計解析言語Rによる繰り返し, 条件分岐などのプログラムの作成方法とベクトル・配列といったデータの整形方法について学習する。さらに, これらを用いた統計処理プログラムの作成方法を学習する。これらの方法を習得させた後に, 経営・経済の実データのための統計解析プログラムが作成できる技術を演習で習得する。(社会情報学科の学位授与方針項目C、Fにもっとも強く関与する)
達成目標	データ解析基礎で学んだデータの分析手法をプログラミングによりコンピュータ上で実装し, 処理できる能力を修得する。(社会情報学科の学位授与方針項目C、F)

キーワード	データの分析、統計解析言語R
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（100%）により達成目標を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	なし。
関連科目	プログラミング基礎、データ解析基礎、社会調査入門、社会調査法、データ解析システム、行動計量学
参考書	経済・経営系のための統計入門／景山 三平（監修）、元山 斉（編集）、伊藤 有希（編集）、高橋 一（編集）／実教出版／978-4407337112
連絡先	黒田研究室 A1号館8階
授業の運営方針	教科書の補助資料と演習問題は講義の際に配布するとともに、必要に応じてMomo-campusを利用して配布する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習問題の解答については、講義中に模範解答を示すとともに、Momo-campusを利用して配布する。 最終評価試験のフィードバックを第16回目の講義でおこなう。その際に、解答の解説に加えて出題意図についても話す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	経済原論(再) (FIV08600)
英文科目名	Elements of Economics
担当教員名	(未定) (みてい)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス。授業の進め方や経済学、さらにはミクロ経済学とマクロ経済学の違いについて説明する。
2 回	ゲーム理論の基本的な考え方を説明する。
3 回	囚人のジレンマについて説明する。
4 回	囚人のジレンマの応用として、財政問題を考える。
5 回	これまでの内容を整理する。
6 回	需要曲線がどのように導出され、また需要曲線の性質について説明する。
7 回	供給曲線がどのように導出されるのか、また供給曲線の性質について説明する。
8 回	需要曲線と供給曲線を用いて価格決定およびそのメカニズムについて説明する。 続いて第1回から第8回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。
9 回	第8回で行った価格決定を踏まえて消費者余剰、生産者余剰そして社会余剰について説明する。
1 0 回	社会余剰の応用として、政府の政策が社会余剰に及ぼす効果について説明する。
1 1 回	ミクロ編の応用として、途上国における児童労働発生メカニズムについての説明を行う。
1 2 回	内閣府が公表する国内総生産についてのデータを読み、国内総生産の定義および国内総生産の三面等価の法則について説明する。 景気循環について説明し、あわせて経済成長率がどのようにして算出されるのかについて説明する。
1 3 回	三面等価の法則を再度確認し、景気を底上げする政策について考えてみる。
1 4 回	財政政策と金融政策について説明する。
1 5 回	財政政策、金融政策について学習する。続いて第9回から第15回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。

回数	準備学習
1 回	ミクロ経済学とマクロ経済学の違いについて参考書などにより調べておくこと (標準学習時間90分)
2 回	ゲーム理論を用いるとどのような分析が行えるかについて、参考書を読み調べておくこと (標準学習時間60分)
3 回	利得表の作成の仕方および読み方を復習しておくこと (標準学習時間60分)
4 回	日本の財政をめぐる問題について調べておくこと (標準学習時間50分)
5 回	2回から4回までの内容を復習しておくこと (標準学習時間90分)
6 回	需要曲線の性質について参考書などにより調べておくこと (標準学習時間90分)
7 回	供給曲線の性質について参考書などにより調べておくこと (標準学習時間90分)
8 回	需要曲線と供給曲線を用いて、どのような分析を行うかについて参考書を用いて調べておくこと (標準学習時間90分)
9 回	消費者余剰と生産者余剰を暗記ではなく、きちんと言葉と図示によって説明できるように復習を行うこと (標準学習時間90分)
1 0 回	これまでの講義内容について、言葉と図示によってきちんと説明できるように整理しておくこと (標準学習時間90分)
1 1 回	児童労働の現状について、ユニセフのホームページなどで確認をしておくこと (標準学習時間90分)
1 2 回	国内総生産に関する新聞記事を最低でも1つは見つけて読んでおくこと (標準学習時間90分)
1 3 回	景気が良い、悪いとはどのような規準によって判断されるのかについて、自分なりに考えて整理しておくこと (標準学習時間90分)
1 4 回	財政政策と金融政策についての新聞記事を調べてみる (標準学習時間90分)

15回	講義内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）
講義目的	経済学を学ぶ上で、最も基本となるものがミクロ経済学とマクロ経済学である。本講義では、経済学をさらに学ぶために必要最低限の知識を身につけることを目的とする。そのために、需要曲線、供給曲線、社会余剰や国内総生産などの基礎的な事柄について述べる。 （社会情報学科の学位授与方針項目BとFにもっとも強く関与し、Cに強く関与する）
達成目標	①経済学の基礎的な知識を身に着け、理論的に物事が判断できるための力を養う。 ②新聞記事を読み、自分自身で政策の効果が評価できるようになるための知識を身につける。 経済学の基本的な考え方を理解し、把握して欲しい。日々取り上げられる経済ニュースには、それこそ金融を中心とした経済に関わる出来事が散見されます。本講座を履修することにより、経済ニュースの理解を深めることを期待します。 1)多様な経済学について具体的に説明できる。(A) 2)経済学に関連する事象を分析するための基本的な概念や理論について説明できる。(A,D)
キーワード	需要曲線、供給曲線、社会余剰、国内総生産
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験（第8回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）と第15回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	必要な場合は授業の中で指示をする
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、社会学
参考書	1からの経済学/中谷武、中村保/中央経済社
連絡先	連絡は、A1号館7F 学部長の山口研究室まで
授業の運営方針	この授業では経済学の基礎を学んでいくので、授業は必ず出席するよう努めること。やむを得ず遅刻・欠席する場合は担当教員に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業の振り返りでの質問や疑問点は、授業の中で取り上げてゆく。また、レポートは授業の中でコメントを付しながらフィードバックしてゆく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	(1) この講義では、レジュメはMomo-campusを通じて配布する。 (2) 講義中の録音／録画／撮影は原則禁止する。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可する。

科目名	社会情報研究Ⅰ(再) (FIV09700)
英文科目名	Socio-Information StudiesⅠ
担当教員名	村松潤一(むらまつじゅんいち)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	・オリエンテーションを行う。(4月) ・研究テーマの策定をする。(5月) ・研究テーマに必要な基本的文献の整理と収集をする。(6月～7月) ・策定した研究テーマの再検討をし、策定したテーマについてプレゼンテーションを行う。(7月)
準備学習	・各ゼミの専門に適合した科目の復習をしておくこと。 ・専門に応じた文献検索など、情報収集の手段・方法を習得しておくこと。 ・研究テーマ策定に必要な文献を読むなど情報の収集をすること。 ・研究したいと思うテーマの問題点を整理し、研究目的などを明確にプレゼンテーションできるようにすること。
講義目的	配属された指導教員の下、各教員の専門分野について、各自が研究を行い、報告書にまとめる。研究課題策定への取り組み、資料収集と整理、プレゼンテーションなど発表への取り組みなどを学ぶ。(社会情報学科の学位授与方針項目CとDにもっとも強く関与する)
達成目標	各研究室で各自で策定した課題を達成する。 1. 課題への取り組みが積極的に出来る。 2. 資料などデータ収集・整理が出来る。 3. 資料・データなどを課題研究に活かすことが出来る。
キーワード	ゼミナール、研究課題策定、資料・データ収集、資料・データ整理
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	課題テーマの取り上げ方、まとめ(プレゼンテーション)などで総合的に判断、60点以上を合格とする。
教科書	指導教員が指示する。
関連科目	社会情報研究Ⅱ(後期、必須)
参考書	指導教員が指示する。
連絡先	各指導教員または学科長
授業の運営方針	事前に課題に積極的に取り組み、それを持って指導に臨むこと。
アクティブ・ラーニング	学生自らが研究し、論文を書き、指導教員がそれらに対するフィードバックを行う。
課題に対するフィードバック	指導の中で、研究課題で行ったことに対してフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	金融、マスメディア、旅行会社、メーカーなどで長期間従事した教員が数名授業を行う
その他(注意・備考)	この講義では、適宜、課題演習を行い、理解度に応じたフィードバックを行う。講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。

科目名	社会情報研究Ⅱ(再) (FIV09800)
英文科目名	Socio-Information Studies II
担当教員名	村松潤一 (むらまつじゅんいち)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	・研究テーマにそった研究をする。 ・研究に必要なさらなる情報の収集を行う。(9月～12月) ・収集した情報を整理しつつ、さらなる情報の収集を行う。(12月～2月) ・収集した情報に基づき問題点を整理する。(2月) ・研究の進捗状況について、適時プレゼンテーションを行う。(9月～2月)
準備学習	・前期に策定した研究テーマの妥当性についてチェックしておくこと。 ・収集した情報を整理し、さらに必要な情報がないか点検すること。 ・自分が感じた問題点や疑問点は、つねにプレゼンテーションを行って、指導教員や研究仲間にも点検してもらうこと。
講義目的	配属された指導教員の下、前期に続いて、各教員の専門分野について、各自が研究を行い、報告書をまとめる。研究課題策定への取り組み、資料収集と整理、プレゼンテーションなど発表への取り組みなどを学ぶ。(社会情報学科の学位授与方針項目CとDにもっとも強く関与する)
達成目標	各研究室で各自に課せられた課題を達成する。 1. 課題への取り組みが積極的に出来る。 2. 資料などデータ収集・整理が出来る。 3. 資料、データなどを課題研究に活かすことが出来る。
キーワード	ゼミナール、研究課題策定、資料・データ収集、資料・データ整理
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	各自の研究課題テーマの取り上げ方、まとめ(プレゼンテーション)、研究内容および報告書などで総合的に判断、60点以上を合格とする。
教科書	指導教員が指示する。
関連科目	社会情報研究Ⅰ (春学期、必須)
参考書	指導教員が指示する。
連絡先	各指導教員または学科長
授業の運営方針	事前に課題に積極的に取り組み、それを持って指導に臨むこと。
アクティブ・ラーニング	学生自らが研究し、論文を書き、指導教員がそれらに対するフィードバックを行う。
課題に対するフィードバック	指導の中で、研究課題で行ったことに対してフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	金融、マスメディア、旅行会社、メーカーなどで長期間従事した教員が数名授業を行う
その他 (注意・備考)	この講義では、適宜、課題演習を行い、理解度に応じたフィードバックを行う。 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。

科目名	データ解析基礎(再)【月1木1】 (FIV12100)
英文科目名	Introduction to Data Analysis
担当教員名	黒田正博（くろだまさひろ）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	統計調査の意義と目的：統計の有用性とデータの誤用を説明する。
2 回	質的データ（1変量データ）のまとめかたと読み方について説明する。
3 回	度数分布表とヒストグラムによる調査データのまとめかたと読み方について説明する。
4 回	中央傾向を表現する代表値とその利用（平均値、中央値、最頻値など）と読み方について説明する。
5 回	散らばり傾向を表現する代表値とその利用（四分位数、分散、標準偏差、変動係数など）について説明をする。
6 回	箱ひげ図による調査データのまとめかたと読み方について説明をする。
7 回	2変量質的データの2x2クロス集計表と変量間の独立性について説明する。
8 回	2変量質的データのr× cクロス表と変量間の独立性について説明する。
9 回	多変量質的データのクロス集計表と連関性について説明する。
1 0 回	相関係数と散布図による量的データ（2変量）のまとめかたと読み方について説明する。
1 1 回	相関関係と因果関係、偏相関係数の概念について説明する。
1 2 回	線形回帰の考え方と回帰式のデータへの当てはめについて説明する。
1 3 回	線形回帰式の説明力の評価について説明する。
1 4 回	複数の要因でデータを説明する方法について説明する。
1 5 回	これまでの内容を総括し、最終評価試験を実施する。
1 6 回	最終評価試験のフィードバックとして模範解答の提示と内容についての解説をする。

回数	準備学習
1 回	統計調査の方法について予習しておくこと（標準学習時間60分）
2 回	質的データとはどのような性質を持っているか予習しておくこと（標準学習時間60分）
3 回	代表的なデータのまとめ方を予習しておくこと（標準学習時間60分）
4 回	データの分布を調べることで何が得られるかを予習しておくこと（標準学習時間60分）
5 回	データの散布度を調べることで何が得られるかを予習しておくこと（標準学習時間60分）
6 回	データの散布度の視覚的な表現とその読み方を予習しておくこと（標準学習時間60分）
7 回	クロス集計表の性質を予習しておくこと（標準学習時間60分）
8 回	r× c集計表はどのようにして作成するかを理解しておくこと（標準学習時間60分）
9 回	連関性と独立性の意味の違いを予習しておくこと（標準学習時間60分）
1 0 回	量的データはどのような特徴を持っているかを予習しておくこと（標準学習時間60分）
1 1 回	因果関係と相関関係の意味を調べ、違いを理解しておくこと（標準学習時間60分）
1 2 回	相関係数の意味を復習しておくこと（標準学習時間60分）
1 3 回	線形回帰式の意味について復習しておくこと（標準学習時間90分）
1 4 回	決定係数の意味および決定係数と相関係数の関係について理解をしておくこと（標準学習時間90分）
1 5 回	講義内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）
1 6 回	最終評価試験の問題を再考し、講義内容を再確認すること（標準学習時間180分）

講義目的	社会調査あるいは調査報告で得られたデータの集計方法としての度数分布表の作成法と読み方、グラフの読み方、平均値、分散などの基本統計量の算出と読み取りなど記述統計の基礎を学んだのち、質的データに対するクロス集計表の作成とその解釈について学習する。また、相関係数の読み方と擬似相関の存在、因果関係と相関関係の違いについても言及する。さらに、線形回帰によるデータの当てはめと、その評価方法についても学ぶ。（社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目Aにもっとも深く関与している）
達成目標	1) データからの情報抽出とデータ処理に必要な統計的手法を用いることができる。（社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目A） 2) 統計データの読み方や統計的仮説の検証方法や、予測に関する統計手法を目的に合わせて用いることができる。（社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目A）
キーワード	調査データのまとめかた（データ集計と視覚化）、相関関係と連関関係、因果関係、線形回帰
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（100%）により達成目標 1)、2) を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	経済・経営系のための統計入門 / 景山三平（監修）・元山斉（編集）・伊藤有希（編集）・高橋 一

	(編集)／実教出版／978-4407337112
関連科目	本科目に引続き「社会情報入門」「社会調査法」「データ解析システム」「行動計量学」を受講することが望ましい。
参考書	なし。
連絡先	黒田研究室 A1号館8階
授業の運営方針	・教科書の補助資料と演習問題は講義の際に配布するとともに、必要に応じてMomo-campusを利用して配布する。 ・統計検定3級で出題された問題を使った演習を講義中におこなう。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習問題の解答については、講義中に模範解答を示すとともに、Momo-campusを利用して配布する。最終評価試験のフィードバックを第16回目の講義でおこなう。その際に、解答の解説に加えて出題意図についても話す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1) 「社会調査士」の認定科目である。 2) 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。

科目名	国際経済論(再)【金3金4】(FIV12900)
英文科目名	International Economics
担当教員名	栗原理* (くりはらおさむ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	貿易などをとおして、世界的な経常収支不均衡が生じている。一国における国内総生産を総支出の面から俯瞰し、経常収支と国際経済についての関連を考える。
2回	国際的な資金の移動について考える。
3回	国際金融取引と国際収支について考える。
4回	国際金融取引と貯蓄・投資について考える。
5回	外国為替レート決定について考える。
6回	購買力平価から外為レートについて考える。
7回	金利平価から外国為替レートについて考える。
8回	外国為替レートの安定について考える。
9回	マクロ経済政策と為替介入について考える。
10回	通貨危機のメカニズムについて考える。
11回	国際通貨制度について考える。
12回	為替レート制度について考える。
13回	通貨統合について考える。
14回	経済開発について説明する。経済発展の源泉とは何かについて考える。
15回	これまでの内容を総括し、最終評価試験を実施する。
16回	最終評価試験の出題趣旨と解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	国内総生産について復習をしておく。(標準学習時間90分)
2回	一国の経常収支が国際経済の中で、どういった現象として現れるのかを復習しておく。(標準学習時間90分)
3回	物・サービスの移動を伴う対外的な金融取引や資本取引をとおして資金が移動していくことを復習しておく。(標準学習時間90分)
4回	国際収支の各項目を復習しておく。(標準学習時間90分)
5回	消費、貯蓄、投資と利率との関連を復習しておく。(標準学習時間90分)
6回	貿易に伴って変動する外国為替レートについて復習しておく。(標準学習時間90分)
7回	物価水準の相違が外国為替レートに変動をもたらすことを復習しておく。(標準学習時間90分)
8回	利率の相違がと外国為替レートに変動をもたらすことを復習しておく。(標準学習時間90分)
9回	財政政策、金融政策について復習しておく。(標準学習時間90分)
10回	財政政策と金融政策、ならびに通貨当局による為替介入について復習しておく。(標準学習時間90分)
11回	国際政策協調がなぜ重要であるかについて復習をしておく。(標準学習時間90分)
12回	基軸通貨ドル体制の特徴について復習しておく。(標準学習時間90分)
13回	外国為替レートが変動することの長所について復習しておく。(標準学習時間90分)
14回	通貨統合と財政規律について復習しておく。(標準学習時間90分)
15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておく。(標準学習時間90分)
16回	最終評価試験に備え、復習しておく。

講義目的	15回の講義を行う。国際金融論に必要な基礎知識として、マクロ経済学の基礎的な事項を再確認しながら、それらの知識をもとにして、外国為替の仕組みと形態、外国為替相場、外国為替市場、為替リスクヘッジの手段と方法、国際収支の仕組み、為替相場決定理論等を紹介する。また、関連する時事問題を随時とりあげて紹介することにより、国際的な政治・経済上のでき事を金融の視点から考察する。(経営学科の学位授与方針の項目Aにもっとも強く関与し、項目Dに強く関与する)
達成目標	1) 国際金融に関わる基礎的な理論を学習することをとおして、さまざまな国際金融のしくみや意味を具体的に説明できる。(A) 2) 国際金融に関連する時事問題を、国際的な政治・経済上のでき事を金融の視点から考察できる。(A,D) (() 内は経営学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	貿易、国際収支、経常収支、貿易収支、外国為替
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	適宜課すレポート課題(40%)および、最終評価試験(60%)で達成目標 1), 2)を確認し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。

関連科目	経済学関連講義、アジアの産業と市場
参考書	ゼミナール国際経済入門／伊藤元重／日本経済新聞社／978-4532132880
連絡先	教務課にお尋ねください。
授業の運営方針	講義形式の授業が中心となるが、必要に応じて視聴覚教材を活用する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終評価試験終了後、出題の趣旨、試験中の机間巡視における気づき、不足している部分に対する復習を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。学生に不利益とならぬよう合理的配慮を行うとともに、支援を行います。 原則として講義中の録音・録画・撮影については不許可とする。但し、相当な理由がある場合は個別に申し出てください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	国際経済論は理論科目です。そのため、授業に欠席すると理解できなくなる恐れがあります。このことが理解できる学生の受講を歓迎します。

科目名	社会調査法(再)【火1金1】 (FIV13500)
英文科目名	Social Research Methods
担当教員名	大田靖 (おおたやすし)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の進め方、授業内容、及び成績評価の方法を説明する。続いて、社会調査の意義と用途について解説する。
2 回	アンケート調査の作り方について、具体的な例をテーマとして解説する。
3 回	アンケートデータの集計・分析方法について、実際にアンケートデータを用いて説明する。
4 回	アンケート分析における仮説の設定方法について、具体的な例を用いて説明する。
5 回	アンケート分析における設定された仮説に適したデータ分析の方法について、具体的な例を用いて説明する。
6 回	母集団と標本および標本抽出の考え方とその方法について、具体的な例をあげて説明する。
7 回	調査結果から読み取れること、及びそのまとめ方について説明する。
8 回	小テストとその解説を実施する。
9 回	実際の調査例として、国税庁調査等の公的統計、世論調査、学術調査、動向調査の具体例について解説する。
1 0 回	実際の調査例として、マーケティングリサーチ、Web調査の具体例と特徴について解説する。
1 1 回	統計処理の実例として、集団の特徴の把握、データの要約と表現の仕方について解説する。
1 2 回	統計処理の基礎として、変量間の関係把握の方法について解説する。
1 3 回	統計処理の基礎として標本と推定について解説する。
1 4 回	統計処理の基礎として、推定と仮説検定の考え方について解説する。
1 5 回	まとめの演習、及びその後にフィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	社会調査入門の内容をよく復習しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	インターネット等でアンケートの作り方・注意すること等について調べておくこと。(標準学習時間90分)
3 回	アンケートデータの集計・分析の方法例について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	社会調査を実施する際にどのような仮説が適切か調べておくこと。(標準学習時間90分)
5 回	身近にあるアンケート等の調査票を探し、その分析方法について調べておくこと。(標準学習時間90分)
6 回	母集団と標本の違いを明らかにしておくこと。(標準予習時間120分)
7 回	「データ解析基礎」「情報リテラシー」等で学んだ当部分について、よく復習しておくこと。さらに、調査結果がどのようにまとめられているかをインターネット等で調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	実際に行われている社会調査をインターネット等で調べておくこと。(標準学習時間90分)
1 0 回	特に、企業などの経営分析に関して、Web等で行われている社会調査の例をいくつか調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	「データ解析基礎」「情報リテラシー」等で学んだ該当部分について、よく復習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	「データ解析基礎」「情報リテラシー」等で学んだ該当部分について、よく復習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	「データ解析基礎」で学んだ該当部分について、よく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
1 4 回	「データ解析基礎」で学んだ該当部分について、よく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
1 5 回	1 回～14 回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	社会調査とは何か？どのようなことができ、どのような学びが必要か？など、社会調査全体を鳥瞰し、社会調査の意義や目的を理解することを目的とする。 はじめに、社会調査の意義、歴史、類型、調査倫理、官庁統計などの各種調査やマーケティングなどでの利用事例を取り上げ、社会調査全般にわたって学習する。その後、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項にも触れ、標本調査の考え方を基に、データの要約と関係の把握(記述統計)や推定・検定などのデータ処理方法(推測統計)についても、その概要と考え方を学習する。(社会情報学科の学位授与方針項目 A、F にもっとも強く関与、項目 C に強く関与する。)
達成目標	① 社会調査の基本的概念を習得すること(C、F)

	② 社会調査の一連の過程を理解し、正しい調査票が作れるようになること(C,F) ③ データの要約と推定・検定について理解し、目的に応じたデータ処理ができるようになること(A)
キーワード	社会調査、調査倫理、標本調査、データ処理、推定・検定
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト：評価割合15%（①～③を確認）、適宜課す課題：評価割合35%（②③を確認）、まとめの演習：評価割合50%（①～③を確認）によって評価し、すべての課題とまとめの演習課題が提出されたものに対して、総計で得点率 60%以上を合格とする。
教科書	利用しない。プリント等を授業時に適宜配布する。
関連科目	データ解析基礎、情報リテラシー、社会調査入門
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・パワーポイントと黒板を利用した演習形式で実施する。 ・演習形式で行うので、発表等で積極的な参加を期待する。 ・実際のアンケート等を用いて、実践力を身につけさせることを念頭において授業を進める。 ・授業は、お互いの意思疎通を図りながら進めるので、パワーポイント等の撮影は禁止する。 ・毎回課題を課すため、授業外の学習に積極的に取り組むこと。 ・授業では電卓を利用する予定である。
アクティブ・ラーニング	・教員対学生、学生対学生の相互作用による新たな発見を期待した課題解決型の演習形式の授業である。
課題に対するフィードバック	・総合演習に対しては、講評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・「社会調査士」認定科目である。

科目名	電子計算機(再) (FIV13900)
英文科目名	Computer Science
担当教員名	水谷直樹 (みずたになおき)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	コンピュータのしくみについて概説する。
2 回	中央処理装置 (CPU) の役割について説明する。
3 回	主記憶装置 (メインメモリ) とキャッシュメモリの役割について説明する。
4 回	外部補助記憶装置について説明する。
5 回	キーボードやマウス, スキャナなどの入力装置について説明する。
6 回	ディスプレイやプリンタなどの出力装置について説明する。
7 回	基本ソフトウェア (OS) について説明する。
8 回	コンピュータを構成するコンポーネントについて説明する。
9 回	コンピュータを構成する部品の役割およびそれぞれの性能評価について説明する。
10 回	パソコン用コンピュータ部品について、事例を紹介しながら説明する。
11 回	オペレーションシステムの役割を解説する。
12 回	コンピュータのOSの設定を通じて、OSの役割を解説する。
13 回	プログラミング実習を行うための、各種の設定および実習方法を理解する。
14 回	プログラミング実習を通じて、コンピュータの特性を解説する。
15 回	ライブラリを活用するプログラミング実習を通じて、コンピュータの特性を解説する。

回数	準備学習
1 回	コンピュータの5大装置について予習すること。(標準学習時間1時間)
2 回	CPUの役割について予習すること。(標準学習時間1.5時間)
3 回	メモリとキャッシュメモリについて予習すること。(標準学習時間1.5時間)
4 回	外部補助記憶装置について予習すること。(標準学習時間1.5時間)
5 回	パソコンに接続できる入力装置について調べる。(標準学習時間1.5時間)
6 回	ディスプレイの解像度の意味を調べる。(標準学習時間1時間)
7 回	OSの種類について調べる。(標準学習時間1.5時間)
8 回	コンピュータを構成する部品の種類について調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)
9 回	コンピュータを構成する部品の接続関係を確認しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
10 回	コンピュータの仕様表を作成しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
11 回	コンピュータのBIOS画面を確認し、コンピュータのハードウェア構成を読み取っておくこと。(標準学習時間1.5時間)
12 回	コンピュータのOSの設定項目をまとめること。(標準学習時間1.5時間)
13 回	プログラミング言語の種類について調べる。(標準学習時間1.5時間)
14 回	1～n までの数の合計を表示するプログラムを作成しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
15 回	プログラムのライブラリとして、どのようなものがあるか調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)

講義目的	情報社会において必要とされるコンピュータに関して、主にハードウェアの機能と役割、動作原理の基礎知識を学ぶ。また、ハードウェアを動かすオペレーティングシステムがどのように働いているか学習する。さらに、基礎的なプログラミングに関する知識も学ぶ。(社会情報学科の学位授与方針項目 A および F にもっとも強く関与する)
達成目標	(1)コンピュータのハードウェアの仕組みを説明できる。(A,F) (2)コンピュータを構成する主要部品の機能を説明できる。(A,F) (3)ソフトウェアの種類、オペレーティングシステムの役割を説明できる。(A,F) (4)プログラムが動作するしくみを説明できる。(A,F) () 内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	ハードウェア、CPU、メモリ、ソフトウェア、オペレーティングシステム
試験実施	実施しない
成績評価 (合格基準60点)	授業の中での課題提出(30%)および適宜実施する小テスト(70%)により達成目標(1),(2),(3),(4)を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。
教科書	使わない
関連科目	情報科学
参考書	授業の中で紹介する
連絡先	水谷研究室 A1号館8階 (mizutani@mgt.ous.ac.jp) オフィスアワーは mylog portfolio 掲載のオフィスアワー欄を参照のこと。

授業の運営方針	少人数授業なので、欠席する場合は、事前に担当教員宛にメールにてその旨を連絡すること。
アクティブ・ラーニング	若干名の受講者を想定した少人数授業であり、アクティブラーニングとしてパソコンの分解（組立）実習を実施する予定である。
課題に対するフィードバック	本科目の受講者数は若干名と想定しており、課題および小テストはその場で評価することによりフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	社会情報学科の必修科目である。

科目名	情報科学(再)【月1木1】 (FIV14000)
英文科目名	Information Science
担当教員名	水谷直樹 (みずたになおき)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、講義の概要を説明する。
2 回	データサイエンス分野を学ぶ上で必要となる数学を学ぶ。(連立方程式、連立不等式)
3 回	データサイエンス分野を学ぶ上で必要となる数学を学ぶ。(1 次関数、平方根、総和)
4 回	データサイエンス分野を学ぶ上で必要となる数学を学ぶ。(順列、組み合わせ、確率)
5 回	コンピュータの進化の歴史について説明する。
6 回	コンピュータ関連分野における各種の規格とデファクト・スタンダードについて説明する。
7 回	コンピュータにおける情報の表現方法について説明する。
8 回	インターネットのしくみを説明する。
9 回	WWWおよび検索エンジンについて説明する。
1 0 回	電子メールについて説明する。
1 1 回	クラウドコンピューティングについて説明する。
1 2 回	モノのインターネット化と人工知能の活用について解説する。
1 3 回	電子商取引と電子決済・電子マネーの動向について解説する。
1 4 回	情報関連法規とセキュリティについて解説する。
1 5 回	全体のまとめを行う。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	日常生活において、コンピュータあるいはスマートフォンをどのようなことに使っているか、またその際に使うプログラム名またはアプリ名をリストアップしておくこと。(標準学習時間1時間)
2 回	連立方程式(線形、3変数まで)の解き方を復習しておくこと。連立不等式(線形、2変数)の解き方を復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
3 回	1次関数 $y = ax + b$ で、 a および b の値が与えられた場合に、グラフが書けるように復習しておくこと。ルート(平方根)、シグマ記号(総和)の意味を確認しておくこと。(標準学習時間1時間)
4 回	順列、組み合わせ、確率について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
5 回	コンピュータおよびインターネットが誕生した社会背景およびコンピュータの進化のスピードを説明できるようにしておくこと。 コンピュータおよびスマートフォンのOSとしてどのようなものがあるか調べておくこと。(標準学習時間1時間)
6 回	ネットワーク外部性について復習を行うこと。 デジタルとアナログの違いについて予習を行うこと。(標準学習時間1.5時間)
7 回	コンピュータ内部における各種情報がどのように表現されているか復習すること。 コンピュータをインターネットにつなぐ際の設定項目について調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)
8 回	IPアドレスの意味、ルーター、DNSの役割について復習すること。 ブラウザでサイトを閲覧する際に、ブラウザのアドレスバーに表示されるアドレスの特徴をつかんでおくこと。(標準予習時間1時間)
9 回	プロトコルおよびHTTPについて復習を行うこと。 代表的検索エンジンであるGoogleとYahoo!を使って同一用語を検索して、広告表示など両検索エンジンが表示する結果の違いを確認しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
1 0 回	電子メールに関する問題点を復習すること。 データベースを活用することによって実現されているサービスを列挙しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
1 1 回	アプリケーションソフトの中のブラウザの位置づけについて復習を行うこと。 人工知能の応用例を調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)
1 2 回	コンピュータ以外のものがインターネットにつながるものの利便性について復習しておくこと。 電子マネーとしての学生証または交通系カードにおける金銭授受の手続きを説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1時間)
1 3 回	電子商取引の利便性について復習しておくこと。 インターネットを利用する際に必要となるセキュリティに関する知識を整理しておくこと。(標準

	学習時間1.5時間)
14回	コンピュータ利用におけるセキュリティ水準向上のための方策について復習を行うこと。 情報リテラシーのうち、コンピュータ・リテラシーとメディア・リテラシーのそれぞれを説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1.5時間)
15回	これまで学んできた内容の中で、理解できていないところを明確にしておくこと。(標準学習時間1時間)
16回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間2時間)

講義目的	情報科学は、現代の情報通信技術の中核をなす学問分野で、現代社会で生活するすべての人にとって必要不可欠なものである。本講義では、情報科学分野を初めて学ぶ学生を対象として、コンピュータを効率的に扱うための知識蓄積を念頭に、コンピュータおよびインターネットの基本的なしくみを修得することを目指し、情報科学の基礎的用語や概念を修得する。そして、それら技術のビジネスへの応用や社会の変化について理解が深まるよう講義を行う。(社会情報学科の学位授与方針項目 A および F にもっとも強く関与する。)
達成目標	1) コンピュータおよびインターネットについての概要を簡単に説明できる。(A,F) 2) ICTによる社会の変化を理解し説明できる。(A,F) 3) 現在進行しているICT分野の動向を理解し説明できる。(A,F) ()内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	コンピュータ、インターネット、ICT
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	小テスト 30%、最終評価試験 70% によって達成目標 1), 2), 3) を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	配布する資料により講義を行う。
関連科目	プログラミング基礎、応用プログラミング、経営情報、経営システム
参考書	授業の中で紹介する。
連絡先	A1号館8階 水谷研究室 (mizutani@mgt.ous.ac.jp) オフィスアワーは mylog portfolio 掲載のオフィスアワー欄を参照のこと。
授業の運営方針	授業内に適宜実施する小テストは、必ず提出すること。
アクティブ・ラーニング	授業では、学習管理システムを使ったアクティブラーニングを適宜取り入れる予定である。
課題に対するフィードバック	小テストなどのフィードバックは、適宜momo-campusを活用する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	社会情報学科の必修科目である。

科目名	情報システム(再)【月3木3】 (FIV14100)
英文科目名	Information System
担当教員名	黒田正博 (くろだまさひろ)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。経営科学とは何かを説明する。
2 回	線形計画法によるモデル化について予習をしておくこと (標準学習時間60分)
3 回	線形計画法の解法について説明するとともに、確認のための練習問題を解く。
4 回	輸送問題のためのネットワーク解析について説明する。
5 回	最短経路問題を解くための基本アルゴリズムについて説明をするとともに、確認のための練習問題を解く。
6 回	待ち行列理論によるモデル化と確率分布について予習をしておくこと (標準学習時間60分)
7 回	教科書の例題を解くことで、理解を確実にしておくこと (標準学習時間90分)
8 回	2つの在庫管理モデル化の違いを理解し、用いられる解法を予習をしておくこと (標準学習時間60分)
9 回	教科書の例題を解くことで、理解を確実にしておくこと (標準学習時間90分)
10 回	物価指数および株式市場での指数などの経営統計量と指数について説明する。
11 回	平滑化モデルによる時系列データの解析方法について説明する。
12 回	重回帰モデルを用いた時系列データの解析方法について説明する。
13 回	計量経済モデルを用いた時系列データの解析方法について説明する。
14 回	時系列データの解析方法を復習するとともに、確認のための練習問題を解く。
15 回	これまでの内容を総括し、最終評価試験を実施する。
16 回	最終評価試験の出題意図と解答の解説をおこなう。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認をするとともに、線形計画法が有用な経営における場面を予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	練習問題を解くことで、線形計画法の解法の理解を確実にしておくこと (標準学習時間90分)
4 回	ネットワーク解析で考える(1)最短経路問題、(2)最小・スパニング・ツリー問題、(3)最大フロー問題について予習をしておくこと (標準学習時間60分)
5 回	教科書の例題を解くことで、理解を確実にしておくこと (標準学習時間90分)
10 回	経済および経営指標の定義と意味について予習しておくこと (標準学習時間90分)
11 回	平滑化モデルを調べておくこと (標準学習時間60分)
12 回	平滑化モデルの練習問題を解くことで理解を確実にしておくとともに、重回帰モデルを調べておくこと (標準学習時間90分)
13 回	重回帰モデルの練習問題を解くことで、理解を確実にしておくとともに、計量経済モデルを調べておくこと (標準学習時間90分)
14 回	計量経済モデルの練習問題を解くことで、理解を確実にしておくこと (標準学習時間60分)
15 回	講義内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間180分)
16 回	最終評価試験の問題を復習しておくこと (標準学習時間90分)

講義目的	経営システムは、経営活動において生じる様々な問題を数学理論に基づく科学的方法や、合理的な意思決定によりで解決を図るための学問である。実際には、経営学、経済学、数学などの分野での考え方や理論を用いて、数学モデルを立て、コンピュータを使ってそのモデルを解析し、問題を解明していく。この講義では、よく用いられる数学モデルとその解法について説明する。(社会情報学科の「学位授与方針」の項目A、B、Fにもっとも強く関与する)
達成目標	経営活動で生じる問題に対し、その解決方法としての数学モデルとその解法を理解することを目標とし、経営分野における数理的問題解決のための方法に関する基礎知識を習得する。(社会情報学科の「学位授与方針」の項目A、B、F)
キーワード	線形計画法、輸送問題、待ち行列と在庫管理、時系列データの解析
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	最終評価試験 (100%) により達成目標を評価し、60%以上を合格とする。
教科書	入門経営科学—EXCELによる演習 (改訂版) / 宮川公男・野々山隆幸・佐藤修 / 実教出版 / 978-4407316957
関連科目	経営情報
参考書	なし。
連絡先	黒田研究室 A1号館8階

授業の運営方針	教科書の補助資料と演習問題は講義の際に配布するとともに、必要に応じてMomo-campusを利用して配布する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	演習問題の解答については、講義中に模範解答を示すとともに、Momo-campusを利用して配布する。 最終評価試験のフィードバックを第16回目の講義でおこなう。その際に、解答の解説に加えて出題意図についても話す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	コミュニケーション(再)【火3火4】 (FIV14200)
英文科目名	Communication
担当教員名	八木力俊* (やぎりきとし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「オリエンテーション」～本講座の目的とゴール及び講義の進め方について説明する
2回	「コミュニケーションとは何か」～コミュニケーションの定義と社会の中で果たす役割について学習する
3回	「コミュニケーションと情報伝達」～コミュニケーションを情報伝達という面から学習する。伝え方や価値観などによる情報の密度をペアで体感する
4回	「話すこと聴くことについて」～ワークを通じて話し方、聴き方を学ぶ。ペアによる演習にて体得する
5回	「言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションについて」非言語コミュニケーションを通じて日常会話や言語コミュニケーションの重要性を学習する
6回	「人とのかかわる時の心理」～コミュニケーションにおける対人配慮（ポライトネス）の理論を学習する。アサーションの演習を通じて日常で使えるように練習する
7回	「挨拶を考える」～日常のあいさつをコミュニケーション論的な観点から学習する。挨拶の意味や方法を学び、ペアによる演習にて体得する
8回	「創造的コミュニケーションを学ぶ」～ダイアログ（対話）について学習しグループワークを通じて体験する
9回	「ビジネスシーンにおけるコミュニケーション」～言葉の選択や場面に応じた使い方について学ぶ。演習を通じて理解する
10回	「交渉」におけるコミュニケーションを学ぶ。「統合型交渉」を中心に、双方が利益を得る方法について学習する
11回	「ミーティングにおけるコミュニケーション」～ファシリテーションについて学習する。グループワークにて体験する
12回	「プロジェクトにおけるコミュニケーション」～合意形成についてグループワークを行う。進め方や発言方法などを学習する
13回	「プレゼンテーションにおけるコミュニケーションⅠ」～プレゼンテーションの基本、表現方法について学習する。グループで声を出し身振り手振りで表現する練習を行う。発表に向けて準備する
14回	「プレゼンテーションにおけるコミュニケーションⅡ」～プレゼンテーションの発表を体験する。メンバーによるフィードバックによりできているところとできていないところを確認する
15回	「ナラティブアプローチにおけるコミュニケーション」～物語の力や効果について学習する。自らのストーリーを語り特徴や効果を理解する
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業の内容をよく確認しておくこと、コミュニケーションについて自分の言葉で説明できるよう整理しておくこと（標準学習時間60分）
2回	授業の内容をよく確認しておくこと、コミュニケーションについて自分の言葉で説明できるよう整理しておくこと（標準学習時間60分）
3回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること（標準学習時間60分）
4回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること（標準学習時間60分）
5回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること（標準学習時間60分）
6回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること（標準学習時間60分）
7回	日常生活の「挨拶」についてどのような種類があるか考えておくこと（標準学習時間30分）
8回	社会で求められるコミュニケーション力とは何かについて考えておくこと（標準学習時間60分）
9回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること（標準学習時間60分）
10回	「交渉」について事前に調べておく。身近に起きた交渉事例について調べておくこと（標準学習時間60分）
11回	就職活動のグループディスカッションにはどのようなものがあるか調べておくこと（標準学習時間60分）
12回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること（標準学習時間60分）
13回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること（標準学習時間60分）
14回	発表に向けての準備を行って授業に参加すること（標準学習時間90分）
15回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること（標準学習時間60分）
16回	過去の配布資料を参考にして講義内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）

講義目的	様々な社会状況の中で、人付き合いや人間関係に不安や悩みを持つ人たちが増えている。そこでコミュニケーションを科学的に捉え、家庭、学校、職場などで効果的なコミュニケーションとは何かについて理解し、基本的なコミュニケーション能力を身に付けることを本講義の目的とする。学位授与方針項目B にもっとも強く関与する。 にある程度関与する。（社会情報学科の学位授与方針項目Bに強く関与する。）
達成目標	①コミュニケーションに関する基礎を理解し日常生活で活用することができる（B） ②学習と演習により効果的なプレゼンテーションを行うことができる（D） ③問題や課題を解決し相手に分かりやすく伝えることができる（D） ④ミーティングやネゴシエーションの進め方を理解し実践することができる（B） ⑤相手に配慮したコミュニケーション技術を学び接することができる（B）
キーワード	自己分析、就活、社会人基礎力、ライフシフト、コミュニケーション、プレゼンテーション、ディスカッション
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する。達成目標①～⑤を確認し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	各回の講義で必要に応じてプリントを配布する。
関連科目	実践キャリア学Ⅰ、Ⅱを受講することでこの授業の意味が更に深く理解できると考える。
参考書	特になし
連絡先	A 1 号館 7 階 山口研究室
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい。 ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める。 ・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい。 ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う。 ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する。 ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する。
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい。

科目名	情報メディア(再)【月1木1】(FIV14300)
英文科目名	Information Media
担当教員名	八木一郎(やぎいちろう)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の内容、進め方、成績評価の方針について把握する。続いて、メディアとは何か、その歴史的な変遷や現代社会における役割などについて理解する。
2回	メディアの基礎である文字の誕生について学ぶ。言語によるコミュニケーションの時代から文字が誕生した背景を、メソポタミアやエジプト、中国・黄河などの古代文明の政治、経済、社会の動きから理解する。
3回	アルファベットの誕生、そして文字を駆使したプラトンをはじめとしたギリシャの思想家について学習する。プラトン以前の口承文化についても学び、口承と文字の思考様式を比較し、その特性を理解する。
4回	「声の文化」と「文字の文化」について、ウォルター・オングの理論を基に、それぞれの特性を学ぶ。記憶、言葉、聴覚、視覚といった要素が人々の認識や思考様式に及ぼす影響、効果などについて理解する。
5回	書の収集と書写材料について学習する。書かれた文書を収集する図書館の誕生、文書を書き写す材料として、紙の前身であったパピルスの歴史や特性について学び、写本という本の形態の貴重性を理解する。
6回	写本の歴史について学習する。西欧でキリスト教が広がる中、写本制作は修道院の工房が中心となり、やがて大学へと世俗化していく歴史を学習する。パピルスから羊皮紙への書写材料の変遷も学ぶ。
7回	紙の伝播と印刷について学習する。中国で発明された紙が中国の律令政治をきっかけに普及し始め、さらに中東から西欧へと伝播していく経緯を理解する。続く活版印刷術の発明につながっていく背景について学ぶ。
8回	グーテンベルクによる活版印刷技術の発明と社会に与えた影響について学ぶ。活字本の普及が情報伝達における革命であったこと、それは書物の在り方や人々の意識の変容をもたらしたことを理解する。
9回	17世紀のイギリス社会の政治的な混乱期に、人々の情報ニーズの高まりの中で印刷物が必要とされ、近代ジャーナリズムの誕生につながっていくことを理解する。その流れは米国の独立、フランス革命などにも影響し、絶対王政から市民社会を築く原動力となったことを学ぶ。
10回	視覚メディアについて学習する。カメラや写真、映画といった光学的な新しい技術によって、人間の視覚が経験する新しい世界の誕生について理解する。
11回	電気メディアの歴史について学習する。近代的な情報技術の始まりを学び、電信技術の実用化や社会への影響について理解する。
12回	マスメディアの時代の到来について学習する。西欧は市民革命を経て、自由主義とナショナリズムが台頭する大きな転換点を迎える。マスメディアが大衆社会にどのような影響を与えたか、世論はどのように形成されたかを理解する。
13回	プロパガンダと戦争について学習する。政府にとってマスメディアは世論操作の手段となり、メディアは大衆を誘導するプロパガンダの役割を担うようになったことを理解する。
14回	テレビとインターネットの歴史について学習する。映像の送信技術が1920年代から始まり、戦後はテレビの時代が本格化。一方で、インターネットの開発も進み、21世紀になると新しい情報環境が生まれてきたことを理解する。
15回	インターネットがもたらした社会的な影響について学習する。情報をめぐる現代の革命として、かつての印刷革命と比較検証することで、ネット革命の実情や課題について学ぶ。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。授業の内容を確かめ、自分の関心のある内容についてまとめておくこと。復習：メディアの歴史的な変遷や現代社会におけるメディアの役割について授業の内容をまとめたノートを作ること。(標準学習時間120分)
2回	予習：メソポタミア、エジプト、中国・黄河の古代文明の歴史について、その前後の歴史を含めて大まかな流れを調べておくこと。復習：文字が誕生した政治的、経済的、社会的な背景についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
3回	予習：アルファベットの誕生から古代ギリシャが隆盛するまでの歴史の流れを調べておくこと。復習：ホメロス、ソクラテス、プラトンなどの古代ギリシャの詩人、哲学者たちの文字をめぐる思考様式の特性をまとめておくこと。(標準学習時間120分)
4回	予習：声と文字、それぞれによる情報伝達やコミュニケーションの特性について身近なことから考えておくこと。復習：声と文字。それぞれの特性をコミュニケーション、学習、思考様式といった

	点からまとめること。（標準学習時間120分）
5回	予習：ギリシャ世界から古代ローマにかけての歴史の流れを調べておくこと。キリスト教の布教の歴史も調べておくこと。復習：文書を書き写し、収集することによって生まれる知の営みについてまとめること。（標準学習時間120分）
6回	予習：西欧の歴史を古代ローマ帝国から中世にかけておおまかに調べておくこと。復習：印刷術のなかった時代、写本の歴史的な位置づけについてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
7回	予習：紙の発明の背景となる中国の古代の歴史について調べておくこと。復習：紙に対する必要性が中国の政治制度やアラブ・イスラム教の広がりなどを受けていることをまとめること。（標準学習時間120分）
8回	予習：活版印刷が発明された15世紀前後の西欧の歴史について調べておくこと。復習：印刷革命のもたらした社会の変容をまとめること。特にルターの宗教改革の屋台骨としての役割となったことをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
9回	予習：17世紀から19世紀にかけて、絶対王政から市民革命を経て、さらに産業革命へ進んでいく西欧の歴史を調べておくこと。復習：新聞、雑誌、パンフレットなどの印刷された紙媒体が市民社会を形成するための思想表現活動の役割を担ったことをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
10回	予習：視覚とは何かについて調べ、写真機の技術開発の歴史について調べておくこと。復習：カメラ・オブスキュラとはどういう技術かをまとめ、写真や映画の始まりの基礎となるフィルム開発の歴史についてもまとめること。（標準学習時間120分）
11回	予習：18世紀から19世紀にかけての西欧の情報技術の歴史を調べておくこと。無線通信や電話、ラジオなどの情報技術の進歩がコミュニケーションの変化や近代国家の樹立につながったことをまとめること。（標準学習時間120分）
12回	予習：西欧における市民革命から大衆社会に至る歴史について調べておくこと。復習：新聞やラジオ、映画といったマスメディアが大衆社会にもたらした国民意識の形成など影響についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
13回	予習：19世紀末から20世紀初頭にかけての西欧の歴史について調べておくこと。復習：政府によるメディアを利用した情報宣伝がロシア革命や2度にわたる世界大戦を後押ししたことをまとめること。（標準学習時間120分）
14回	予習：第2次世界大戦開戦前後から現代にかけての世界の歴史を調べておくこと。復習：情報技術の大衆化の歴史をまとめること。インターネットの誕生の背景にあった東西冷戦といった社会背景についてまとめること。（標準学習時間120分）
15回	予習：印刷革命の歴史をあらためて調べておくこと。復習：ネット革命と印刷革命の共通点をまとめること。ネット社会の現状と問題点をまとめ、私たちが現代の情報環境の中でどう情報に向き合っていくかをまとめること。（標準学習時間120分）

講義目的	情報を伝えるメディアの歴史を「文字」や「映像」から説き起こし、変遷するメディアの社会的背景を理解するとともに、人間社会や人々の思考様式におよぼした様々な影響について理解する。情報環境の歴史的な変容から、今日のネット社会における情報の取捨選択・活用の方法などについて修得する。経営学科学位授与の方針項目のBと最も強く関与する。
達成目標	1) 印刷術発明以前の情報環境について説明できる(B)。2) 印刷術が人々の生活や思考様式に及ぼした影響について説明できる(B)。3) 近代の情報技術の発展が社会にもたらした影響について説明できる(B)。4) 日々のニュースに関心を持って接し、政治や経済、社会問題についてのリテラシーを身に付ける(A、C、D)カッコ内は経営学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	「声」の文化、「文字」の文化、表意文字、表音文字、写本、書写材料、印刷革命、宗教改革、マスメディア、視覚メディア、電気メディア、インターネット
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中の毎回実施する小テスト50%（達成目標1, 2, 3を評価）、提出課題50%（達成目標4を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	講義でプリントを配布する
関連科目	社会学、ジャーナリズム論、マスメディア論
参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A1号館6階 八木研究室
授業の運営方針	授業で配布するプリントと板書を基に、自分なりのノートを作成すること。小テストは毎回、授業の終わりに行き、その日の学習を確認する。提出課題は時事問題について毎回、テーマを定めるので、次の授業にまとめて提出すること。
アクティブ・ラーニング	ライティング
課題に対するフィードバック	提出課題は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影は原則

	認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元山陽新聞社勤務：新聞記者としての取材活動や編集業務などの実務経験を生かし、社会の仕組みや情報の重要性などへの理解を深め、リテラシー能力とニュースの読み解き方など、現代社会における情報の接し方について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	ネットワーク入門(再) (FIV14400)
英文科目名	Introduction to Computer Network
担当教員名	大田靖 (おおたやすし)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、授業の進め方、授業内容、及び成績評価の方法を説明する。続いて、TCP/IPによるコンピュータネットワークの仕組みを解説する。
2回	コンピュータネットワークで使用するIPアドレスを知ることと、数字の意味を解説する。
3回	IPアドレスの構造やネットマスク、アドレスの種類といったIPアドレスの仕組みを解説する。
4回	TCP/IPネットワークによる通信を支えるルーティング技術及び、通信で使用する機器について説明する。さらに、ルーティングに関するコンピュータ設定を解説する。
5回	経路選択で用いられるルーティングテーブルの設定方法および管理方法を学習する。
6回	小テストを行い、試験終了後に出題内容について解説する。
7回	TCP/IPネットワークにおけるパケットによるデータのやり取りについて解説する。
8回	TCP/IPネットワークにおいて大切なTCPとUDPというの技術について解説する。
9回	TCPとUDPの使い分けについて説明し、ネットワークにおいて様々な種類のデータのやり取りをするための仕組みであるポート、ポート番号について解説する。
10回	小テストを行い、試験終了後に出題内容について理解する。
11回	ICPM (インターネット制御通知プロトコル) を利用したコンピュータネットワークの状態を調査する方法について解説する。
12回	ネットワーク上のデータのやり取りで重要な役割を果たしているDNSやHTTPといった代表的なプロトコルについて解説する。
13回	TCP/IPネットワークにおけるレイヤー構造について解説し、各レイヤーの役割をTCP/IPモデルとOSI基本参照モデルについて解説する。
14回	ネットワークインターフェイス層の役割について解説する。
15回	総合的な演習を行い、その後演習内容について解説する。

回数	準備学習
1回	LANとWANの違いと調べておくこと。(標準学習時間90分)
2回	PCのネットワーク設定に必要な情報を調べておくこと。(標準学習時間90分)
3回	第2回の授業で学習したIPアドレスの構造をしっかりと理解しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	ルーティング技術のイメージをしっかりとつかんでおくこと。(標準学習時間90分)
5回	第4回授業で学習したルーティングについて理解をしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	これまでの講義内容をしっかりと復習すること。(標準予習時間120分)
7回	パケットの意味を理解しておくこと。(標準学習時間90分)
8回	TCPとUDPの違いを理解しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	TCPとUDPについて復習しておくこと。さらに、ポート、ポート番号について調べておくこと。(標準学習時間90分)
10回	第7回から第9回までの講義内容をしっかりと復習すること。(標準予習時間120分)
11回	コンピュータネットワークにおけるサーバとクライアントの役割を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
12回	自分の使っているコンピュータの接続先がどこであるかを教科書にあるコマンドを使って調べておくこと。(標準学習時間90分)
13回	コンピュータネットワークにおいて何故レイヤー構造が必要であるかを予習しておくこと。(標準学習時間90分)
14回	MACアドレスとは、どのようなアドレスであるかを予習しておくこと。(標準学習時間90分)
15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	コンピュータネットワークについて、その原理や機構を学ぶ。具体的には、ネットワークの基本であるプロトコルの階層構造と各レイヤーの役割、インターネット通信プロトコルであるTCP/IPなどパソコンで実装されているハードウェアとソフトウェア技術について理解した後、代表的なインターネットサービスについて学習する。さらに、情報セキュリティ技術やネットワークで実装されているルーティング技術の基礎的な事項について学習する。本講義では随時実習を行い、より実践的な知識と技術の習得を目指す。(社会情報学科の学位授与方針項目 C、F にもっとも強く関与、学位授与方針項目 B に強く関与する)
達成目標	① コンピュータネットワークの基本用語と基本プロトコルの理解すること(B、C、F) ② コンピュータ上のアドレスを理解すること(B、F) ③ Webやメールの仕組みを理解すること(B、F)

キーワード	IPアドレス、TCP/IP、ルーティング
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト：評価割合15%（①～③を確認）、適宜課す課題：評価割合35%（②③を確認）、総合演習：評価割合50%（①～③を確認）によって評価し、すべての課題とまとめの演習課題が提出されたものに対して、総計で得点率 60%以上を合格とする。
教科書	特に使用しない。 講義中に資料等を配布する。
関連科目	システム管理
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・パワーポイントと黒板を利用した演習形式で実施する。 ・演習形式で行うので、発表等で積極的な参加を期待する。 ・授業は、お互いの意思疎通を図りながら進めるので、パワーポイント等の撮影は禁止する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・総合演習に対しては、講評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	本講義は集中授業として行う。

科目名	システム管理(再) (FIV14500)
英文科目名	System Management
担当教員名	大田靖 (おおたやすし)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の進め方、授業内容、及び成績評価の方法を説明する。続いて、情報システムとシステム管理について概略を説明する。
2 回	情報システムの利用目的について説明する。
3 回	情報システムはどのような目的で構築されるかを説明する。
4 回	システム開発方法とその特徴を説明する。
5 回	システムの設計から完成までの一連の流れを説明する。
6 回	情報システムのプログラム開発方法とテスト、運用管理について説明する。
7 回	第1回から第6回までの内容に関する小テストを行い、終了後に出題内容について解説する。
8 回	品質管理技術などによるシステム管理におけるデータの集計方法を説明する。
9 回	コンピュータを構成しているハードウェアについて説明する。
10 回	オペレーティングシステム (OS) の役割とアプリケーションソフトウェアについて説明する。
11 回	情報システムにおけるデータベースの役割について説明する。さらに、データベース管理システムについて説明をする。
12 回	第8回から第12回までの内容に関する小テストを行い、終了後に出題内容について解説する。
13 回	一般的に用いられる関係データベースの特徴について説明をする。
14 回	情報システムにおけるLANを構成するネットワーク機器について説明する。
15 回	総合的な演習を行い、その後演習内容について解説する。

回数	準備学習
1 回	情報システムとシステム管理について簡単に調べてくること。(標準学習時間90分)
2 回	情報システムの利用目的について簡単に調べてくること。(標準学習時間90分)
3 回	情報システムの開発組織とシステム管理の役割について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	3つのシステム開発方法について予習しておくこと。(標準学習時間90分)
5 回	システム開発の特徴を整理し、相違点および特徴を復習しておくこと。(標準学習時間90分)
6 回	1情報システムのプログラム開発方法とテストの役割について予習しておくこと。(標準予習時間90分)
7 回	第1回から第6回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	データの統計的処理方法をまとめ方について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	自分が使っているコンピュータのハードウェアの仕様を確認しておくこと。(標準学習時間90分)
10 回	代表的なオペレーティングシステム (OS) を調べ、それぞれのOSの特徴をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11 回	データベースの検索サービスとYahooなどのサイトの検索サービスの違いを調べておくこと。次週に小テストを行うので、第1回から第6回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	小テストの内容、および第8回から第12回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間90分)
13 回	データベース管理システムのサービスについて復習しておくこと。(標準学習時間90分)
14 回	インターネットに接続しているコンピュータのネットワークの設定(項目)について調べておくこと。(標準学習時間90分)
15 回	1 回～14 回までの内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間180分)

講義目的	システム開発や運営・管理などのシステム管理をおこなう際に要求される知識を幅広く学習する。さらに、ファイル管理に関わるソフトウェアやデータベース、コンピュータネットワーク技術などについても学習する。システム管理に関して、情報システムやEUCにおけるシステム設計と要求分析、各種設計手法、工程管理や品質管理などの開発管理手法、さらにシステム運用と管理の理論、ファイル管理について理解を深める。次に、OSや応用ソフトウェアの種類と特徴、ソフトウェアの開発環境について学ぶ。また、ファイル管理とかわかってデータベースの応用やコンピュータネットワークについても触れる。(社会情報学科の学位授与方針項目 A、F にもっとも強く関与、学位授与方針項目 C に強く関与する)
達成目標	① システム開発や運営管理などで要求される知識を幅広く理解すること(A、C、F) ② ファイル管理に関わるソフトウェアやデータベース、ネットワーク技術の基本事項を理解する

	こと(A、C、F)
キーワード	情報システム、システム開発法、ハードウェア、ソフトウェア、データベース、インターネット
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト：評価割合15%（①～③を確認）、適宜課す課題：評価割合35%（②③を確認）、総合演習：評価割合50%（①～③を確認）によって評価し、すべての課題とまとめの演習課題が提出されたものに対して、総計で得点率 60%以上を合格とする。
教科書	特に使用しない。講義時に適宜資料を配布する。
関連科目	電子計算機、情報科学
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・パワーポイントと黒板を利用した演習形式で実施する。 ・演習形式で行うので、発表等で積極的な参加を期待する。 ・授業は、お互いの意思疎通を図りながら進めるので、パワーポイント等の撮影は禁止する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・総合演習に対しては、講評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	本講義は集中授業として行う。

科目名	データベース(再) (FIV14600)
英文科目名	Database
担当教員名	大田靖 (おおたやすし)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、授業の進め方、授業内容、及び成績評価の方法を説明する。続いて、データベースの持つべき機能および役割について学習する。
2回	関係データベースの基幹となるキーの概念と主キー、外部キーの役割を説明する。
3回	関係データベースの演算である射影、選択、結合について説明する。
4回	関係データベースの言語であるSQLについて説明する。さらにSELECT文の書き方を説明する。
5回	射影、選択、結合といった演算が、SELECT文でどのように表現されるかを解説する。
6回	小テストを行い、試験終了後に出题内容について解説する。
7回	Accessを使ってテーブルの作成方法と主キーの設定方法について説明する。
8回	作成したテーブルのデータの並び替えなどの操作を解説する。
9回	テーブルを結合するリレーションシップの作成とクエリの作成方法について解説する。
10回	第6回授業から第9回授業までの一連の操作を練習課題を用いて解説する。
11回	テーブルへのデータ入力画面の設計方法(フォーム)について説明する。
12回	クエリ演算による出力画面の設計方法(レポート)について説明する。
13回	第10回学習で用いた練習課題を使って、フォームとレポートの作成方法について解説する。
14回	Accessの組み込み関数を用いたクエリの作成方法について解説する。
15回	総合的な演習を行い、その後演習内容について解説する。

回数	準備学習
1回	システム管理のデータベースで学習した内容を復習すること。(標準学習時間60分)
2回	関係データベースの特徴、及び主キーと外部キーの役割について理解しておくこと。(標準学習時間90分)
3回	射影、選択、結合の演算について理解しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	SQLとSELECT文について簡単に調べておくこと。(標準学習時間90分)
5回	SELECT文の文法を復習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	これまでの講義内容をしっかりと復習すること。 (標準予習時間90分)
7回	Accessの起動および終了方法を確認しておくこと。(標準学習時間90分)
8回	テーブルについて復習しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	主キーと外部キー等を復習しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	第6回から第9回までの講義内容をしっかりと復習すること。(標準予習時間120分)
11回	フォームツールを利用したフォームの作成を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	レポートの作成方法を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
13回	主キーの設定、リレーションシップおよびクエリの作成方法を復習しておくこと。(標準学習時間90分)
14回	クエリについて、よく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	データベースの意義と理論、およびデータベースの有用性について理解させ、実際に目的に合ったデータベースを構築できる能力を養うことを目的とする。データファイルとデータベースについて概観したあと、データベースモデルの種類とその技術について学ぶ。特に、データベースの構築においてはリレーショナルモデルを取り上げ、そのモデルで重要な正規化とデータベース言語SQLの記述方法について、データベースソフトの実習を通して習得していく。またその実習においては、統計データベースを対象にし、ACCESSを用いて情報検索や情報管理の実際、データベースの制御・管理における具体的技術も体得していく。(社会情報学科の学位授与方針項目 C、F にもっとも強く関与、学位授与方針項目 B に強く関与する)
達成目標	① データベースの意義と理論、およびデータベースの有用性について理解すること(B、C、F) ② 目的に合ったデータベースを構築できる能力を養うこと(B、C、F)
キーワード	関係データベース、SQL、ACCESS、クエリ作成
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	小テスト：評価割合15% (①～③を確認)、適宜課す課題：評価割合35% (②③を確認)、総合演習：評価割合50% (①～③を確認) によって評価し、すべての課題と総合演習課題が提出されたも

	のに対して、総計で得点率 60%以上を合格とする。
教科書	よくわかる Microsoft Access 2016 基礎／富士通エフ・オー・エム株式会社（FOM出版）／978-4865102932
関連科目	システム管理
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
授業の運営方針	・ 授業資料の配布・提出にはMomo-campusを利用する。 ・ PCを利用した演習形式で実施する。 ・ 毎回課題を課すため、授業外の学習に積極的に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	・ コンピュータ室を利用した演習形式の授業である。
課題に対するフィードバック	・ 総合演習に対しては、講評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会情報入門(再)【月3木3】(FIV14800)
英文科目名	Introduction to Socio-Information
担当教員名	森裕一(もりゆういち)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	社会調査の意義と用途について理解する。
2回	社会調査の歴史について理解する。
3回	調査倫理について理解する。
4回	各種の調査法と実施の方法について理解する。
5回	データ獲得法(母集団と標本および標本抽出法)について理解する。
6回	質的調査と量的調査について理解する。
7回	調査の企画について理解する。
8回	前半の学習内容について確認を行う。 調査票のデザインについて理解する。
9回	分析の方法について理解する。
10回	調査結果のまとめ方とよみ方について理解する。
11回	実際の調査例(1)として、国税庁調査等の公的統計、世論調査、学術調査、動向調査の具体例について理解する。また、グループワークにより、各調査の目的と実際の調査票の比較を行う。
12回	実際の調査例(2)として、マーケティングリサーチ、Web調査の具体例と特徴について理解する。また、グループワークによって模擬調査票を作成し、その善し悪しについて議論する。
13回	統計処理の基礎(1)として、集団の特徴の把握、データの要約と表現の仕方について理解する。また、グループディスカッションによって、実際に特徴の分析を行う。
14回	統計処理の基礎(2)として、変量間の関係把握の方法について理解する。また、グループディスカッションによって、実際に関係の分析を行う。
15回	調査報告とデータの管理について理解する。 後半の学習内容について確認を行う。

回数	準備学習
1回	社会調査の事例について、各種媒体で調べておくこと(標準学習時間60分)
2回	前回の授業で習った意義を基に、以前に調べた社会調査の事例を見直すとともに、それぞれの社会調査の目的について明確にすること(標準学習時間90分)
3回	過去の社会調査における不正や事件などを、主として官公庁や報道機関の資料から調べておくこと(標準学習時間90分)
4回	これまでに調べた社会調査がとっている方法について、その特徴をまとめておくこと(標準学習時間60分)
5回	データ解析基礎などの講義を復習し、母集団と標本について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
6回	マーケティングや地域分析などで、数量に頼らない調査にどのようなものがあるかを調べ、それらの調査方法の特徴や量的調査との違いについてまとめておくこと(標準学習時間100分)
7回	実際に調査を行う際、具体的に計画や設計が自分で行えるように、そのポイントをまとめておくこと(標準学習時間90分)
8回	前半の復習をし、本時に行う確認テストで実力を確認できるようにしておくこと(学習時間120分)。また、さまざまな質問紙を見て、その質問文の作り方がどのようになっているかを見ておくこと(標準学習時間30分)
9回	データ解析基礎などの講義を復習し、既習の統計手法がどのように社会調査で利用できるかまとめておくこと(標準学習時間120分)
10回	官公庁や報道機関が実施している社会調査の報告書を見て、そのまとめ方と得られた知見の考察の仕方を見ておくこと(標準学習時間100分)
11回	あらためて官公庁や報道機関が実施している社会調査を見直し、これまでの講義で習った各観点からそれらの目標・手法・結果のまとめ方を考察しておくこと(標準学習時間90分)
12回	市場調査や企業が行う社会調査を見直し、これまでの講義で習った各観点からそれらの目標・手法・結果のまとめ方を考察しておくこと(標準学習時間90分)
13回	これまで自分が見てきた社会調査の具体例のそれぞれにおいて、どのようなデータを集め、特に、単純集計に着目し、どういった処理をしているかをまとめておくこと(標準学習時間90分)
14回	これまで自分が見てきた社会調査の具体例のそれぞれにおいて、どのようなデータを集め、特に、複合集計に着目し、どういった処理をしているかをまとめておくこと(標準学習時間90分)
15回	社会調査のアーカイブにはどのようなものがあるか調べてまとめておくこと(標準学習時間60分)。また、後半の復習をし、本時に行う確認テストで実力を確認できるようにしておくこと(学習時間)

	120分)。
講義目的	社会情報の各分野に共通するもの「調査」をとりあげ、社会調査を行う際に必要となることは何か、どのようなことができ、どのような学びが必要かなど、社会調査全体を鳥瞰し、社会調査の意義や目的を理解する。はじめに、社会調査の意義、歴史、類型、調査倫理、官庁統計などの各種調査やマーケティングなどでの利用事例を取り上げ、社会調査全般にわたって学習する。その後、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項にも触れ、標本調査の考え方を基に、データの要約と関係の把握（記述統計）や推定・検定などのデータ処理方法（推測統計）についても、その概要と考え方を学習する。（社会情報学科の学位授与方針項目BとFにもっとも強く関与し、Cに強く関与し、Aにある程度関与する）
達成目標	1) 社会調査の意義と目的について説明できる。（B） 2) 社会調査の各種方法を説明でき、目的に応じて手法を選択できる。（B） 3) 社会調査において統計がどのように活かされているかを説明できる。（F） 4) 調査票作成の留意点に基づき、目的に応じた調査票を作ることができる。（A、F） 5) 実際の問題解決場面での社会調査の活用方法が説明できる。（C）
キーワード	公的統計、市場調査、調査倫理、標本調査、ランダムサンプリング、調査票調査、ワーディング、報告書、データ分析
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	第1～7、9、10回では確認小テスト（第1回4点、他各5点）を課し、第8回と第15回では確認テスト（各20点）を行い、達成目標の1)～3)を確認する。第11～14回のグループワーク・ディスカッションでは作業後にレポート（各4点）を提出し、達成目標の4)5)を確認する。2回の確認テストは必ず受験するものとし、合計得点が60点以上を合格とする。
教科書	新・社会調査へのアプローチ論理と方法／大谷、木下、後藤、小松著／ミネルヴァ書房／9784623066544
関連科目	1年次の「データ解析基礎」に関連し、秋2の「社会調査法」、2年次の「データ解析システム」と「行動計量学」へ続き、3年次の「社会調査実習」で、社会調査とデータ分析の集大成となる演習を行うことになる。
参考書	データマイニング事例集／上田太郎／共立出版
連絡先	研究室：A1号館8階 直通電話：086-256-9652 E-mail: mori@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜日3時限
授業の運営方針	基本的に、知識の習得については、毎回の確認小テストと中間期と期末期の確認テストで確認する。また、応用については、第11～14回のグループ作業で確認する。 ・ 期末の確認テスト以外はすべて採点後返却するので、間違いや指摘された点は、都度修正すること。 ・ 応用に関しては、グループ作業によることとするが、そこでは、学んだ知識をプロジェクト研究やイノベーション・ラボで活用できることを意識して、作業等を行うものとする。 ・ 確認小テストや確認テスト、レポート作成で不正があった場合は、厳正に対処する。
アクティブ・ラーニング	第11～14回で、2～3名によるグループワークおよびディスカッションを行い、指定された課題について、共同で作業を行う。なお、作業・議論への参加度合いにかかわらず、作業報告と得られた知見をレポートにしっかり反映すること。
課題に対するフィードバック	確認小テストおよび中間期の確認テストは、採点をし、次の時間に返却するとともに解答と重要な点を解説する。期末の確認テストは、テスト終了後に模範解答を示す。いずれの場合も間違いは復習し、重要知識の確認を行うこと。グループワーク・ディスカッションにおいては、作業中に質問、公表を行うとともに、レポート内容に従って、次の時間にアドバイスをを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由としますが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	「社会調査士」認定科目である。

科目名	行動計量学(再)【月3木3】(FIV14900)
英文科目名	Behavior Metrics
担当教員名	森裕一(もりゆういち)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	データ科学と多変量解析の概要を理解するとともに、統計解析パッケージRの操作方法、およびレポートの書き方について確認する。
2回	データの記述と予測(1)として、「単回帰分析」の分析事例を基に、Rの実習を通して、その手順を理解する。
3回	前回に学んだ「単回帰分析」の手順を実データに適用し、レポートを作成することにより、「単回帰分析」による分析を理解する。
4回	データの記述と予測(2)として、「重回帰分析」の分析事例を基に、Rの実習を通して、その手順を理解する。
5回	前回に学んだ「重回帰分析」の手順を実データに適用する演習を行い、分析レポートを作成することにより、「重回帰分析」による分析をより深く理解する。
6回	データの記述と予測(3)として、「重回帰分析－カテゴリーカルデータ－」の分析事例を基に、Rの実習を通して、その手順を理解する。
7回	前回に学んだ「カテゴリーカルデータの回帰分析」の手順を実データに適用する演習を行い、分析レポートを作成することにより、「ダミー変数による回帰分析」による分析を理解する。
8回	似通ったグループに分ける手法として、「クラスター分析」の分析事例を基に、Rの実習を通して、その手順を理解する。
9回	前回に学んだ「クラスター分析」の手順を実データに適用する演習を行い、分析レポートを作成することにより、「クラスター分析」による分析を理解する。
10回	カテゴリーカルデータを分析する手法として、「数量化法」の分析事例を基に、Rの実習を通して、その手順を理解する。
11回	前回に学んだ「コレスポンデンス分析」の手順を実データに適用する演習を行い、分析レポートを作成することにより、「コレスポンデンス分析」による分析を理解する。
12回	全体の傾向を効率よく語る手法として、「主成分分析」の分析事例を基に、Rの実習を通して、その手順を理解する。
13回	前回に学んだ「主成分分析」の手順を実データに適用する演習を行い、分析レポートを作成することにより、「主成分分析」による分析を理解する。
14回	総合演習1(知識を問う小テストと技能を確認する実技試験を受験する)。
15回	総合演習2(前回の総合演習の解説を聞き、知識と技能の確認をする。)

回数	準備学習
1回	参考書に示したRの基本操作のWebページで、Rの操作とレポートの書き方をまとめておくこと。(標準学習時間120分)
2回	Webページの「2.缶コーヒーの好感度」の解析ストーリーを読み、流れを説明できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
3回	前回の手法を使った演習ができるように「単回帰分析」の内容を復習しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	前回の演習課題を仕上げる(標準学習時間90分)と、Webページの「3.新店舗の売上予測」の解析ストーリーを読み、流れを説明できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回の手法を使って演習ができるように「重回帰」の内容を復習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回の練習課題を仕上げる(標準学習時間90分)と、Webページの「4.スーパーの客数予測」の解析ストーリーを読み、流れを説明できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回の手法を使って演習ができるように「ダミーデータによる回帰分析」の内容を復習しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	前回の練習課題を仕上げる(標準学習時間90分)と、Webページの「5.世界の都市の経済1」の解析ストーリーを読み、流れを説明できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
9回	前回の手法を使って演習ができるように「クラスター分析」の内容を復習しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	前回の練習課題を仕上げる(標準学習時間90分)と、Webページの「6.麺つゆの特徴」の解析ストーリーを読み、流れを説明できるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
11回	前回の手法を使って演習ができるように「コレスポンデンス分析」の内容を復習しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	前回の練習課題を仕上げる(標準学習時間90分)と、Webページの「7.都道府県別アルコール

	類の消費量」の解析ストーリーを読み、流れを説明できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）
1 3 回	前回の手法を使って演習ができるように「主成分分析」の内容を復習しておくこと。（標準学習時間60分）
1 4 回	前回の練習課題を仕上げる（標準学習時間90分）。また、これまで学んだ知識の復習とRによるデータ分析の手法を復習し、小テストと実技試験に備えること。（標準学習時間180分）
1 5 回	小テストと実技試験をやり直し、返却時の説明や自分の間違いを理解できるようにしておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	既習の統計関係の講義を基礎として、多変量のデータ解析手法についての基礎知識と分析のための基礎技能を習得する。対象とする手法は、回帰診断を含めた回帰分析、主成分分析、クラスター分析、数量化法などの多変量統計手法の基礎である。これらの手法ごとに、実データへ適用した事例を通して理論と統計パッケージの利用方法を学び、同種のデータへ学んだ手法を適用する演習を繰り返すことにより、社会や経営に関するデータを分析する力をつける。（社会情報学科の学位授与方針項目CとFにもっとも強く関与し、AとBに強く関与する）
達成目標	1) 多変量手法における統計解析パッケージRの使い方を述べることができる。（A） 2) 回帰分析、クラスター分析、コレスポンデンス分析、主成分分析をどのような場面でのよう利用すればよいか説明できる。（B） 3) 上記の各手法を用いて、データが分析できる。（C） 4) 実際の問題解決場面において、データを基にした判断ができるようになる。（F） ※()内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	解析ストーリー、マーケティング、多変量解析、重回帰分析、クラスター分析、数量化法、主成分分析、統計パッケージ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	演習時に課す分析レポート6種類に各11点、計66点を付す。11点のうち、Rの操作（達成目標の1））に対して4点、分析手法と結果の解釈の妥当性（達成目標の2)3)）に7点を与える。知識の理解（達成目標の2)4)）を総合課題の小テストで20点、問題解決場面において総合的にデータ分析ができるか（達成目標の1)～4)）を実技試験14点で確認する。すべてのレポートと総合課題が提出されている場合、総計で60点以上を合格とする。
教科書	「データ指向統計解析環境 (http://mol61.soci.ous.ac.jp/@d/indexj.html)」の「データ指向統計学習システム」のWebページを教科書として利用する。
関連科目	1年次の「データ解析基礎」、「社会情報入門」、「社会調査法」、2年次の「データ解析システム」と関連する。これらと本科目で、一般的なデータサイエンスの基礎全般を学んだことになる。また、その知識と技能は、3年次の「社会調査実習」で活用することになる。
参考書	データマイニング事例集／上田太郎／共立出版 R操作の基本は http://mol61.soci.ous.ac.jp/R/DA_R/ を参照のこと
連絡先	研究室: A1号館8階 直通電話: 086-256-9652 E-mail: mori@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日3時限
授業の運営方針	基本的に、1手法ごとに、授業2回を1くくりとし、Rの操作のみならず、結果の解釈とそれをレポートしていくことに重点を置く。したがって、 ・すべてのレポートは期限内（2回目の次の授業の始め）に提出すること。 ・提出されたレポートは、チェック後、返却する。指摘された点は、都度修正すること。 ・レポートは、基準に達していない場合は、再提出を求める。 ・レポート作成で他人のファイルを流用するなどの不正があった場合、厳正に対処する。
アクティブ・ラーニング	2回を1くくりとする2回目および総合演習では、演習を行う。その際（分析レポート作成の際）には、分析等の方法および結果の解釈について、2～3名でグループ討論を行う。
課題に対するフィードバック	提出する分析レポートは、分析の目的が正しく設定されているか、データを正しく用いているか、分析手順に間違いはないか、目的に合った解釈ができているかをチェックし、返却するので、不備等については、コメントに基づき、修正を行っていただくこと。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由としますが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会調査実習(再)【月1木1】 (FIV15000)
英文科目名	Exercise of Social Research
担当教員名	森裕一 (もりゆういち)
対象学年	3年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	調査票調査の企画 (問題の確認・テーマの決定と仮説と解決への方略の設定を行う。)
2回	調査項目の設定1 (インターネットなどを利用した先行研究の動向チェックと調査項目設定のための情報収集を行う。)
3回	調査項目の設定2 (前回に引き続き, インターネットなどを利用した先行研究の動向チェックと調査項目設定のための情報収集を行う。)
4回	調査票の作成1 (依頼文, 質問紙の作成, サンプルによる質問項目の評価と確定を行う。)
5回	調査票の作成2 (前回に引き続き, 依頼文, 質問紙の作成, サンプルによる質問項目の評価と確定を行う。)
6回	調査の実施1 (作成した調査票による調査を実施する。)
7回	調査の実施2 (引き続き, 作成した調査票による調査を実施する。)
8回	調査の実施3 (引き続き, 作成した調査票による調査を実施する。)
9回	データの解析1 (Excelへの結果の入力およびデータのクリーニングを行う。)
10回	データの解析2 (単純集計と傾向把握, Excelの集計機能の利用した可視化を行う。)
11回	データの解析3 (項目間分析や多変量解析を利用した分析を統計パッケージの利用して行う。)
12回	データの解析4 (データ解析2, 3の結果の読み取りと再分析および仮説検証を行う。)
13回	報告書の作成 (データ解析4の結果を基にした報告内容の整理とHTML形式によるWeb報告書作成を行う。)
14回	成果発表会 (チーム毎に発表を行う。なお, 報告書はWeb上に公開する。)
15回	成果発表会 (引き続き, チーム毎に発表を行う。)

回数	準備学習
1回	実際の社会調査を行うので, これまでの社会調査関連科目を復習しておくこと (標準学習時間30分)
2回	調査をしたいテーマを具体的に絞っておくこと (標準学習時間60分)
3回	以下, これまで得た社会調査に関する知識を総動員して調査の全過程を踏むので, 必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 毎回の作業に臨むこと (標準学習時間90分)
4回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと (標準学習時間60分)
5回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと (標準学習時間60分)
6回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと。調査対象者を訪問・接触して, データ収集を行っておくこと (標準学習時間90分)
7回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと。ここまでに, 70%以上のデータ収集は終了しておくこと (標準学習時間90分)
8回	得られた回答の入力と模擬処理を行いつつ, 引き続き, データ収集を行っておくこと (標準学習時間90分)
9回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと。ここまでに, データ収集は終了しておくこと (標準学習時間60分)
10回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと。必要に応じて, 不足のデータ収集を行うこと (標準学習時間60分)
11回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと (標準学習時間60分)
12回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと (標準学習時間60分)
13回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと。世論調査や官公庁の調査報告書の書き様を調べておくこと (標準学習時間120分)
14回	プレゼンテーションの方法について, 復習・確認しておくこと (標準学習時間120分)
15回	他者の発表も参考にしながら, 必要に応じて修正を加えるなどして, よりよい発表ができるようにしておくこと (標準学習時間120分)

講義目的	本実習では, 社会情報実習αとともに, 社会調査の全過程を体験的に学習する。ここでは, 生活, マーケティング, 地域の中から各自のテーマを決め, その問題解決のための調査票調査を実際に行う。これまでの学習を基に, 調査の企画, 仮説構成, 調査票の作成, サンプル, 調査の実
------	---

	施, 集計・分析, 仮説検証, 報告書の作成のすべてを体験する。特に, 事前のサンプリング, 質問紙の配布と回収の方法, 統計パッケージを利用したデータ分析と結果の読み取りに焦点をあて, 報告書作成にあたっては, Webへの情報発信についても扱うことにする。(社会情報学科の学位授与方針項目A, C, Dに強く関係する)
達成目標	1) 社会調査の意義と目的について説明できる。(A) 2) 調査の各種方法を説明でき, 目的に応じて手法を選択できる。(A) 3) 調査票を留意点に基づいて作成でき, 実際に収集したデータを分析できる。(A, C) 4) 分析結果を報告書として公表できる形に整形できる。(D) 5) 実際の問題解決場面におけるデータサイエンスの活用方法を説明できる。(C)
キーワード	標本調査, 調査票調査, ワーディング, 報告書, データ分析
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	提出物(企画書, 依頼文, 調査票, 集計データに各13点, Web報告書20点)に対して計36点(達成目標の3)4)5)6)をチェックする), 報告会のプレゼンに対して28点(達成目標の1)3)~6)をチェックする)で評価し, すべての提出物が提出された者に対して, 総計で60%以上を合格とする。
教科書	http://www.mgt.ous.ac.jp/~mori/DataSciencePrc/2019/
関連科目	これまで学習したデータサイエンス系の科目(1年次の「データ解析基礎」「社会調査入門」「社会調査法」, 2年次の「データ解析システム」「行動計量学」)の学習内容は演習のツールとして用いる。
参考書	データマイニング事例集/上田太郎/共立出版
連絡先	研究室: A1号館8階 直通電話: 086-256-9652 E-mail: mori@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー: 火曜日3時限
授業の運営方針	既習の知識と技能を総動員する形で, データ収集から分析・報告までを実際に行う。したがって, ・基本的に, 2名での共同作業とするが, 提出課題は1人1作品を必ず提出期限までに提出する。 ・学部内の学生を前提として調査票調査を実施するが, 必要に応じて, 学内や本学部の協力企業・自治体などへ範囲を広げることも考える。 ・Excelにとどまらず, 統計解析パッケージR, Web上で提供されている統計ツールを駆使する。 ・レポート作成で他人のファイルを流用するなどの不正があった場合, 厳正に対処する。
アクティブ・ラーニング	基本的に, 2名での共同作業形式をとり, 調査票作成を行う。最終の報告会では, チーム毎にプレゼンを行い, 教員だけでなく, 他チームからのコメントももらう形で, 全体でディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	調査票作成過程で常に教員およびチームの仲間とディスカッションをし, 指定条件をクリアして次に進む形で作業を行っていく。最終発表会では, チームの発表毎に講評を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので, 配慮が必要な場合は, 事前に相談してください。 2名の共同作業を前提としますが, 1名で行っても構わないこととします。 講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由としますが, 他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止します。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	「社会調査士」認定科目である。

科目名	経営情報(再)【月2木2】(FIV15300)
英文科目名	Management Information
担当教員名	水谷直樹(みずたになおき)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクションとして、本講義全体を解説する。
2回	不確かな状況のもとで行われる意思決定に関して、人々の行動に合理的な説明を与える意思決定の理論について概説する。
3回	不確かな状況のもとで幾つかの代替案の中から最適なものを選ぶ際の決定基準について、代表的なものを解説する。
4回	人々の意思決定を理解する道具として、期待効用仮説を解説する。意思決定の結果として得られる利得が確率的である場合の利得評価について解説する。
5回	不確実性下の意思決定を期待効用仮説にもとづいて説明する場合に、グラフを活用する方法について説明する。
6回	期待効用仮説によって種々の意思決定が説明できることを示す。保険が購入される理由、ビジネスの多角化が行われる理由などを期待効用仮説を用いて説明する。
7回	情報の非対称性について解説する。売り手と買い手との間で保有する情報量に大きな差がある場合の市場への影響について説明する。
8回	情報の非対称性が存在することによって生じる種々の問題を取り上げて説明するとともに、解決する方策について解説する。
9回	商品あるいはサービスの販売において、情報が非対称である場合に採用される戦略としての価格差別について解説する。
10回	人間の合理性には限界があるため、最適でないとしても満足できる選択肢を発見しようとしている。その場合に人間が用いる簡便な問題解決法について解説する。
11回	簡便な問題解決法による意思決定では、明らかな誤りを犯すことがある。そのような誤りを列挙して具体例を示しながら解説する。
12回	人は直感で考えて正しい意思決定をすることもあるが、明らかな誤りを選ぶこともある。誰もが持っている特性で、意思決定のミスにつながりやすい特性を解説する。
13回	不確実性下における意思決定モデルの1つであるプロスペクト理論について解説する。
14回	行動経済学について全体をまとめるとともに、応用分野を紹介する。
15回	最終評価試験
16回	最終評価試験への出題についてのフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認するとともに、経済原論のうちミクロ経済学に登場する「個人の効用」について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
2回	自分が携帯電話あるいはスマートフォンを購入した際に、多くの機種から現在保有する機種を選んだ理由や選択した経過を説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1時間)
3回	前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
4回	経済原論のうちミクロ経済学で学んだ個人の効用および効用関数の特性について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
5回	火災保険や自動車保険等の保険に加入する際、自分はいくらまでなら保険料を払うか考えるとともに、そのように計算する根拠を明確に説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1時間)
6回	起きるかどうかわからない事故を対象に保険金を支払う保険会社のビジネスを成り立たせるための工夫について考察すること。(標準学習時間1時間)
7回	商品が高度化したスマートフォンなどで、売り手と買い手の間で商品に関して保有する情報量に大きな差が生じていることを確かめること。(標準学習時間1時間)
8回	売り手と買い手の間で商品に関して保有する情報量に差が生じている場合に、どのような問題が起きるのか推測しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
9回	同一の商品が、販売相手や時間等の違いによって異なる価格で販売されている例について調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)
10回	一般生活において経験する錯覚を類型化するとともに、経済的錯覚の例を探しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
11回	これまでに経験した買い物の失敗等、選択における失敗について思い出し、その原因を説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1時間)
12回	前回の授業で紹介した簡便な問題解決法を用いたために、意思決定の失敗につながってしまう例を説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1時間)
13回	当選金の期待値が低いことを知っているのに、人々が宝くじを購入する理由について考察しておく

	こと。（標準学習時間1.5時間）
1 4 回	プロスペクト理論について復習しておくこと。（標準学習時間1.5時間）
1 5 回	これまでに学んだ内容を振り返っておくこと。（標準学習時間1.5時間）
1 6 回	最終評価試験で出題された内容を復習しておくこと。（標準学習時間1.5時間）

講義目的	ビジネスの中で、顧客の購買意思決定の仕組みの解明は重要な分析課題であり、解き明かされればマーケティング分野に多大な貢献を果たすと考えられる。 本講義では、主としてマーケティング分野への応用を念頭に、人の意思決定についての理論を学ぶ。 そして、必ずしも合理的でない個人が意思決定においてどのような過ちを犯すか学ぶとともに、その特性を活用する事例について考察する。 （社会情報学科の学位授与方針 B および F にもっとも強く関与する。）
達成目標	1) グラフに描かれた効用関数を用いて、期待効用仮説を説明することができる。(B, F) 2) 情報の非対称性およびそれによって起きる種々の問題を理解するとともに、それら問題を解決するための方策について説明することができる。(B, F) 3) 合理性に限界のある人間が行う意思決定において、たびたび採用される簡便な問題解決法およびそれによって起きる典型的過ちについて説明できる。(B, F) （ ）内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	意思決定理論、行動経済学、情報の非対称性
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験（70%） および 適宜実施する小テスト（30%）により達成目標 1), 2), 3) を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。
教科書	配布する講義資料による。
関連科目	経済原論
参考書	授業中に紹介する。
連絡先	水谷研究室 A1号館8階（mizutani@mgt.ous.ac.jp） オフィスアワーは mylog portfolio 掲載のオフィスアワー欄を参照のこと。
授業の運営方針	講義においては、学習管理システムを用いて課題を出題するので、必ず課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	授業では、学習管理システムを使ったアクティブラーニングを取り入れる。
課題に対するフィードバック	小テストの実施においては、次の講義時間にてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	市場行動(再)【金3金4】(FIV15400)
英文科目名	Market Behavior
担当教員名	大藪亮(おおやぶあきら), 藤岡芳郎* (ふじおかよしろう*)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方等について確認する。さらに、マーケティングの基本的な考え方について学習する(藤岡)。 (全教員)
2回	マーケティング誕生の背景や発展、および役割について学習する(藤岡)。 (全教員)
3回	マーケティングの基礎概念について学習する(藤岡)。 (全教員)
4回	戦略的マーケティングの概念について学習する(藤岡)。 (全教員)
5回	具体的な事例をもとに、製品戦略について学習する(藤岡)。 (全教員)
6回	具体的な事例をもとに、価格戦略について学習する(藤岡)。 (全教員)
7回	具体的な事例をもとに、流通戦略について学習する(藤岡)。 (全教員)
8回	具体的な事例をもとに、プロモーション戦略について学習する。続いて第1回から第8回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。(藤岡)。 (全教員)
9回	具体的な事例をもとに、顧客理解について学習する(藤岡)。 (全教員)
10回	製品開発に消費者が積極的に参加する事例を挙げ、消費者との価値創造について学習する(藤岡)。 (全教員)
11回	関係性マーケティングの発生と展開について学習する(藤岡)。 (全教員)
12回	サービス・マーケティングの基本的概念について学習する(藤岡)。 (全教員)
13回	市場志向型経営の貢献とその問題点について学習する(藤岡)。 (全教員)
14回	インターネットマーケティングの発展および可能性について学習する(藤岡)。 (全教員)
15回	サービス・ドミナント・ロジックの基本的な考え方について学習する。続いて第9回から第15回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。(藤岡)。 (全教員)

回数	準備学習
----	------

1 回	予習としてシラバスおよび教科書により授業内容全体について理解しておくこと。復習としてマーケティングの基本的な考え方についてまとめておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	予習としてマーケティングの誕生について内容をまとめておくこと。復習としてマーケティングの役割についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
3 回	予習としてマーケティングの基礎概念についてまとめておくこと。復習としてSTPについてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
4 回	予習として戦略的マーケティングについて内容をまとめておくこと。復習として優れたマーケティングを行っている企業を一つ上げ、その活動についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
5 回	予習として製品戦略についてまとめておくこと。復習として過去のヒット商品の優れている点についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
6 回	予習として価格戦略についてまとめておくこと。復習として価格戦略を考える上で重要なポイントについてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
7 回	予習として流通戦略についてまとめておくこと。復習としてチャネルの種類や特徴についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
8 回	予習として第1回から第7回までの学習内容についてまとめておくこと。復習としてプロモーションミックスについてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
9 回	予習として顧客を理解するための手法についてまとめておくこと。復習として顧客理解の方法と手段についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
10 回	顧客参加型製品開発についてまとめておくこと。復習として顧客参加型製品開発の特徴と方法についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
11 回	予習としてポイントカードについてまとめておくこと。復習として関係性マーケティングの概念についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
12 回	予習としてサービスの特徴についてまとめておくこと。復習としてサービスマーケティングとグッツマーケティングの違いについてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
13 回	予習として顧客志向や市場志向を実現する組織についてまとめておくこと。復習として市場志向型経営の特徴についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
14 回	予習としてインターネットの登場によるマーケティング活動の変化についてまとめておくこと。復習としてインターネットマーケティングの可能性や課題についてまとめておくこと。（標準学習時間90分）
15 回	予習としてサービス概念についてまとめておくこと。サービス・ドミナント・ロジックの特徴についてまとめておくこと。事後自己評価を行うこと。（標準学習時間90分）

講義目的	企業活動は、大きく内的活動と外的活動に分けられる。特に、外的活動は、消費者や顧客に対する活動であり、主にマーケティングが中心となる。企業の利益が、顧客・消費者による自社製品の購買からもたらされることを考えると、外的活動は非常に重要である。そこで、マーケティングに関する基礎的概念や理論的枠組みについて理解することを本講義の目的とする。そのために、具体的な事例を多く取り上げ、実際の企業のマーケティング活動と理論を結び付けることにより、マーケティングに関する基礎的な理論やその背景、マーケティング活動について理解を深めていく。経営学科の学位授与方針のAにもっとも強く関与し、項目Dに強く関与する。
達成目標	1) 各企業が展開しているマーケティング活動について具体的に説明できる。(A) 2) マーケティングに関連する事象を分析するための基本的な概念や理論について説明できる。(A,D) ※（ ）内は経営学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	マーケティング、消費者行動、顧客価値
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験（第8回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）と第15回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	1からのマーケティング・デザイン/石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著/碩学舎
関連科目	「マーケティング戦略」「消費者行動」「サービスマーケティング」と関連。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	藤岡（非）E-mail:fujioka（アットマーク）dis.osaka-sandai.ac.jp
授業の運営方針	毎回出席して、真摯に授業に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	確認テストのフィードバックは、テスト終了後の授業時間内に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	経営戦略(再)【月1木1】 (FIV15500)
英文科目名	Management Strategy
担当教員名	山口隆久 (やまぐちたかひさ)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。講義の進めを説明する。経営戦略の概論について説明する。
2 回	企業戦略（経営戦略、マーケティング戦略）策定の要件について説明する。
3 回	全社戦略（経営理念、ビジョン、ミッション）について説明する。
4 回	事業ポートフォリオ、多角化戦略、情報戦略について説明する。
5 回	事業戦略（戦略分析）について説明する。
6 回	競争優位理論について説明する。
7 回	外部環境分析、内部環境分析について説明する。
8 回	基本戦略と戦略パターンについて説明する。 続いて第1回から第8回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。
9 回	グローバル戦略（M&A）について説明する。
10 回	製品開発に消費者が積極的に参加する事例を挙げ、消費者との価値創造について説明する。
11 回	戦略と組織の変革について説明する。
12 回	戦略と財務(1)（経営成果、コーポレート・ガバナンス、企業価値）について説明する。
13 回	戦略と財務(2)（ケーススタディ）について説明する。
14 回	企業戦略のまとめと展望（可能性）について説明する。
15 回	企業戦略について学習する。続いて第9回から第15回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認と復習 経営戦略の役割について予習しておくこと（標準学習時間90分）
2 回	企業における戦略の機能について復習すること（標準学習時間90分）
3 回	企業戦略の役割や形態について復習すること 経営戦略、マーケティングという用語について予習しておくこと（標準学習時間90分）
4 回	企業における経営理念の役割や形態について復習すること（標準学習時間90分）
5 回	多角化戦略の特徴について復習すること ヤマハのケーススタディを再度確認すること （標準学習時間90分）
6 回	戦略分析の役割や形態について復習すること 教科書などにより戦略分析の種類や方法を調べておくこと（標準学習時間90分）
7 回	競争優位戦略について復習すること 教科書などによりマイケルポーターの競争論を確認しておくこと（標準学習時間90分）
8 回	予習として第1回から第7回までの学習内容についてまとめておくこと。外部環境、内部環境分析について復習すること （標準学習時間90分）
9 回	戦略パターンについて復習すること、トヨタの事例を再度復習しておくこと（標準学習時間90分）
10 回	M&Aの特徴について復習すること 大規模M&Aと中小規模M&Aの違いについて予習すること（標準学習時間90分）
11 回	価値創造とは何か、について復習すること（標準学習時間90分）
12 回	組織論の理論について復習すること 大企業の組織論の変遷について再度、確認しておくこと（標準学習時間90分）
13 回	コーポレート・ガバナンスについて復習すること （標準学習時間90分）
14 回	事例研究の財務状況について復習すること これまでの章を再度、読み返しておくこと（標準学習時間90分）
15 回	事例研究の財務状況について復習すること これまでの章を再度、読み返しておくこと。事後自己評価を行うこと（標準学習時間90分）

講義目的	本講義では、理論を説明した後、残り6回の講義では、7～8名程度のグループに分かれてビジネスプラン策定のワークショップを開催する（産学連携による問題発見 解決型学習（PBL；Problem-Based Learning）を行う場合もある）。 企業経営の重要な柱である企業戦略（経営戦略、マーケティング戦略）の基礎理論を中心に学習し、ビジネス戦略の構築にあたって重視すべき実務内容の考察に反映させる。具体的には、販売の企
------	---

	業活動の総括としての位置づけを概説し、マーケティング戦略の近代化・科学化が経営戦略の柱となっている実態を論じる。企業戦略（経営戦略、マーケティング戦略）の基礎理論と現代的な課題を理解し、ビジネス実務において考慮すべき企業活動の変容について学ぶ。（経営学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与、項目Dに強く関与）
達成目標	企業戦略（経営戦略、マーケティング戦略）の基本的な考え方を理解し、企業の構造と関連付けて把握して欲しい。また、グループでのワークショップによって、組織対応力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション力を身につけてほしい。 日々取り上げられる経済ニュースには、企業戦略（経営戦略、マーケティング戦略）に関わる出来事が散見されます。本講座を履修することにより、経済ニュースの理解を深めることを期待します。 1) 多様な企業戦略（経営戦略、マーケティング戦略）について具体的に説明できる。（A） 2) 企業戦略（経営戦略、マーケティング戦略）に関連する事象を分析するための基本的な概念や理論について説明できる。（A,D）
キーワード	経営戦略、マーケティング、市場調査、消費者行動、広告戦略
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験（第8回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）と第15回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	1からの戦略論（第2版）／嶋口・内田・黒岩／碩学舎/978-4-502-16741-6
関連科目	1年次「経営学基礎」、「商学基礎」を受講していることが望ましい。
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A1号館7F 山口研究室
授業の運営方針	この授業ではビジネスプラン策定のワークショップ（グループワーク）を行うので、授業は必ず出席するよう努めること。やむを得ず遅刻・欠席する場合は担当教員に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	本講義では演習を多用した授業となり、ここではチームワークやライティングなど受講生の能動的な活動が求められる。
課題に対するフィードバック	授業の振り返りでの質問や疑問点は、授業の中で取り上げてゆく。また、レポートは授業の中でコメントを付しながらフィードバックしてゆく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	銀行にて金融業務、企画立案業務に20年以上携わってきた経験がある教員（山口隆久）が、その実務経験、及びマネジメント分野での博士学位取得の両方を活かして、具体的な戦略課題や立案の視点を理論的に講義し、戦略策定の能力の向上等を指導する。
その他（注意・備考）	備考（1）試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。（2）課題（レポートや小テスト）に対するフィードバックは、講義中に行うこととする。（3）講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。

科目名	経営システム(再)【火2金2】 (FIV15700)
英文科目名	Management System
担当教員名	水谷直樹 (みずたになおき)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクションとして、講義の概略を説明する。
2回	経営における情報システム活用の歴史を解説する。コンピュータの誕生から企業経営に利用されるまでの歴史と、大型コンピュータ時代の活用例について説明する。
3回	商用コンピュータ、汎用コンピュータの歴史を解説し、コンピュータ黎明期における企業のコンピュータ利用を説明する。
4回	ビジネスにおけるコンピュータ利用およびそれによるビジネスの変化について解説する。
5回	情報通信技術の戦略的利用について解説する。戦略情報システムと呼ばれたコンピュータ利用について説明し、コンピュータが労力削減以外の用途として使われ始めた経緯を理解する。
6回	日本の戦略情報システムの事例を紹介し、顧客の囲い込み、競争優位などの概念を理解する。
7回	販売時点情報管理 (POS) システムについて解説する。バーコードを利用した販売時点管理システムを用いた利益率の改善について理解する。
8回	コンビニエンスストアにおける情報活用、情報機器活用について理解する。
9回	バーコードの進化形としてのQRコードについて解説するとともに、多機能化・多用途化したICタグおよびキャッシュレス化について説明する。
10回	インターネットおよびWWWの歴史を紹介するとともに、WWW上のビジネスとして検索エンジンを解説する。
11回	インターネットおよびWWWを活用するビジネスとして、インターネット広告を解説する。
12回	インターネットを活用するマーケティング手法について解説する。
13回	インターネットを活用するビジネスの中で、電子商取引を解説する。電子商取引の種類、規模について説明するとともに、電子商取引を支える基盤である決済の仕組みやセキュリティ確保について説明する。
14回	人工知能のビジネス応用について解説する。
15回	これまでの解説での不足点を補うとともに、全体のまとめを行う。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。(標準学習時間30分)
2回	コンピュータが誕生した時期および最初のコンピュータについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	ビジネスにおける数値計算のニーズを把握しておくこと。(標準学習時間60分)
4回	情報システムをうまく活用している企業の例を探しておくこと。(標準学習時間60分)
5回	情報システムを巧みに活用している企業のビジネスモデルを示せるようにしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	企業が顧客にポイントカードを配布する目的について考えておくこと。(標準学習時間60分)
7回	商品のバーコードとは、どのような情報を示すものか調べておくこと。(標準学習時間60分)
8回	POSシステムの有効活用について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
9回	交通系のICカードである「ハレカカード」「ICOCAカード」などについて、その概要を理解しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	自分が初めてインターネットを経験した時期や、その時からこれまでのインターネットの発展について思い出しておくこと。(標準学習時間60分)
11回	ブラウザ上に表示される広告、メールで配信される広告など、インターネットを介して提供される広告を類別しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	Twitter等のSNSで行われているマーケティング手法について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
13回	電子商取引の店舗例を挙げられるようにしておくこと。(標準学習時間60分)
14回	ビジネスにおける人工知能応用の事例を調べておくこと。(標準学習時間60分)
15回	インターネット、コンピュータ技術の今後の動向に注意しておくこと。(標準学習時間60分)
16回	これまで学んだ内容を復習しておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	企業経営におけるコンピュータ利用について理解することを目的に、情報システムおよび情報通信技術のビジネス応用を解説する。また、企業の競争力を高めるための戦略的な情報システム利用を事例によって分析するとともに、最新のインターネットの利用動向についても解説する。さらに、今後進むであろうビジネスにおける人工知能応用について解説する。
------	---

	(社会情報学科の学位授与方針の項目C, Fにもっとも強く関与、項目Bに強く関与する。)
達成目標	1) 経営における情報システムの必要性、役割と機能、特性について説明できる。(B,C,F) 2) ビジネスにおけるインターネットの使われ方を説明できる。(C,F) 3) 人工知能のビジネス応用事例を説明できる。(C,F) () 内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	情報システム、インターネットビジネス、人工知能
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業中に実施する小テスト(30%) および 最終評価試験(70%) によって達成目標 1),2),3) を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。
教科書	配布する講義資料による。
関連科目	情報科学、経営情報
参考書	授業の中で紹介する。
連絡先	A 1 号館 8 階 水谷研究室 オフィスアワー、メールアドレスは mylog portfolioを参照のこと。
授業の運営方針	小テストを実施することを念頭に入れて、随時復習しておくこと。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業内に実施する小テストについては、次の回の授業にてフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	シャープ株式会社に勤務経験があり、人工知能のビジネス応用について、しくみと事例について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	流通ビジネス(再)【月2木2】 (FIV15800)
英文科目名	Distribution Business
担当教員名	張セイ (ちょうせい)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行い、講義の進め方を説明する。流通機能と小売業の概念について説明する。
2 回	小売業の社会的役割及び小売業主導型流通チャネルについて説明する。
3 回	小売業の種類として、業種 (type of business)と業態(type of operation)の分類を説明する。
4 回	商業集積について説明する。
5 回	小売業が直面する競争の種類と競争優位性の追求、小売業態革新の諸理論について説明する。
6 回	小売ライフサイクルを用いて、総合スーパーとコンビニエンスストアの業態革新について説明する。 第1回小テストを行う。
7 回	小売マーケティング計画の策定について説明する。
8 回	第1回小テストのフィードバックを行う。 消費者の購買行動について説明する。
9 回	小売業の新規出店を念頭において、立地と店舗設計について説明する。
10 回	小売業の店舗デザインと売場デザイン について説明する。
11 回	小売業の品揃えマネジメントについて説明する。 第2回小テストを行う。
12 回	小売業の商品開発 (PB商品及びSPA方式) について説明する。
13 回	第2回小テストのフィードバックを行う。 小売業の販売価格の決定と価格調整について説明する。
14 回	販売計画、仕入計画、発注、商品統制などの面から在庫管理について説明する。
15 回	小売業のプロモーションについて説明する。

回数	準備学習
1 回	予習：身近の小売業者を観察し、その特徴を調べること。 復習：流通機能と小売業の定義について復習すること。 (標準学習時間90分)
2 回	予習：商業的機能以外に、小売業はどのような社会的役割を果たしているかについて調べること。 復習：メーカー主導の流通チャネルと小売業主導型流通チャネルの違いを復習すること。 (標準学習時間90分)
3 回	予習：日常生活の中で、どのような種類の小売業者が存在しているかを整理すること。 復習：小売業種と業態の知識を使って、セブイレブンを分類すること。 (標準学習時間90分)
4 回	予習：岡山駅周辺の表町商店街とイオンモールの違いを整理すること。 復習：商業集積の2つのタイプである商店街とショッピングセンターの違いを整理しておくこと (標準学習時間90分)
5 回	予習：小売の輪仮説、小売の3つの輪仮説を予習しておくこと。 復習：小売業者は如何に競争優位を確保するかについて整理しておくこと。 (標準学習時間90分)
6 回	予習：総合スーパーとコンビニエンスストアの業態特徴を調べること。 復習：小売ライフサイクル仮説はどのように活用できるかを整理すること。 (標準学習時間90分)
7 回	予習：小売マーケティング計画のプロセスについて予習すること。 復習：小売マーケティング・ミックスと伝統的マーケティング・ミックスの違いを整理すること。 (標準学習時間90分)
8 回	予習：リアル店舗とバーチャル店舗の購買行動の違いについて考えておくこと。 復習：消費者の購買行動の分析視点を整理すること。 (標準学習時間90分)
9 回	予習：コンビニとショッピングセンターの立地と店舗レイアウトの違いについて考えておくこと。 復習：商圈と小売吸引力の関係、小売業立地選択の原則を整理すること。 (標準学習時間90分)
10 回	予習：コンビニとショッピングセンターの商品陳列の違いを観察し整理しておくこと

	復習：店舗デザインと売場デザインの知識を用いて、最近買い物に行った小売業者を評価すること。 (標準学習時間90分)
1 1 回	予習：コンビニエンスストアと食品スーパーの品揃えの違いについて調べること。 復習：品揃えマネジメントに対処すべき3つのロスを整理すること。 (標準学習時間90分)
1 2 回	予習：PB（プライベート・ブランド）商品とNB（ナショナル・ブランド）商品の違いを調べておくこと 復習：PB商品の役割及びSPA方式の仕組みを整理すること。 (標準学習時間90分)
1 3 回	予習：費用、需要、競争と価格決定の関係を考えること。 復習：2つの価格マネジメントの仕組み及び価格マネジメント手法を整理すること。 (標準学習時間90分)
1 4 回	予習：物流とロジスティクスの違いについて調べておくこと。 復習：ロジスティクス・マネジメントの目標と構成する要素を整理すること。 (標準学習時間90分)
1 5 回	予習：人的販売とセルフサービスの違いについて考えること。 復習：小売マーケティング・ミックスの全体を復習すること。 (標準学習時間90分)

講義目的	小売業は私たちに身近な存在であり、消費者と接しているという特徴を持っている。特に、消費者との直接的な関係が強調される今日のマーケティング研究の潮流においては、小売業のマーケティングは重要となるが、小売マーケティングは、伝統的マーケティングの下位分野に位置付けられてきた。そこで、伝統的マーケティングと小売マーケティングを比較しながら、その特徴について理解するとともに、小売マーケティングの基本的概念について整理することを本講義の目的とする。 (経営学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与、項目Dに強く関与する。)
達成目標	1.流通論の知識を理解し、流通チャネルにおける小売業の位置づけと役割を説明できる。(経営学科の「学位授与の方針」のA項目と関連している。) 2.小売マーケティング・プロセスについて理解できる。(経営学科の「学位授与の方針」のA項目と関連している。) 3.小売マーケティング・プログラムについて理解できる。(経営学科の「学位授与の方針」のA項目と関連している。) 4.小売マーケティングに興味・関心を持つこと、現実を理解、分析するための小売マーケティングの理論体系と基本概念を理解できる。(経営学科の「学位授与の方針」のD項目と関連している。)
キーワード	小売業、マーケティング・ミックス、購買行動、顧客関係
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト2回及び最終課題レポートで成績を評価する。 ・第1回小テスト 評価割合15%（達成目標1を確認） ・第2回小テスト 評価割合15%（達成目標2と3を確認） ・最終課題レポート 評価割合70%（達成目標1～4を確認） 総計で60%以上を合格とする。
教科書	小売マーケティング・ハンドブック/青木均/同文館出版/ISBN 978-4-495-64531-1
関連科目	商業基礎、マーケティング論
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7階 張婧研究室 直通電話 086-256-9850 E-mail:j-zhang@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー 春学期月曜日2限、木曜日2限 秋学期月曜日3限、木曜日3限
授業の運営方針	・講義資料は期間限定してMomo-campusで配布する。講義中は資料配布しない。ダウンロード期間終了後の資料配布請求には原則応じない。 ・講義中の撮影は他の受講者の防げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・試験のフィードバックについて、小テストは採点后講義中で行い、最終課題レポートはMomo-campusのフィードバック機能を用いて行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・試験のフィードバックについて、小テストは採点后講義中で行い、最終課題レポートはMomo-campusのフィードバック機能を用いて行う。
合理的配慮が必要な学生	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供している。

生への対応	ますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	金融システム(再)【火2金2】(FIV15900)
英文科目名	Financial System
担当教員名	山口隆久(やまぐちたかひさ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。金融論でなにを学ぶか。
2回	貨幣(貨幣の役割、定義、内訳、貨幣と物価の関係、新しい貨幣など)について説明する。
3回	金利(金利とは、金利の重要概念、利子率の決定要因など)について説明する。
4回	金融政策の為のマクロ経済学(基本モデル、貨幣数量説も出る、効果分析、金利政策の枠組みなど)について説明する。
5回	金利政策の課題と日本銀行(金融政策の課題、中央銀行として、金融政策の重点など)について説明する。
6回	金融政策の基本手段と新しい展開(ゼロ金利政策、量的緩和政策、買入債権の多様化など)について説明する。
7回	金融システムと金融仲介機関の役割(金融システムの機能、金融仲介の役割、金融の中核を占める銀行、日本の銀行の課題など)について説明する。
8回	銀行以外の金融機関について説明する。続いて第1回から第8回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。
9回	金融システムの安定化のための政策(揺らぐ金融システム、プルーデンス政策、自己資本比率規制など)について説明する。
10回	金融機関の破綻への対応策(事後的政策、公的資金の資本注入、証券会社の顧客の保護など)について説明する。
11回	金融市場に関する規制(自由化、国際化、技術発展と金融市場、規制の必要性など)について説明する。
12回	間接金融型の金融商品(金融リテラシーと金融経済事情、銀行預金、郵便局の預金商品、生命保険など)について説明する。
13回	直接金融型の金融商品(公社債、株式、投資信託、金融派生商品など)について説明する。
14回	ファイナンスの基礎理論(資産選択の理論、資産価格の決定理論、企業金融の理論、コーポレートガバナンスと企業買収など)について説明する。
15回	企業買収について再確認しながら学習する。続いて第9回から第15回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。

回数	準備学習
1回	特になし
2回	第1回の講義に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
3回	第2回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
4回	第3回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
5回	第4回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
6回	第5回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
7回	第6回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
8回	予習として第1回から第7回までの学習内容についてまとめておくこと。(標準学習時間90分)
9回	第8回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
10回	第9回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
11回	第10回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
12回	第11回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
13回	これまでに配布した資料に目を通しておくこと(標準学習時間90分)
14回	これまで配布の資料をチェックして、法人マネジメントについて考えておくこと(標準学習時間90分)
15回	事業投資について復習すること これまでに配布した資料に目を通しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	本講義は、金融に関心を持ってもらうために2年次の「ファイナンス」からの継続科目である。金融論は身近な問題を扱う学問ですが、「難しい」学問であることも事実である。金融論のカバーする範囲は非常に広く、かつ、それぞれの領域で急激な変化が起こっている。そこで、本講義では、金融論を学ぶことの現実的な意義を感じてもらうために、現実の経済に関する内容をより多く取り上げていく。結果、金融論を学んで少しでも理解することにより、今後の生活に適切に活用できるようにすることを目的とあう。(経営学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与、項目Dに強く関与)
------	--

達成目標	日々取り上げられる経済ニュースには、金融に関わる出来事が散見されます。本講座を履修することにより、経済ニュースの理解を深めることを期待します。 1) 多様な金融論について具体的に説明できる。(A) 2) 金融論に関連する事象を分析するための基本的な概念や理論について説明できる。(A,D) ※ () 内は経営学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	貸借対照表, 損益計算書, キャッシュフロー, NPV, IRR, ROC, CAPM, 間接金融, 直接金融, WACC, MM理論, M&A
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験（第8回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）と第15回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	金融論（第2版）中央経済社 家森信康 2019.1.1 ISBN978-4-502-29051-0
関連科目	「金融システム」
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A1号館7F 山口隆久研究室 t-yama@mgt.ous.ac.jp 086-256-9752
授業の運営方針	授業は必ず出席するよう努めること。やむを得ず遅刻・欠席する場合は担当教員に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業の振り返りでの質問や疑問点は、授業の中で取り上げてゆく。また、レポートは授業の中でコメントを付しながらフィードバックしてゆく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	銀行にて金融業務、企画立案業務に20年以上携わってきた経験がある教員（山口隆久）が、その実務経験、及びマネジメント分野での博士学位取得の両方を活かして、具体的な戦略課題や立案の視点を理論的に講義し、戦略策定の能力の向上等を指導する。
その他（注意・備考）	(1) 試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。(2) 課題（レポートや小テスト）に対するフィードバックは、講義中に行うこととする。(3) 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。

科目名	ファイナンス(再)【水3水4】 (FIV16000)
英文科目名	Finance
担当教員名	山口隆久(やまぐちたかひさ), 佐伯健司*(さいきけんじ*)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。ファイナンス戦略とはどのようなことを学ぶのか。 (全教員)
2回	時間的価値, 機会費用, NPV, IRRを中心に説明する。 (佐伯 健司*)
3回	資本コストを説明する。 (佐伯 健司*)
4回	家計の負債管理を説明する。 (佐伯 健司*)
5回	投資にあたり重要な判断基準を説明する。 (佐伯 健司*)
6回	家計の投資管理について説明する。 (佐伯 健司*)
7回	企業の財務分析について説明する。 (佐伯 健司*)
8回	家計のプランと分析を中心に説明する。続いて第1回から第8回までの講義内容の確認テストおよび, そのテストの解説を受ける。 (佐伯 健司*)
9回	債権の評価について説明する。 (佐伯 健司*)
10回	ポートフォリオ理論を中心に説明する。 (佐伯 健司*)
11回	企業の評価評価の手法を説明する。 (佐伯 健司*)
12回	配当政策を説明する。 (佐伯 健司*)
13回	リスク・マネジメントについて説明する。 (佐伯 健司*)
14回	企業の合併・買収を説明する。 (佐伯 健司*)
15回	合併・買収について再確認しながら学習する。続いて第9回から第15回までの講義内容の確認テストおよび, そのテストの解説を受ける。 (全教員)

回数	準備学習
1回	特になし
2回	特になし
3回	第2回の講義後, 次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)

4回	第2回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
5回	第4回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
6回	第4回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
7回	第6回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
8回	第6回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
9回	第8回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
10回	第8回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
11回	第10回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
12回	第10回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
13回	第12回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
14回	第12回の講義後、次回の教科書の範囲を伝えるので事前に確認しておくこと（標準学習時間90分）
15回	事業投資について復習すること これまでに配布した資料に目を通しておくこと（標準学習時間90分）

講義目的	本講義の目的は、はじめて「ファイナンス」を学ぶ人を対象に、コーポレート・ファイナンスの基礎的概念を学ぶことである。ファイナンスというワードは非常に多義的な意味をもっている。それは私たちの社会生活において、ファイナンスというものがとても関係が深いことの表れであろう。本講義の目的はファイナンスの考え方を理解することにより、今後の生活に適切に活用できるようにすることである。初学者には難しいことでも、身近な事例を用いて、基礎的理解を深めるよう、平易に説明する。（社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与、項目Bに強く関与）
達成目標	日々取り上げられる経済ニュースには、ファイナンスに関わる出来事が散見されます。本講座を履修することにより、経済ニュースの理解を深めることを期待します。 1) 多様なファイナンスについて具体的に説明できる。(A) 2) ファイナンスに関連する事象を分析するための基本的な概念や理論について説明できる。(A,D)
キーワード	NPV, IRR, PBR, ROE, ROA, WACC, CAPM, MM理論, 期待値, 偏差, 分散, 正規分布, 無差別曲線, M&A, LBO, MBO, DES
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験（第8回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）と第15回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	「1からのファイナンス」榊原茂樹・岡田克彦 編著 碩学舎 ISBN978-4-502-69710-4
関連科目	金融論（3年次開講）
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7F 山口隆久研究室 t-yama@mgt.ous.ac.jp 086-256-9752
授業の運営方針	授業は必ず出席するよう努めること。やむを得ず遅刻・欠席する場合は担当教員に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業の振り返りでの質問や疑問点は、授業の中で取り上げてゆく。また、レポートは授業の中でコメントを付しながらフィードバックしてゆく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	銀行にて金融業務、企画立案業務に20年以上携わってきた経験がある教員（山口隆久）が、その実務経験、及びマネジメント分野での博士学位取得の両方を活かして、具体的な戦略課題や立案の視点を理論的に講義し、戦略策定の能力の向上等を指導する。
その他（注意・備考）	(1) 試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。(2) 課題（レポートや小テスト）に対するフィードバックは、講義中に行うこととする。(3) 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。

科目名	ミクロ経済解析(再)【月3木3】(FIV16100)
英文科目名	Micro-Economics
担当教員名	(未定) (みてい)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス。講義の進め方を説明し、ミクロ経済の概観を説明する。
2回	授業を行うために最低限必要な連立方程式を復習する。
3回	消費者は何を規準として意思決定を行っているのかについて説明する。
4回	消費者の効用最大化行動を経済学の枠組みで説明する。
5回	財の価格が変化したときの消費者の効用最大化行動の変化について、所得効果と代替効果を用いながら説明する。
6回	異時点間の問題を考え、消費者はどのように消費量や貯蓄量を決定するのかについて説明する。
7回	消費者余剰、生産者余剰および社会余剰について説明する。
8回	2回から7回までの練習問題を解き、その解説をする。
9回	財政の役割、租税の原則および種類について説明する。
10回	所得税の性質を超過負担の観点から説明する。
11回	消費税の性質を超過負担の観点から説明する。
12回	公平性の観点から消費税と所得税の性質について説明する。
13回	9回から12回までの練習問題を解き、その解説をする。
14回	税の転嫁と税が社会余剰に与える効果について説明し、これまでの講義内容をまとめる。
15回	税制度について学習する。続いて第9回から第15回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。

回数	準備学習
1回	ミクロ経済学の目的について、第1回目の講義を踏まえてきちんと整理しておくこと(標準学習時間30分)
2回	連立方程式を解き、与えられた関数をきちんと図示できるように復習をしておくこと(標準学習時間60分)
3回	消費者の行動規準についてきちんと復習をしておくこと(標準学習時間60分)
4回	消費者の効用最大化行動にはなぜ予算制約線と無差別曲線を用いるのかについて説明できるように復習をしておくこと(標準学習時間60分)
5回	所得効果と代替効果について図示によって説明できるように復習をしておくこと(標準学習時間60分)
6回	異時点間の消費決定について、所得効果と代替効果を用いて説明できるように復習をしておくこと(標準学習時間40分)
7回	消費者余剰、生産者余剰および社会余剰について言葉と図示によって説明できるように復習をしておくこと(標準学習時間60分)
8回	第3回から第6回までで分からないところを見つけておくこと(標準学習時間60分)
9回	日本の財政状況について、調べておくこと(標準学習時間60分)
10回	第5回目で行った所得効果と代替効果についてしっかりと復習をしておくこと(標準学習時間40分)
11回	第5回目で行った所得効果と代替効果についてしっかりと復習をしておくこと(標準学習時間30分)
12回	「逆進性」について参考書などで調べておくこと(標準学習時間50分)
13回	消費税と所得税という2つの税体系を超過負担と逆進性の観点からきちんと復習すること(標準学習時間60分)
14回	第14回までに社会余剰について復習をしておくこと(標準学習時間60分)
15回	講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)

講義目的	本講義では消費者の行動を通じて経済現象を説明することを目的とする。そのために、消費者の効用最大化行動、租税の性質、公平性と超過負担という観点からいくつかの税体系のもつ性質について述べる。(社会情報学科の学位授与方針項目Bにもっとも強く関与し、Cに強く関与する)
達成目標	ミクロ経済学の基本的な考え方を理解し、把握して欲しい。日々取り上げられる経済ニュースには、それこそ金融を中心とした経済に関わる出来事が散見されます。本講座を履修することにより、経済ニュースの理解を深めることを期待します。 1) 多様なミクロ経済学について具体的に説明できる。(A) 2) ミクロ経済学に関連する事象を分析するための基本的な概念や理論について説明できる。(A,D)

キーワード	財政、効率性、公平性
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験（第8回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）と第15回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	授業で指示する。
関連科目	マクロ経済分析、社会学
参考書	ミクロ経済学をつかむ／神戸伸輔 他／有斐閣　：コア・テキスト　財政学／小塩隆士／新世社
連絡先	連絡は、A1号館7F 学部長の山口研究室まで
授業の運営方針	この授業ではミクロ経済学の基礎を学んでいくので、授業は必ず出席するよう努めること。やむを得ず遅刻・欠席する場合は担当教員に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業の振り返りでの質問や疑問点は、授業の中で取り上げてゆく。また、レポートは授業の中でコメントを付しながらフィードバックしてゆく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	（1）講義中の録音／録画／撮影は原則禁止する。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可する。

科目名	マクロ経済解析(再) (FIV16200)
英文科目名	Macro-Economics
担当教員名	(未定) (みてい)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス。授業の進め方や経済学、さらにはミクロ経済学とマクロ経済学の違いについて説明する。
2回	日本の格差の現状およびその原因について説明する。
3回	第2回目の授業を踏まえて、格差の問題点を整理する。
4回	格差をはかる指標であるジニ係数について説明する。
5回	世代間格差について説明し、その現状を把握する。
6回	世代間格差の問題点を整理する。
7回	年金制度について説明する。
8回	年金制度と世代間格差について説明する。続いて第1回から第8回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。
9回	年金制度改革を考察するために必要な経済理論について説明する。
10回	9回目の講義をもとに、年金制度改革を考察するために必要な経済理論について説明する。
11回	年金制度改革に関する問題点を整理する。
12回	課税平準化理論について説明する。
13回	課税平準化理論を用いて、制度移行のタイミングについて説明する。
14回	事前積立方式を説明し、これまでの講義内容をまとめる。
15回	年金制度について学習する。続いて第9回から第15回までの講義内容の確認テストおよび、そのテストの解説を受ける。

回数	準備学習
1回	ミクロ経済学はどのような学問であったかを整理しておくこと (標準学習時間60分)
2回	格差にはどのような種類があるか、調べてみる (標準学習時間60分)
3回	格差は必ずしも悪だろうか、考えてみる (標準学習時間60分)
4回	日本のジニ係数の推移について調べておくこと (標準学習時間60分)
5回	生まれるタイミングによって生じる格差とはどのようなものか、考えてみる (標準学習時間60分)
6回	世代間格差はなぜ問題なのか、調べておくこと (標準学習時間60分)
7回	年金制度の仕組みについて調べておくこと (標準学習時間80分)
8回	みなさんが受け取ると予測される年金額はいくらだろうか、調べてみる (標準学習時間60分)
9回	一次方程式を復習しておくこと (標準学習時間90分)
10回	消費者の効用最大化行動について復習しておくこと (標準学習時間120分)
11回	来年から年金制度を変更したとすると、どのような問題が生じるだろうか、考えてみる (標準学習時間60分)
12回	消費者の効用最大化行動における所得効果と代替効果について復習しておくこと (標準学習時間80分)
13回	年金制度改革を急ぐことで、どのような弊害が発生するだろうか、考えてみる (標準学習時間60分)
14回	年金制度の運営方式について再度復習しておくこと (標準学習時間60分)
15回	講義内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間180分)

講義目的	「格差」をキーワードとして講義を進めていく。格差とは何か、格差は拡大しているのか、格差を議論するうえで注意しなければいけない事は何か、などについて考えていく。また、年金制度においても世代間格差が注目されており、世代間格差を緩和するための政策とは何か、についても見ていく。 (社会情報学科の学位授与方針項目BとFにもっとも強く関与し、Cに強く関与する)
達成目標	①経済学の基礎的な知識を身に付け、理論的に物事が判断できるための力を養う。 ②新聞記事を読み、自分自身で政策の効果が評価できるようになるための知識を身につける。マクロ経済学の基本的な考え方を理解し、把握して欲しい。日々取り上げられる経済ニュースには、それこそ金融を中心とした経済に関わる出来事が散見されます。本講座を履修することにより、経済ニュースの理解を深めることを期待します。 1) 多様なマクロ経済学について具体的に説明できる。(A) 2) マクロ経済学に関連する事象を分析するための基本的な概念や理論について説明できる。(A,D)

キーワード	世代間格差、社会保障、年金制度
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間内の試験（第8回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）と第15回目に実施する確認テスト50%（達成目標1）および2）を確認）により評価し、総計で60%以上を合格とする。
教科書	適宜、指示する。
関連科目	経済原論、ミクロ経済分析
参考書	人口経済学/加藤久和/日経文庫(1160)
連絡先	連絡は、A1号館7F 学部長の山口研究室まで
授業の運営方針	この授業ではマクロ経済学の基礎を学んでいくので、授業は必ず出席するよう努めること。やむを得ず遅刻・欠席する場合は担当教員に連絡すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	授業の振り返りでの質問や疑問点は、授業の中で取り上げてゆく。また、レポートは授業の中でコメントを付しながらフィードバックしてゆく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	(1) この講義では、レジュメはMomo-campusを通じて配布する。 (2) 講義中の録音／録画／撮影は原則禁止する。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可する。

科目名	地域経済分析(再)【火1金1】(FIV16300)
英文科目名	Regional Economics
担当教員名	松村博行(まつむらひろゆき)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	・ガイダンスー冒頭に講義の進め方や成績評価について説明する ・経済政策を見る目をやしなう①ーアベノミクスを事例に経済政策の範囲を確認する
2回	経済政策を見る目をやしなう②ー経済統計の種類や基本的な見方について説明する
3回	日本の経済政策の歴史①ー戦前から終戦後にかけての経済政策の特徴について説明する
4回	日本の経済政策の歴史②ー高度経済成長期の経済政策の特徴について説明する
5回	日本の経済政策の歴史③ーバブル経済期の経済政策の特徴について説明する
6回	日本の経済政策の歴史④ーバブル崩壊後の経済政策の特徴について説明する
7回	第1回達成度確認テスト(30分) テストの解説(20分) 日本の経済政策の歴史⑤ー小泉政権期の経済成長の特徴について説明する
8回	日本の金融政策①ー金融、金融政策の概念について説明する
9回	日本の金融政策②ー2000年代以降の金融政策の特徴について説明する
10回	日本の金融政策③ー「異次元の金融政策」の特徴について説明する
11回	日本の通商政策①ー自由貿易の利点について説明した後、通商政策の範囲や目的について説明する
12回	日本の通商政策②ー産業構造の高度化が日本の国際収支に与えた影響を説明する
13回	日本の通商政策③ー21世紀型の貿易について説明した後、そこで求められる通商政策について概説する
14回	日本の通商政策④ーアジア太平洋に広がるメガFTAの種類とその政治経済的目的について説明する
15回	講義全体の補足的説明(40分) 第2回達成度確認テスト(30分) テストの解説(20分)

回数	準備学習
1回	予習：新聞やネットニュースを通じて、経済政策に関して調べておくこと(標準学習時間60分) 復習：アベノミクスの「3本の矢」について復習しておくこと(標準学習時間60分)
2回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習：雇用統計、四半期別GDP速報等の読み方を復習しておくこと(標準学習時間60分)
3回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習：高橋財政、戦後の経済民主化を復習しておくこと(標準学習時間60分)
4回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習：国際収支の天井、産業構造の転換を復習しておくこと(標準学習時間60分)
5回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習：バブル経済に至る過程について復習しておくこと(標準学習時間60分)
6回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習：「失われた10年」を復習しておくこと。また、次回の中間テストの準備をしておくこと(標準学習時間120分)
7回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習：小泉構造改革の内容について復習しておくこと(標準学習時間60分)
8回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習：日本型金融と中央銀行の標準的な金融政策について復習しておくこと(標準学習時間60分)
9回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分)

	復習：非伝統的な金融政策の特徴について復習しておくこと（標準学習時間60分）
10回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと（標準学習時間60分） 復習：量的質的緩和の内容とそのリスクについて復習しておくこと（標準学習時間60分）
11回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと（標準学習時間60分） 復習：比較生産費説、戦後自由貿易レジームについて復習しておくこと（標準学習時間60分）
12回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと（標準学習時間60分） 復習：国際収支の読み方について復習しておくこと（標準学習時間60分）
13回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと（標準学習時間60分） 復習：サプライチェーンのグローバル化について復習しておくこと（標準学習時間60分）
14回	予習：前回に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと（標準学習時間60分） 復習：メガFTAの種類とそれぞれの特徴について復習しておくこと（標準学習時間60分）
15回	予習：第8回以降の講義内容について復習しておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義では、経済政策の基本的な概念を習得した後に戦後の日本の経済政策を総体的に学び、その変遷をそれぞれの時代状況と結びつけて理解する。また、2000年代以降の日本の通商政策とグローバル経済とを関連付けて学び、TPPやRCEPといった経済圏構想がどのようにして生まれたのかを理解する。 （社会情報学科の学位授与方針の項目BとFにもっとも強く関与する）
達成目標	(1)経済政策の枠組みやそれぞれの目的について説明することができる(B・F) (2)戦後日本において実施された経済政策の時代ごとの特徴を説明することができる(B・F) (3)今日の日本の通商政策の特徴と目的を説明することができる(B・F) ※（ ）内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	ポリシーミックス ケインズ主義 高橋財政 高度経済成長 国際収支の天井 日米経済摩擦 バブル経済 失われた10年 小泉構造改革 異次元の金融緩和 経常収支 通商政策 FTA・EPA 21世紀型の貿易ルール メガFTA
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	40点：毎回の講義で実施するミニテスト 60点：達成度確認テスト（中間30点・最終30点） ※上記2種類のテストにて達成目標の(1)から(3)を確認する。
教科書	毎回レジュメを配布する。また、予習すべき内容については毎回マテリアルを配布するので、それを必ず読んでくること。
関連科目	経済学基礎 ミクロ経済学 公共政策
参考書	『入門 現代日本の経済政策』／岡田知弘・岩佐和幸編／法律文化社／978-4-589-03753-4
連絡先	研究室 A1号館7階702 E-mail yuki-mat(アットマーク)mgt.ous.ac.jp
授業の運営方針	・毎回、授業の初めに5分程度のミニテストをweb上で実施する。スマホ所有者は毎回持参するように。持っていない受講生はペーパーテストを実施する。 ・他の受講生の妨害になる振る舞い（雑談等）については、退場も含めて厳しく対処する。 ・飲食のうち、「食」についてはガムやアメも含めて認めない。
アクティブ・ラーニング	この授業では対話、ライティングを行います。また、こちらから質問を投げかけたり、自由な発言の時間を設定するので、有意義に活用して下さい。
課題に対するフィードバック	・毎回のミニテストは、実施直後に解説を行います。 ・達成度確認テストについても、実施後に解説を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	経済情報化論(再) (FIV16400)
英文科目名	Analysis of Informational Economy
担当教員名	水谷直樹 (みずたになおき)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクションとして、本講義全体を概説する。
2回	不確かな状況のもとで行われる意思決定に関して、人々の行動に合理的な説明を与える意思決定の理論について概説する。
3回	不確かな状況のもとで幾つかの代替案の中から最適なものを選ぶ際の決定基準について、代表的なものを解説する。
4回	人々の意思決定を理解する道具として、期待効用仮説を解説する。意思決定の結果として得られる利得が確率的である場合の利得評価について解説する。
5回	不確実性下の意思決定を期待効用仮説にもとづいて説明する場合に、グラフを活用する方法について説明する。
6回	期待効用仮説によって種々の意思決定が説明できることを示す。保険が購入される理由、ビジネスの多角化が行われる理由などを期待効用仮説を用いて説明する。
7回	リスクが取引可能であることを示し、リスクの引き受けにおいて編み出された手法であるシンジケートとプーリングについて説明する。
8回	情報の非対称性について解説する。売り手と買い手との間で保有する情報量に大きな差がある場合の市場への影響について説明する。
9回	情報の非対称性が存在することによって生じる種々の問題を取り上げて説明する。
10回	情報の非対称性によって生じる種々の問題を解決する方策について解説する。
11回	保険を事例として、情報の非対称性の存在がもたらす弊害と、その状況への対処方法について説明する。
12回	商品あるいはサービスの販売において、情報が非対称である場合に採用される戦略としての価格差別について解説する。
13回	意思決定理論としてのプロスペクト理論について概説する。
14回	プロスペクト理論の着眼点である人間の行動特性について説明する。
15回	全体のまとめを行うとともに、状況に応じて理解を深めるために適宜復習を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認するとともに、経済原論のうちミクロ経済学に登場する「個人の効用」について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
2回	自分が携帯電話あるいはスマートフォンを購入した際に、多くの機種から現在保有する機種を選んだ理由を説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1時間)
3回	前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
4回	経済原論のうちミクロ経済学で学んだ個人の効用について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
5回	経済原論のうちミクロ経済学で学んだ効用関数の特性について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
6回	火災保険等の保険に加入する際、自分はいくらまでなら保険料を払うか考え、その理由を明確にしておくこと。(標準学習時間1時間)
7回	起きるかどうかわからない事故を対象に保険金を支払う保険会社のビジネスを成り立たせるための工夫について考察すること。(標準学習時間1時間)
8回	商品が高度化したスマートフォンなどで、売り手と買い手の間で商品に関して保有する情報量に大きな差が生じていることを確かめること。(標準学習時間1時間)
9回	売り手と買い手の間で商品に関して保有する情報量に差が生じている場合に、どのような問題が起きるのか推測しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
10回	前回の授業内容を復習し、情報の非対称性について復習すること。(標準学習時間1.5時間)
11回	保険に加入する場合と加入しない場合とで、行動に変化が起きる事例について、その理由を考察しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
12回	同一の商品が、販売相手や時間等の違いによって異なる価格で販売されている例について調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)
13回	子供の頃に1万円を受け取る嬉しさと現在1万円を受取る嬉しさの違いについて論じることができるようしておくこと。(標準学習時間1.5時間)
14回	当選金の期待値が低いことを知っているのに、人々が宝くじを購入する理由について考察しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
15回	これまでに学んだ内容を振り返っておくこと。(標準学習時間1.5時間)

講義目的	経済取引を行う主体間で保有する情報量に格差が存在する場合、円滑な経済取引が阻害されることがある。このような情報の非対称性が存在する状況は、程度の差はあるものの、どのような経済取引においても起きるものである。本講義では、まず不確実性下の意思決定について、経済学における説明手法について学ぶ。そして、情報の非対称性が存在する状況であっても効率的な経済取引がなされるための方策について理解する。（社会情報学科の学位授与方針項目 C および F にもっとも強く関与、項目 B に強く関与する。）
達成目標	(1) 個人の意思決定について、そして意思決定において重要な役割を果たす情報について、ミクロ経済学にもとづいて説明ができる。(C,B) (2) 情報の非対称性について理解し、情報の非対称性が存在するために起きる非効率を説明でき、対処方法について説明できる。(C,F,B) () 内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	意思決定理論、情報の非対称性
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業の中での課題提出(30%)および適宜実施する小テスト(70%)により達成目標 (1), (2) を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。
教科書	配布する講義資料による。
関連科目	経済原論
参考書	授業中に紹介する。
連絡先	水谷研究室 A1号館8階 (mizutani@mgt.ous.ac.jp) オフィスアワーは mylog 掲載のオフィスアワーを参照のこと。
授業の運営方針	少人数の授業であるので、欠席する場合は、事前に担当教員にメールにてその旨を伝えること。
アクティブ・ラーニング	受講者数が5名程度の少人数の授業であり、アクティブ・ラーニングにあたる。
課題に対するフィードバック	少人数の授業なので、その場でフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	社会情報実習α(再)【月1木1】(FIV16500)
英文科目名	Socio-Information Practice a
担当教員名	森裕一(もりゆういち)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	これまでの学習内容を基に、調査の流れと情報収集・分析・発信の方法を確認する。
2回	社会調査におけるオープンデータの活用方法とWeb提供ツールを理解する。
3回	経済分野をテーマとしたデータ収集1(人口動態オープンデータ、自治体提供データを用いたデータ分析を理解する。)
4回	前回のデータを用いた分析の報告書作成を行う。
5回	経済分野をテーマとしたデータ収集2(生活関連オープンデータ、自治体、e-statを用いたデータ分析を理解する。)
6回	前回のデータを用いた分析の報告書作成を行う。
7回	経営分野をテーマとしたデータ収集1(消費関連オープンデータ、e-statを用いたデータ分析を理解する。)
8回	前回のデータを用いた分析の報告書作成を行う。
9回	経営分野をテーマとしたデータ収集2(観光関連オープンデータ、自治体・e-stat・RESASを用いたデータ分析を理解する。)
10回	前回のデータを用いた分析の報告書作成を行う。
11回	地域をテーマとしたデータ収集1(地域活性化関連オープンデータ、e-stat・RESASを用いたデータ分析を理解する。)
12回	前回のデータを用いた分析の報告書作成を行う。
13回	格差と社会意識についてのデータ収集(社会調査研究機関等の公開データを用いたデータ分析を理解する。)
14回	前回のデータを用いた分析の報告書作成を行う。
15回	2次分析の総括(作成した報告書を基にした総合的な分析と総合報告書の作成を行う。)

回数	準備学習
1回	データの収集から、情報の発信までの一連の調査処理の過程を確認しておくこと(標準学習時間60分)
2回	総務省等の官公庁のオープンデータのホームページを閲覧しておくこと(標準学習時間90分)
3回	人口動態に関するデータを閲覧し、調査対象を絞り込んでおくこと(標準学習時間60分)
4回	前回処理した内容を報告書としてまとめられるよう準備をしておくこと(標準学習時間60分)
5回	生活調査や家計調査のデータを閲覧し、調査対象を絞り込んでおくこと(標準学習時間60分)
6回	前回処理した内容を報告書としてまとめられるよう準備をしておくこと(標準学習時間60分)
7回	消費関連のデータを閲覧し、調査対象を絞り込んでおくこと(標準学習時間60分)
8回	前回処理した内容を報告書としてまとめられるよう準備をしておくこと(標準学習時間60分)
9回	観光データやRESASのページを閲覧し、調査対象を絞り込んでおくこと(標準学習時間90分)
10回	前回処理した内容を報告書としてまとめられるよう準備をしておくこと(標準学習時間60分)
11回	RESAS、e-statのページで、地域活性に関するデータを閲覧し、調査対象を絞り込んでおくこと(標準学習時間90分)
12回	前回処理した内容を報告書としてまとめられるよう準備をしておくこと(標準学習時間60分)
13回	社会調査アーカイブ等のサイトを閲覧し、調査対象を絞り込んでおくこと(標準学習時間60分)
14回	前回処理した内容を報告書としてまとめられるよう準備をしておくこと(標準学習時間60分)
15回	これまで行ってきたデータ分析および報告書をまとめておくこと(標準学習時間120分)

講義目的	本実習では、社会調査実習とともに、社会調査の全過程を体験的に学習する。ここでは、オープンデータを用いた統計データの2次利用による社会調査の実際を体験する。経済、経営、社会の各分野の問題解決をテーマに、e-statやRESASなどのWebで提供されている統計ツールの活用も図り、調査の企画、集計、分析、報告書作成を行う。(社会情報学科の学位授与方針項目A、C、Dに強く関係する)
達成目標	1)社会調査の意義と目的について説明できる。(A) 2)オープンデータの所在と利用方法を理解し、実際に活用・分析できる。(A、C) 3)調査の各種方法を説明でき、目的に応じて手法を選択できる。(A) 4)分析結果を報告書として公表できる形に整形できる。(D) 5)実際の問題解決場面におけるデータサイエンスの活用方法を説明できる。(C)
キーワード	オープンデータ、統計情報利活用サイト、報告書、データ分析
試験実施	実施しない

成績評価（合格基準60点）	前半のテーマごとに提出する報告書（13点× 6回，達成目標の2)～4)をチェックする）および総合報告書（22点，達成目標の1)～5)をチェックする）で評価し，すべての提出物が提出された者に対して，総計で60%以上を合格とする。
教科書	momo campus で指示および資料を配付する。
関連科目	これまで学習したデータサイエンス系の科目（1年次の「データ解析基礎」「社会情報入門」「社会調査法」，2年次の「データ解析システム」「行動計量学」）の学習内容は演習のツールとして用いる。
参考書	データマイニング事例集／上田太一郎／共立出版
連絡先	研究室：A1号館8階 直通電話：086-256-9652 E-mail: mori@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜日3時限
授業の運営方針	既習の知識と技能を総動員する形で，データ収集から分析・報告までを実際に行う。したがって， ・基本的に，2名での共同作業とするが，提出課題は1人1作品を必ず提出期限までに提出する。 ・オープンデータ（e-stat，RESASを含む）および社会調査アーカイブの提供データを利用する。 ・Excelにとどまらず，統計解析パッケージR，Web上で提供されている統計ツールを駆使する。 ・レポート作成で他人のファイルを流用するなどの不正があった場合，厳正に対処する。
アクティブ・ラーニング	基本的に，2名での共同作業形式をとり，共同で報告書作成を行う。
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは，チェック後，返却する。指摘された点は，都度修正すること。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので，配慮が必要な場合は，事前に相談してください。 2名の共同作業を前提としますが，1名で行っても構わないこととします。 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由としますが，他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止します。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	「社会調査士」認定科目である。

科目名	社会学(再)【月4木4】 (FIV16600)
英文科目名	Sociology
担当教員名	八木一郎 (やぎいちろう)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして、授業の内容、進め方、成績評価の方針について把握する。続いて、社会学とは何か、その歴史や学問としての対象領域、学ぶ意義などについて理解する。
2 回	「社会的事実」という概念を社会学の対象と捉えたフランスの社会学者エミール・デュルケームの理論を学習する。社会と個人の関係、犯罪についての考え方などデュルケーム独自の概念を考察する。
3 回	ドイツの社会学者マックス・ウェーバーの理論を学習する。「職業としての政治」「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」の2大著作から政治や経済の分野まで、近代社会における多様な概念を築いたウェーバーの事績を理解する。
4 回	社会と個人の関係を考察したゲオルグ・ジンメル理論を学習する。「相互行為」を通して社会は成立し、形式社会学の立場で社会のあり様をさまざまなテーマで論じたジンメルの概念を理解する。
5 回	アービング・ゴフマンの理論について学習する。個人個人の関係で成立しているのが社会であり、人々の「相互行為」によって秩序が維持されているという概念を理解する。
6 回	地位と役割について分析したタルコット・パーソンズの理論を学習する。人間の行為と社会秩序の関係に着目し、機能主義を提唱したパーソンズの概念を理解する。
7 回	パーソンズが提唱した「構造＝機能分析」が社会学に与えた影響と、社会システムの存続のために提起した要件について理解する。
8 回	「自分」とは何か、社会との関係性について学習する。クーリーの「鏡に写った自我」、ミードの「自我 I と me」それぞれの考え方について理解する。
9 回	最も身近な日常生活の場である「家族」のあり方について、歴史的な変遷を学び、社会の中でどのように位置づけられてきたか、どのような機能を果たしてきたかについて理解する。
10 回	仕事と組織に関して個人や社会との関わりについての概念を学習する。職場という「組織」、公的な組織体系と人間関係に基づく非公式な組織体系、組織のあり方によって異なる働き方など、働き方をめぐる多様な概念を理解する。
11 回	格差社会について学習する。階級と階層の違い、産業社会が形成される中で、カール・マルクスが提唱した生産と生産力の「矛盾」や階級「闘争」について理解する。
12 回	日本社会における格差社会の問題について学習する。戦後の高度経済成長で「総中流」といわれた日本社会が、今日の格差社会と呼ばれるようになった変遷について、これまでの主要な考察を理解する。
13 回	情報化社会の歴史と人々の暮らしの変容について学習する。情報通信技術の発展によって進む社会の「情報化」、マスメディアとソーシャルメディアの特性、人々の習慣や思考形式に関する概念を理解する。
14 回	ミシェル・フーコーが提起した「監視社会」について学習する。情報技術の進展に伴って進む監視社会。その歴史と、ビッグデータやAI (人工知能) によって電子情報化が進む現代社会の特性について理解する。
15 回	ウルリヒ・ベックの「危険社会」とベネディクト・アンダーソンの「想像の共同体」について学習する。近代社会のあり方を独自の視点でとらえた2人の学者の考察について理解する。

回数	準備学習
1 回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。授業の内容を確かめ、自分の関心のある内容についてまとめておくこと。復習：社会学の歴史や学問としての対象領域、現代における社会学を学ぶ意義などについて、授業の内容をまとめたノートを作ること。(標準学習時間120分)
2 回	予習：社会学の基礎を築いた1人であるエミール・デュルケームについて調べておくこと。復習：社会と個人のあり方、社会における規範と犯罪の関係についてデュルケームの考え方をまとめておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	予習：エミール・デュルケームと並ぶ社会学の基礎を築いた巨人マックス・ウェーバーについて調べておくこと。復習：近代資本主義発展の背景におけるプロテスタントの宗教倫理の意義、個人の行為を4つの類型でとらえた「社会的行為」などの概念についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	予習：デュルケームやウェーバーと並ぶ社会学者ジンメルについて調べておくこと。復習：人間社会の在り方を「個人VS社会」という構図で捉えたとき、ジンメル、デュルケーム、ウェーバーの3人の理論の相違についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	予習：人々が相互作用を行う社会に関心を持ったゴフマンについて調べておくこと。復習：人と人

	の相互行為を演劇者と観客に見立てて説明したゴフマンの概念を今日の生活にもあてはめながらまとめておくこと。（標準学習時間120分）
6回	異なる意思や利害を持った人々が、いかにして一つの社会を作り上げるかに関心を寄せたパーソンズについて調べておくこと。復習：パーソンズが述べる地位と役割が人々の立場や振る舞いにどのような影響を及ぼしているかをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
7回	予習：パーソンズの機能主義の理論を調べておくこと。復習：社会システムの考え方と、その存続要件、さらにパーソンズ理論に対する批判や時代背景についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
8回	社会との関係性の中で「自分」や「自我」について、これまでに学んだ「相互作用・相互行為」「地位・役割」といった観点から調べておくこと。復習：他者との相互作用を通じて知る「社会的自我」についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
9回	予習：核家族や性別役割分業、プライバシーなど家族をめぐる多様な形態について調べておくこと。復習：家族のあり方が、時代や社会の状況によって変化してきたことをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
10回	予習：労働や産業に関する理論を調べておくこと。復習：仕事の中身がいかに個人の社会的なあり方に影響をおよぼしているかをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
11回	予習：マルクスの提唱した社会構成体や唯物史観について調べておくこと。復習：マルクス主義が社会学に与えた影響についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
12回	予習：戦後の日本経済の変遷について調べておくこと。復習：日本社会の歴史を格差という観点からまとめておくこと。（標準学習時間120分）
13回	予習：情報技術の発展の歴史について調べておくこと。復習：情報化の進展が人々の生活に及ぼした影響や、今日のネットワーク社会のもたらす功罪についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
14回	予習：フーコーの監視社会の理論について調べておくこと。復習：今日の日常生活を取り巻く監視社会の課題についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
15回	予習：「危険社会」と「想像の共同体」について、その内容と著者について調べておくこと。復習：近現代の社会のあり方を特徴づける考察から、より望ましい社会のあり方について自分なりの考えをまとめておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	社会学は何気ない日常に目を留め、そこに埋め込まれた様々な事実を再発見する思考技法の一つである。この技法を修得することは、変動の著しい社会の潮流を冷静に見極め、対処するうえで有用である。本講義では、日常的に経験する事象について、その成立や構造を理解する手立てを身に付ける。経営学学位授与の方針項目Bに最も強く関与する。
達成目標	1) 高度情報化、グローバル化、少子高齢化など、複雑な現代社会のあり方について、その構造や背景について説明できる (A) 2) 個人や組織、コミュニケーションといった社会を構成する概念について説明できる (A、B) 3) 今ある社会の形を多様な視点から見直し、課題の発見や新たな提言ができる。(A) カッコ内は経営学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	秩序、規範、相互行為、地位、役割、集団、性差、労働、格差、情報化、社会化、世論、関係性
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中の毎回実施する小テスト50%（達成目標1、2、3を評価）、提出課題50%（達成目標3を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	講義でプリントを配布する
関連科目	現代のメディア、ジャーナリズム論、マスメディア論
参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A1号館6階 八木研究室
授業の運営方針	授業で配布するプリントと板書を基に、自分なりのノートを作成すること。小テストは毎回、授業の終わりに行い、その日の学習を確認する。提出課題は時事問題について毎回、テーマを定めるので、次の授業にまとめて提出すること
アクティブ・ラーニング	ライティング
課題に対するフィードバック	提出課題は採点后、コメントを入れて返却する
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元山陽新聞社勤務：新聞記者としての取材活動や編集業務などの実務経験を生かし、社会の仕組みや情報の重要性などへの理解を深め、リテラシー能力とニュースの読み解き方など、現代社会における情報の接し方について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	情報と社会(再)【月3木3】(FIV16700)
英文科目名	Information and Society
担当教員名	村松潤一(むらまつじゅんいち)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション(授業の狙いと受け方について説明する。サービス社会システムとは何かを概説する。)
2回	モノ、情報、サービスについて説明する。
3回	モノと工業社会の関係について説明する。
4回	工業社会の論理について説明する。
5回	モノの豊かさと心の豊かさについて説明する。
6回	主として、脱工業化と脱産業化について説明する。
7回	第1回小テスト及びフィードバック(発展問題を含む)を実施する。
8回	新しいサービス概念(1)ー純粋サービスについて説明する。
9回	新しいサービス概念(2)ー与え手(提供者)と受け手(受容者)の関係について説明する。
10回	サービス・ドミナント・ロジックについて説明する。
11回	新しいサービス概念(3)ー価値共創のマネジメントについて説明する。
12回	新しいサービス概念ー価値共創型企業システムについて説明する。
13回	消費者主権社会について説明する。
14回	サービス社会と人間中心社会について説明する。
15回	第2回小テスト及びフィードバック(発展問題を含む)

回数	準備学習
1回	予習：サービス、情報、社会、システムとは何かを具体的にイメージしておくこと。 復習：今日を敢えてサービス社会と呼ぶことの重要性を理解しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	予習：モノ、情報、サービスの特徴について考えておくこと。 復習：アートとサイエンスの関係について理解しておくこと。(標準予習時間90分)
3回	予習：社会がどのように発展してきたか考えておくこと。 復習：工業社会とモノの関係について理解しておくこと。(標準予習時間90分)
4回	予習：モノを軸とした社会は、どのようなが原理が働いていたか考えておくこと。 復習：規模の経済性、範囲の経済性、スマイルカーブ、経験効果について理解しておくこと。(標準予習時間90分)
5回	予習：モノの豊かさと心の豊かさのそれぞれを具体的にイメージしておくこと。 復習：モノと心の豊かさの関係について理解しておくこと。(標準予習時間90分)
6回	予習：脱工業化、情報化、サービス化の関係について考えておくこと。 復習：今日の情報社会がサービス社会であることの意味を理解しておくこと。(標準予習時間90分)
7回	予習：第1回から第6回までの講義についてまとめておくこと。 復習：テストのフィードバック内容について十分に理解しておくこと。(標準学習時間90分)
8回	予習：モノ化しない純粋なサービスとは何かについて考えておくこと。 復習：プロセスとしてのサービスについて理解しておくこと。(標準予習時間90分)
9回	予習：サービスの与え手(提供者)と受け手(受容者)はどのような関係にあるか考えておくこと。 復習：業種毎のサービス提供について理解しておくこと。

	くこと。(標準予習時間90分)
10回	予習:新しいサービス概念に基づくなら、マーケティングはどのようなものになるか考えておくこと。 復習:新しいマーケティングのフレームワークについて理解しておくこと。(標準学習時間90分)
11回	予習:サービス提供に際してどのようなマネジメントが必要か考えておくこと。復習:水平的マネジメントについて理解しておくこと。(標準予習時間90分)
12回	予習:顧客と価値共創するための企業システムはどのようなものか考えてくること。 復習:価値共創、価値共創型企業システムについて理解しておくこと。(標準予習時間90分)
13回	予習:消費者が主権を持つとはどのようなことか考えておくこと。 復習:消費者主権、消費者主権社会について理解しておくこと。(標準学習時間90分)
14回	予習:サービス社会におけるヒトの位置づけについて考えておくこと。 復習:人間中心社会とはどのようなものか理解しておくこと。(標準学習時間90分)
15回	予習:第1回から第14回までの講義についてまとめておくこと。復習:テストのフィードバック内容について十分に理解しておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	新しいサービス概念にもとづいたサービス社会とは何かについて明らかにする。(社会情報学科の学位授与方針項目BとFにもっとも強く関与、項目Cに強く関与する)
達成目標	1. サービス社会システムとは何かについて説明できる。(B) 2. そのことを通じて、サービス社会における様々な現象の本質を論理的に捉え、説明できる。(C) 3. その上で、サービス社会におけるヒトとしての行動を実践に結び付けることができる。(F) ()内は社会情報学科の「学位授与方針」の対応する項目
キーワード	サービス、社会、システム、プロセス
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	達成目標1~3を2回の小テストで確認し、第1回小テストを40%、第2回小テストを60%の配分として、成績を評価する。
教科書	使用しない。
関連科目	マーケティング戦略、サービス経営学
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7階 村松潤一研究室 086-256-9845 jmura@mgt.ous.ac.jp オフィスアワーについては春・秋学期とも月曜日2限目、木曜日4限目。
授業の運営方針	・講義資料(PPT)は、毎回、講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り、後日の配布に応じない。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別な理由がある場合、事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・小テストのフィードバックは講義中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を行うので、必要場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	ジャーナリズム論(再)【火1金1】(FIV16800)
英文科目名	Journalism
担当教員名	八木一郎(やぎいちろう)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、授業の内容、進め方、成績評価の方針について把握する。続いて、ジャーナリズムとは何か、その歴史的な経緯や民主主義社会にとっての意義について理解する。
2回	ジャーナリストの職業としての専門性について学習する。マスメディアの時代には専門的な職業として位置づけられたが、ソーシャルメディア時代の今日では市民ジャーナリストの役割が増していることを理解する。
3回	ジャーナリズム活動の意義について戦争報道を通じて学習する。現場取材、従軍報道、発表ジャーナリズム、知る権利など、戦争の報道でジャーナリズムが直面するさまざまな課題について理解する。
4回	記者が取材する実際について学習する。現場がジャーナリズムの原点であり、発表する側、取材する側双方のさまざまな思惑によってしばしば現場取材が軽視されている現状と問題点について理解する。
5回	事実とは何かについて理解する。「ポストトゥルース」「ファクトチェック」など、近年の報道は「事実か」「真実か」をめぐる、報道の伝え方が大きな問題になっており、「事実を伝える」とはどういうことかを理解する。
6回	ジャーナリズムに対する考え方の国による違いを学習する。特に日本と欧米では専門職としての位置づけが異なっており、背景には企業風土の違いがあることを理解する。
7回	ジャーナリズムの使命の一つであるスクープについて学習する。なぜ記者は特ダネを書くのか。スクープの報道における重要な役割を理解する。
8回	災害とジャーナリズムについて学習する。近年は大地震や豪雨などの災害が国内で相次いでおり、災害時においてジャーナリズムが果たしてきた役割について理解する。
9回	オバマ米大統領が広島訪問をした時に、ハグした1人のジャーナリストの足跡からジャーナリストの具体的な活動とその意義について理解する。
10回	ルポルタージュがどのようにして世に出たか。「ルポ コールセンター」を取り上げ、取材のきっかけから記事にするまでの経過について理解する。
11回	前回の続きで、記事が単行本として出版されるまでの経緯や執筆者がどのような考えで社会問題の取材に取り組んでいるかを理解する。
12回	表現すること、伝えることの意義、メディアの社会的責任について理解する。
13回	ジャーナリズムと倫理の問題について学習する。過去に起きた報道被害の事例などを参考に、報道倫理と報道の公共性について理解する。
14回	ジャーナリズムに対する批判とその背景について学習する。メディアそのものが本来的に有している問題点や近年の報道姿勢をめぐるさまざまな論議について理解する。
15回	ネット時代のジャーナリズムのあり方について学習する。プロが担ってきた言論の自由といったジャーナリズム活動。ネット時代の新しいジャーナリズムのあり方を理解する。

回数	準備学習
1回	予習：シラバスをよく読んでおくこと。授業の内容を確かめ、自分の関心のある内容についてまとめておくこと。復習：ジャーナリズムの歴史的な変遷や民主社会における役割について授業の内容をまとめたノートを作ること。(標準学習時間120分)
2回	予習：ジャーナリストの仕事とは何かを調べておくこと。復習：ジャーナリズムの役割の歴史的な変遷と、その役割の専門性がインターネット時代になって大きく変わっていることをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
3回	戦争に関する報道について調べておくこと。戦争という極限状況で、報道の役割やジャーナリズムの使命が問われていることをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
4回	予習：新聞を読み、ニュース記事がどう書かれているかを調べておくこと。復習：事実の重要性や現場に足を運ぶことの意義についてまとめておくこと。(標準学習時間120分)
5回	予習：「ポストトゥルース」「ファクトチェック」について調べておくこと。復習：ソーシャルメディアの広がりによって、既存のマスメディアの報道に対する疑問や批判などが広まっていることをまとめておくこと。(標準学習時間120分)
6回	予習：日本以外の世界のジャーナリストの活動について調べておくこと。復習：近代ジャーナリズムが西欧の革命期に誕生したという歴史的背景や日本のメディア産業の特性をまとめておくこと。(標準学習時間120分)
7回	予習：スクープについて調べておくこと。復習：歴史における数々のスクープが社会の秩序や規範維持に重要な役割を果たしていることをまとめておくこと。(標準学習時間120分)

8回	予習：最近起こった災害の新聞報道について調べておくこと。復習：災害時に報道機関が果たした役割とその意義についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
9回	予習：2016年のオバマ大統領の広島訪問時のニュースを調べておくこと。復習：職業ジャーナリストでない一人の民間人がいかにジャーナリストとしての使命を果たしたかをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
10回	予習：日々の新聞記事に接しておくこと。復習：ルポを書く実際の状況とルポライター自身の声から、ジャーナリストの活動の生の姿をまとめておくこと。（標準学習時間120分）
11回	予習：日々の新聞記事に接しておくこと。復習：ルポライターが何を考え、どう表現し、伝えているか。その思考や葛藤をまとめておくこと。（標準学習時間120分）
12回	予習：日々の新聞でニュースに接しておくこと。復習：事実を表現することや報道することの影響の大きさ、ときに報道被害といった問題が起きる場合もあるといったことをまとめておくこと。（標準学習時間120分）、
13回	予習：日々の新聞のニュースに接しておくこと。復習：報道被害はどのように起きるのか。報道の公共性とどうバランスをとるかについてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
14回	予習：日々のニュースに接すること。復習：ジャーナリズム批判の背景にある問題点や今日のメディアが直面する課題についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）
15回	予習：これまでに学んできたジャーナリズムの役割や既存ジャーナリズムの問題点について調べておくこと。復習：ネット社会という新しい情報環境の中で、ジャーナリズムが果たすべき役割についてまとめておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	ジャーナリズムの歴史を学び、民主社会の中でマスメディアが果たしてきた役割を修得する。ネットの普及による新しい情報環境の中でもジャーナリズム活動がより重要性を増していることを認識する。経営学部学位授与の方針Bに最も強く関与する。
達成目標	1) 民主主義社会の土台となる「知る権利」や「表現の自由」の重要性について説明できる。(A) 2) 権力の監視やチェックをするメディアの言論活動の意義を説明できる。(A) 3) メディアリテラシーを身に付ける。(A)
キーワード	言論・評論活動、知る権利、調査報道、発表ジャーナリズム
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	授業時間中に毎回実施する小テスト50%（達成目標1、2、3を評価）、提出課題50%（達成目標3を評価）により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	講義でプリントを配布する
関連科目	社会学、現代のメディア、マスメディア論
参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A1号館6階 八木研究室
授業の運営方針	授業で配布するプリントと板書を基に、自分なりのノートを作成すること。小テストは毎回、授業の終わりに行い、その日の学習を確認する。提出課題は時事問題について毎回、テーマを定めるので、次の授業にまとめて提出すること。
アクティブ・ラーニング	ライティング
課題に対するフィードバック	提出課題は採点后、コメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。
実務経験のある教員	元山陽新聞社勤務：新聞記者としての取材活動や編集業務などの実務経験を生かし、社会の仕組みや情報の重要性などへの理解を深め、リテラシー能力とニュースの読み解き方など、現代社会における情報の接し方について講義する。
その他（注意・備考）	

科目名	行政学(再)【火2金2】 (FIV16900)
英文科目名	Public Administration
担当教員名	鷲見哲男 (わしみてつお)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、授業の達成目標・進め方・評価方法について説明する。 我が国でまちづくりが盛んに取り上げられている理由について説明する。
2 回	まちづくりとはどのような活動なのか説明する。まちづくりの枠組みやまちづくりの拡がりについて説明する。
3 回	まちづくりの多様性とまちづくりという活動の可能性について説明する。
4 回	日本におけるまちづくりの歴史について説明する。また、近年のまちづくりの傾向やトレンドについて説明する。
5 回	住民主体のまちづくりのポイントについて説明する。まちづくりにおいてコミュニティが重視されていることを説明する。行政と住民のパートナーシップについて説明する。 1回目から5回目までの授業について小テストを行う
6 回	まちを活性化させる地域産業について説明する。また、経済のグローバル化が地域に及ぼす影響について説明する。
7 回	まちに賑わいをもたらす地域商業について説明する。地域商業がまちづくりに重要な要素となっていることを説明する。
8 回	まちづくりと地方自治体・財政・の関係について説明する。近年の行政の施策について説明する
9 回	まちなみと地域デザインについて説明する。まちなみを守る活動について説明する。
10 回	美しく創造的な街並みをつくる地域デザインについて実例を挙げて説明する。 6回目から10回目の授業について小テストを行う
11 回	実際にまちづくりに取り組んでいる外部の講師による講演会を行う。 講演を聞いた感想をレポートを次回授業時提出の宿題とする。
12 回	岡山近隣の町を対象に具体的なまちづくりプランについてグループワークを行う
13 回	引き続きグループワークを行う。次回の発表会に向けて準備する。
14 回	グループワークの発表会とその講評を行う。 グループワークの活動についてレポートを次回授業時提出の宿題とする。
15 回	授業全体の振り返りを行う。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを再度確認しておくこと。「まちづくり」という言葉について調べておくこと (標準学習時間60分)。
2 回	授業の中で配布する教材を読んで理解を深めておくこと (標準学習時間120分)
3 回	授業の中で配布する教材を読んで理解を深めておくこと (標準学習時間120分)
4 回	授業の中で配布する教材を読んで理解を深めておくこと (標準学習時間120分)
5 回	授業の中で配布する教材を読んで理解を深めておくこと (標準学習時間120分)
6 回	配布資料に取り上げられた事例について調べてくること (標準学習時間120分)
7 回	授業の中で配布する教材を読んで理解を深めておくこと (標準学習時間120分)
8 回	キーワードを提示するのでそのキーワードについて調べてくる (標準学習時間120分) (第9回授業時にレポート提出)
9 回	授業の中で配布する教材を読んで理解を深めておくこと (標準学習時間120分)
10 回	授業で取り上げる地域をあらかじめ指示するので、その地域について調べてくること (標準学習時間120分)。
11 回	事前に指示するので講師の活動している地域を調べておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	グループワークの学習対象となる「まち」の候補を調べてくる (標準学習時間120分)
13 回	まちづくりのアイデアについて、調査し・考えてくること (標準学習時間120分)
14 回	パワーポイント等の発表資料を整える。配布用の資料を準備する。(標準学習時間120分) (第15回授業時に宿題レポート提出)
15 回	テキスト・ノート等を復習しておくこと (標準学習時間180分)
16 回	90分 模範解答と解説をMomoCanpusで配信し、フィードバックとする。

講義目的	「まちづくり」とは外面的な形をもつ「まち」を整えてゆくことに加え、地域で生活し働いてゆく人々にとっての機能であり、コミュニティを形成してゆくことであるといえよう。我が国は少子高齢化を伴う人口減少局面に差し掛かっており、今後社会人として活躍していゆく岡山理科大学の学
------	--

	生諸君には、「まち」が元気で持続可能な社会に不可欠なものであることを事例や研究を通じ理解することは社会人の資質として大切なことであると考えます。 本授業を通じ、社会の一員として活動してゆくことの重要性和指針を理解し、行動に移すことができる人財となるきっかけとしたい。（経営学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与、項目Dに強く関与する）
達成目標	①地域コミュニティにとって「まちづくり」を継続することが重要であることを理解し、第三者に説明できる。 （B, C） ②地域経済に資することが「まちづくり」と密接にかかわっていることを理解し、ビジネスと地域の関係を説明できる。 （A, B） ③具体的なまちづくりの事例を通じ、地域の発展にはハード面の整備に加え、人々のかかわりが重要であることを理解し、説明できる。（B, C） ④これから迎える高齢化・少子化を伴う人口減少への対応策について理解し、説明できる。 （B） ⑤観光振興によるまちづくりの効用を理解し、説明できる。（C, D） （ ）内は経営学科の「学位授与方針」の対応する項目
キーワード	①少子高齢化を伴う人口減少 ②地域コミュニティ（住民主体のまちづくり） ③観光まちづくり ④行政の役割、住民の役割、地域団体の役割 ⑤地域産業（地場産業・伝統産業） ⑥街のにぎわいと地域商業の関係（中心市街地・インキュベーション） ⑦美しい街並みと景観行政
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テスト（20分）× 2回 10点× 2回 レポート提出× 2回 15点× 2回 最終評価試験 50点満点 上記100点満点で60点以上を合格とする。ただし、最終評価試験は30点以上得点していること
教科書	なし：本授業用の資料を準備し、都度配布しテキストに代える。
関連科目	地域と伝統 観光ビジネス
参考書	地域プラットフォームによる観光まちづくり 大社充 学芸出版社 ISBN978-4-7615-2546-0 / 里山資本主義 藻谷浩介 角川ONEテーマ2 1 ISBN-978-4-04-110512-2 / 外国人が熱狂するクールな田舎の作り方 山田拓 新潮新書 ISBN978-4-10-610748-1 / その他都度紹介する
連絡先	鷺見研究室 A1号館7階706号室 メール wash_t@mgt.ous.ac.jp 電話 086-256-9846
授業の運営方針	①この授業では、地域振興や観光振興に関わる講義内容が含まれている。まちの活性化を観光という視点から検討してゆくのであらかじめ理解しておくこと。 ②授業は覚えることではなく、考えることと授業で得た知見を第三者に伝えることができることを到達点として位置付けている。 ③グループワークでは授業時間以外のグループの活動が必要となるので、積極的に参加する姿勢と実践を求める。 ④講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
アクティブ・ラーニング	授業の内容についてのレポート作成、まちづくりの方策についてのグループワーク、実社会で発生している問題などを知る機会を得る機会などアクティブラーニングによる授業の要素を含んでいる。
課題に対するフィードバック	授業振り返りでの質問や疑問点は、授業の中で取り上げてゆく。また、小テストは模範解答や解答の要件について授業の中で解説する。 グループワークの発表は、あらかじめルーブリックを提示の上評価する。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	近畿日本ツーリスト株式会社勤務（1980年～2017年）、公益社団法人奈良市観光協会出向勤務（2012年～2017年）。地域振興を観光という側面から実務として経験を積み上げた。本授業では担当教員の経験を踏まえた豊富な事例に基づいて授業を行う。
その他（注意・備考）	

科目名	環境政策(再)【水3水4】 (FIV17500)
英文科目名	Environmental Policy
担当教員名	山口卓勇＊ (やまぐちたくお＊)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	本講義では、岡山で環境活動を行っている様々な人々からプレゼンを受け、環境活動を身近に感じて貰うとともに、社会に出て必要な計画を考える力、考えた計画を伝える力を育ててもらうことを主眼に置いています。 本講義では、特に予習は必要ありません。 ただし、個人での環境活動計画書の作成とグループでの環境計画の発表を行ってもらいます。 環境活動計画書は、現状及び問題意識、それに対する対策、具体的な活動内容、活動による効果（効果は、必ず数値で表せる効果を示すこと）を記述し、更にそれをパワーポイントにまとめて発表してもらいます。
準備学習	環境活動計画書(A4 10ページ～)、プレゼンテーション(1グループ10分～)は授業中に作成する時間は設けませんので、これらの作成が必要です。 プレゼンテーションは中間発表と最終発表があります。
講義目的	本講義では、岡山で環境活動を行っている様々な人々からプレゼンを受け、環境活動を身近に感じて貰うとともに、社会に出て必要な計画を考える力、考えた計画を伝える力を育ててもらうことを主眼に置いています。（社会情報学科の学位授与方針項目C, Fにもっとも強く関与する）
達成目標	環境活動が非常に身近なものと理解してもらうこと、自分の力で考えた環境活動計画書の完成及びグループ活動としてのプレゼンテーションの実施を達成目標とします。
キーワード	環境活動、環境教育
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	出席40%、プレゼンテーション30%、環境活動計画書の内容30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、環境活動計画書が他者に計画書を「写した」と判断された場合、「写した者」、「写された者」全てを不合格とする。
教科書	特になし
関連科目	特になし
参考書	特になし
連絡先	takuo@bizen-greenenergy.co.jp
授業の運営方針	授業は、講師からの環境活動のプレゼンテーションを聞き、その感想を提出していただきます。講義を通じて、環境活動へのイメージを深め、最終的にグループ又は個人で、実施してみたい環境活動のプレゼンテーションを行っていただきます。最後に、各個人で、プレゼンテーションを行った環境活動の内容の詳細を、環境活動計画書として整理し提出していただきます。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	最終プレゼンテーションの評価は講義内で行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	講義の録音／録画が必要な方は、事前に申し出てください。複数の講演者がいますので、事前に確認いたします。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	特になし

科目名	市民生活と法(再)【火4金4】（FIV17600）
英文科目名	Civil Law
担当教員名	入江祥子＊（いりえしょうこ＊）
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	民法の基礎を具体的事例をまじえ概括的に講義する。
準備学習	授業の進行スピードが速いので、教科書の該当箇所は必ず一読しておくこと。 疑問点はあらかじめ挙げておくこと。 関連する時事問題についても調べておくこと。
講義目的	民法の基本的な考え方を学ぶ。社会生活に密接に関連している民法を通して法的思考力を養い、事例のなかから論点を抽出し分析する力を習得すること。 （経営学科の学位授与方針項目Fにもっとも強く関与する）
達成目標	社会生活において陥りがちな法的トラブルを認知し、未然に回避するもしくは自ら解決するためのスキルを身に着ける。
キーワード	私法
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	授業後に実施する理解度チェック小テストの結果：40％ 最終評価試験結果：60％ により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。 なお、受講態度も考慮にいれる場合がありますので、ご注意ください。
教科書	民法入門（第7版）／野村豊弘／有斐閣／978-4-641-22105-5
関連科目	日本国憲法他法律科目
参考書	六法（出版社、種類は問わない）
連絡先	質問等は授業時間前後に講義室で受けます。
授業の運営方針	もっとも身近な法律といわれる「民法」をできるだけわかりやすく、自ら受けた法律相談等をまじえ具体的な事例をあげながら講義します。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎授業最後に実施する小テストで、学んだことを定着させてください。解答例は次の授業の最初に解説を行います。最終試験は、小テストで出題した問題中から出します。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義に関する録音、録画、撮影を行いたい学生は事前に相談してください。その他の目的での講義室内の録音、録画、撮影は一切認めません。
実務経験のある教員	岡山市内で平成14年より司法書士事務所を開設し業務を行っています。実際にあった法律相談を紹介しながら、より身近な民法の講義をめざします。
その他（注意・備考）	授業の進行上、授業計画が前後する可能性があります。ご了承ください。 出欠数及び配布物の管理は各自で行ってください。 公欠は学校所定の手続きを行ったうえで、申し出てください。

科目名	情報法(再) (FIV17800)
英文科目名	Cyberspace Laws
担当教員名	川島聡 (かわしまさとし)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業の概要を説明する。
2 回	グループワークで大阪市屋外広告物条例事件などを扱い、表現の時・場所・方法について解説する。
3 回	グループワークで立川ビラ配布事件などを扱い、管理権と表現の自由との関係を解説する。
4 回	グループワークで泉佐野市民会館事件などを扱い、施設管理権と表現の自由との関係を解説する。
5 回	グループワークでチャタレイ事件などを扱い、わいせつ表現を解説する。
6 回	グループワークで「新しい歴史教科書をつくる会」事件などを扱い、公立図書館司法の図書廃棄の問題を解説する。
7 回	グループワークで宴のあと事件などを扱い、プライバシーと表現の自由の関係を解説する。
8 回	グループワークで長良川事件などを扱い、プライバシーと表現の自由との関係を前回到続き解説する。
9 回	グループワークで月刊ペン事件などを扱い、名誉棄損と表現の自由との関係を解説する。
1 0 回	グループワークでサンケイ新聞事件などを扱い、名誉棄損と表現の自由との関係を引き続き解説する。
1 1 回	グループワークで博多駅事件などを扱い、取材の自由について解説する。
1 2 回	グループワークで日本テレビ事件などを扱い、取材の自由について引き続き解説する。
1 3 回	グループワークでレベタ事件などを扱い、法廷におけるメモ行為を解説する。
1 4 回	グループワークで税関検査事件などを扱い、検閲禁止について解説する。
1 5 回	1回～14回までの復習を行う。
1 6 回	グループワークで1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習として情報に関する新聞記事をひとつ探してくること。(標準学習時間60分)
2 回	予習として大阪市屋外広告物条例事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
3 回	予習として立川ビラ配布事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
4 回	予習として泉佐野市民会館事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
5 回	予習としてチャタレイ事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
6 回	予習として「新しい歴史教科書をつくる会」事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
7 回	予習として宴のあと事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
8 回	予習として長良川事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
9 回	予習として月刊ペン事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
1 0 回	予習としてサンケイ新聞事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
1 1 回	予習として博多駅事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
1 2 回	予習として日本テレビ事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
1 3 回	予習としてレベタ事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
1 4 回	予習として税関検査事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
1 5 回	予習・復習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間90分)
1 6 回	予習として1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	情報法に関する講義をおこなう。また、グループワークでは情報法に関する判例を扱う。これにより、社会における情報法の役割、機能、限界を理解することを本講義の目的とする。（社会情報学科の「学位授与の方針」の項目CとFにもっとも強く関与し、項目Bに強く関与する）
達成目標	1) 情報法の基本を正確に身につける（B・C・F）。 2) 情報法の基本を自分の言葉で説明することができる（B・C・F）。 ※（ ）内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目（学科のホームページ参照）
キーワード	表現の自由、情報
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	基本的に最終評価試験100%により成績を評価し、100点満点中、60点以上を合格とする。
教科書	使用しない。レジメと資料を授業中に配布する。
関連科目	「市民生活と法」「行政と法」など。
参考書	六法（出版社・種類は問わない）
連絡先	川島研究室 A1号館7階
授業の運営方針	一方的な講義ではなく、アクティブラーニングを中心とする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、発表、フィードバックなどのアクティブラーニングを行う。
課題に対するフィードバック	随時フィードバックする
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1) 授業では、グループワークやディスカッションを含むアクティブラーニングの手法を採用する。 2) 教科書は用いず、レジメと資料を授業中に配布する。 3) 予習と復習をすること。 4) 授業中の私語を禁ずる。 5) 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合には事前に相談すること。 6) 授業中の演習課題についてのフィードバックは、Momo-campusのフィードバック機能を用いるか、あるいはその授業中に行う。

科目名	社会情報実習β(再) (FIV17900)
英文科目名	Socio-Information Practice B
担当教員名	松村博行 (まつむらひろゆき)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	この授業は、国際政治学や社会学に係るテーマを題材に、文章作成(5回)、データ処理およびその適切な揭示(5回)、スライド作成(3回)、そして口頭発表(2回)の各スキルを高めるトレーニングを実施します。 再履修クラスとなるので、受講生の関心に合わせて講義内容を決定する予定です。
準備学習	毎回、講義内において文書作成、データ処理、グラフ等の作成、プレゼンテーションの準備などの課題を与えますので、次の講義までにその課題を完成させることが準備学習となります。(標準学習時間120～180分)
講義目的	法政・社会コースの科目(ジャーナリズム論、法学、政治学等)を学ぶ上で必要となる表現スキル(文章表現、プレゼンテーション、データ分析、グラフや表の作成)を毎回、実習形式でトレーニングします。(社会情報学科の学位授与方針項目B、CおよびDにもっとも強く関与する)
達成目標	(1)正しい日本語で文章の要約や考察を行うことができる (2)世論調査等のデータを読み解き、グラフ等を用いて的確にそれを表現することができる (3)人前でのプレゼンテーションを行うことができる
キーワード	文書表現、プレゼンテーション、エッセイ、データ分析
試験実施	実施する
成績評価(合格基準60点)	以下の評価で合計60点以上獲得により合格とする。 (1)エッセイやミニレポートなどの課題の提出を毎回求める(達成目標1-2を確認する):85点 (2)プレゼンテーションを行う(達成目標3を確認する):15点
教科書	指定しない
関連科目	社会情報入門
参考書	授業中に紹介する
連絡先	研究室 A1号館7階702 E-mail yuki-mat(アットマーク)mgt.ous.ac.jp
授業の運営方針	再履修クラスなので、受講生の個々の状況にあわせて課題や進度を決定する。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、演習、ライティング
課題に対するフィードバック	全ての課題はコメントを付して返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	遺跡と遺物(再)【木4木5】(FIV18100)
英文科目名	Sites and Artifacts
担当教員名	山形真理子(やまがたまりこ)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方と内容、成績評価の方針について説明を受ける。続いて、課題レポートの書き方と提出方法について説明を受ける。さらに、東南アジアの国々と都市の概要について学習する。
2回	東南アジア概説：東南アジアの地理、気候、民族、言語、宗教などについて学習し、東南アジアに関する基礎的知識を身に付ける。
3回	東南アジア基層文化の形成：東南アジアに到達した初期人類が残した洞穴遺跡と岩壁画、出土遺物について学習する。
4回	東南アジア基層文化の形成：中国における稲作起源と、東南アジアへの稲作の伝播について学習する。
5回	東南アジアの古代：ベトナム北部の鉄器時代ドンソン文化と、中国雲南省石寨山文化の金属器について学習する。
6回	東南アジアの古代：東南アジアの初期国家「扶南」と「林邑」に関連する遺跡と遺物について学習する。
7回	東南アジアの古代：中国とインドを結んだ古代南海交易に関連する遺跡と遺物について学習する。
8回	東南アジアの中世：カンボジア・アンコール王朝の歴史と、アンコール遺跡群の最近の調査成果について学習する。
9回	東南アジアの「交易の時代」：「交易の時代」の幕開けとその歴史的展開について理解する。
10回	東南アジアの「交易の時代」：ベトナム・タイ・カンボジア・フィリピン・インドネシアの日本町の遺跡と出土遺物について学習する。
11回	東南アジアの植民地化：フランス領インドシナ、英領マラヤ、オランダ領東インドの植民地化について概観する。
12回	第二次世界大戦と東南アジア：戦時下の日本と東南アジアの関係について学習する。
13回	ベトナム戦争：東西冷戦の時代、東南アジアに苦難をもたらしたベトナム戦争の概要について学習する。
14回	プレゼンテーションとディスカッション：課題レポートの振り返りを行う。レポートを発表し、それをもとに、グループに分かれてディスカッションを行う。
15回	学修到達度の確認(試験)と授業内容の総括によって授業全体を振り返り、東南アジアの歴史を貫く特徴とは何か、理解を深める。

回数	準備学習
1回	予習:シラバスをよく読み、自分の関心のある内容についてまとめておくこと。 復習:授業で配布された白地図に主要な地名を記入すること。課題レポート作成に向けて準備を始めること。(標準学習時間180分)
2回	予習:東南アジアの地理、気候、民族、言語、宗教などについて参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:講義の中で説明されたキーワードについてまとめ、東南アジアに関する基礎的知識を身に付けること。(標準学習時間180分)
3回	予習:原人、旧人、新人とは何か、参考書などから情報を集めてまとめておくこと。 復習:アジアの初期人類が残した遺跡と遺物、岩壁画についてまとめること。(標準学習時間180分)
4回	予習:東南アジアにおける初期稲作の遺跡について、参考書などから情報を集めてまとめておくこと。 復習:東南アジアにおける稲作の開始について、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめておくこと。(標準学習時間180分)
5回	予習:ドンソン文化と石寨山文化について参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:銅鼓や貯貝器などの特徴的な青銅器について、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)
6回	予習:「扶南」と「林邑」について参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:東南アジアにおける国家の出現とその特徴について、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)
7回	予習:古代南海交易について参考書などから情報を集め、まとめておくこと 復習:いわゆる海のシルクロードの交易港と交易品について、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)

8回	予習:カンボジア・アンコール王朝の歴史について、参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:アンコール遺跡群の遺跡名とその特徴についてまとめること。(標準学習時間180分)
9回	予習:「交易の時代」とはどのような時代か、参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:「交易の時代」がどのように始まり、どのように終わったのか、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)
10回	予習:東南アジア各地に存在した日本町について参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:日本町の形成から終焉までの歴史的経緯について、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)
11回	予習:この回までに課題レポートを提出すること。東南アジアの植民地化について情報を集め、まとめておくこと。 復習:西欧列強による植民地化の歴史について、ひとつの地域に焦点をしばってまとめること。(標準学習時間180分)
12回	予習:第二次世界大戦の勃発から日本の敗戦までの流れについて情報を集め、まとめておくこと。 復習:日本が先の大戦中にどのように東南アジアに関わったのか、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)
13回	予習:ベトナム戦争について情報を集め、まとめておくこと。 復習:ベトナム戦争の経過と歴史的背景について、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)
14回	予習:自分の課題レポートについて吟味し、想定される討論の内容についてまとめておくこと。 復習:ディスカッションの内容についてMomocampusのReflectionに入力すること。(標準学習時間180分)
15回	予習:前回までの講義内容について総合的に見直し、整理しておくこと。 復習:学習到達度の確認(試験)の結果をもとに、講義内容を振り返ること。(標準学習時間180分)

講義目的	東南アジアの歴史を学ぶことを通して、東南アジアという地域の複雑な成り立ちと特性について理解する。歴史上重要な出来事について基礎的な知識を身に付ける。東南アジアと日本の関係史を学ぶことにより、グローバルな視野のなかで日本史を理解する。(社会情報学科の学位授与方針項目Bにもっとも強く関与、項目C,Dに強く関与する)
達成目標	1. 東南アジア各国に関する基礎的な情報について説明できる。(B) 2. 東南アジアの歴史の流れを大まかに理解し、重要な事項について知識を身に付け、説明できる。(B) 3. 東南アジアの歴史と文化に関する課題を選び、調べ学習を行ってレポートを作成できる。(B,C,D) 4. 東南アジアの歴史と文化に関する課題について、グループで討論できる。(C,D) 5. 東南アジアと日本の関係が特に深かった時代について、その関係を説明できる。(B,C)
キーワード	東南アジア、遺跡、遺物、歴史、交易、日本、中国、植民地、戦争
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の小テスト 評価割合30%(主に達成目標1,2,5を評価)、学習到達度の確認(試験) 評価割合40%(主に達成目標1,2,5を評価)、提出課題と、それをもとにしたディスカッションへのReflectionの評価 評価割合30%(主に達成目標3,4を評価)により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	講義で資料を配布する。
関連科目	
参考書	池端雪浦他編集委員/『岩波講座東南アジア史』全9巻・別巻1/岩波書店/2001年~2003年:石井米雄, 桜井由躬雄編/『東南アジア史1 大陸部』/山川出版社/1999年:池端雪浦編/『東南アジア史2 島嶼部』/山川出版社/1999年:桃木至朗他編/『東南アジアを知る事典』/平凡社/2008年:今井昭夫編集代表/『東南アジアを知るための50章』/明石書店/2014年
連絡先	A1号館7階719山形研究室 直通電話086-256-9847 E-mail:yamariko@mgt.ous.ac.jp オフィスアワーについてはmylogポートフォリオを参照してください。
授業の運営方針	・講義資料は講義開始時に配布する。 ・毎回の講義終了後、講義内容に関する小テストを実施する。その際、配布資料とノートを参照することを許可する。 ・30分以上の遅刻と早退は欠席扱いとする。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク 東南アジアの歴史と文化に関する課題レポートについて発表し、それをもとにグループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	小テストは採点后、コメントを入れて返却する。学習到達度の確認(試験)については模範解答を配布する。提出課題についてもコメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供

生への対応	していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	講義中の録音/録画/撮影は他の受講生の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。

科目名	遺跡遺物情報解析(再)【木4木5】(FIV18200)
英文科目名	Information Analysis of Sites and Artifacts
担当教員名	山形真理子(やまがたまりこ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方と内容、成績評価の方針について説明を受ける。アジアの考古学へのイントロダクションとして、アジア諸国の主要な考古遺跡を概観する。
2回	考古学の方法：考古学における年代の考え方と、考古学の基礎となる時代区分について学習する。
3回	考古学の方法：考古学的方法論の基礎となる型式学と層位学について学ぶ。また、考古学における「文化」の考え方について学習する。
4回	旧石器時代：日本列島の旧石器時代と、更新世から完新世初期にかけてアジア各地に広がった石器文化について学習する。
5回	縄文時代：アジアにおける土器製作の開始と、山と海の恵みを生かした縄文時代の生活について学習する。
6回	縄文時代：縄文時代の土器、土偶、漆製品について学び、工芸的価値と歴史的価値の双方から理解する。
7回	実習：縄文土器破片の拓本を採る。まず拓本を採る方法と手順について学び、次に、自分が採拓する土器を詳しく観察する。
8回	実習：縄文土器破片の拓本を採る。拓本を採ったあと、破片ごとにワークシートを作成する。
9回	弥生時代：弥生時代の吉備地方に特徴的な墳墓や土器について学び、古代の吉備地方に関する理解を深める。
10回	アジアの葬制：弥生時代の甕棺墓と比較しながら、鉄器時代のアジアに広がった甕棺葬について学習する。
11回	アジアの葬制：日本の古墳と比較しながら、アジア各地にみられる王墓とされる遺跡について学習する。
12回	アジアの古代都城：都城遺跡から出土する瓦に注目し、東アジア全体に広がった中国系瓦の特徴と変遷について学習する。
13回	アジアの古代都城：アジア各地の都城遺跡について日本と比較しながら学習する。
14回	アジアの古代交易路：シルクロードに関連する遺跡とその出土遺物について学習する。
15回	学修到達度の確認(試験)と授業内容の総括によって授業全体を振り返り、アジアの考古学に対する理解を深める。

回数	準備学習
1回	予習:シラバスをよく読み、自分の関心のある内容についてまとめておくこと。 復習:授業で取り上げた遺跡について概要をまとめること。(標準学習時間180分)
2回	予習:考古学の年代の考え方と時代区分について参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:考古学が扱う年代の考え方と時代区分について、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)
3回	予習:考古学における型式学と層位学について参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:考古学における「文化」のとりえ方についてまとめておくこと。(標準学習時間180分)
4回	予習:参考書などにより、日本の旧石器時代について予習を行なうこと。 復習:アジアの旧石器について講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめておくこと。(標準学習時間180分)
5回	予習:参考書などにより、土器の発明と利用が人間の生活にもたらした変化についてまとめておくこと。 復習:講義の中で説明された縄文時代の遺跡についてまとめておくこと。(標準学習時間180分)
6回	予習:縄文土器と土偶、漆製品について参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:講義の中で説明された土器、土偶、漆製品についてまとめておくこと。(標準学習時間180分)
7回	予習:拓本とは何か、情報を集めておくこと。 復習:拓本を採る手順についてまとめること。(標準学習時間180分)
8回	予習:自分が拓本を採る縄文土器の特徴についてまとめておくこと。 復習:自分が担当した縄文土器破片のワークシートを完成させること。(標準学習時間180分)
9回	予習:岡山県の弥生時代遺跡について情報を集めておくこと。 復習:講義の中で説明されたキーワードを中心に、岡山の弥生時代遺跡と遺物の特徴についてまとめること。(標準学習時間180分)
10回	予習:北部九州の甕棺墓について、参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:弥生時代の甕棺墓と南シナ海沿岸の甕棺墓の類似と差異についてまとめること。(標準学習時間180分)

	時間180分)
1 1 回	予習:日本の古墳時代前期・中期の大型前方後円墳について情報を集め、まとめておくこと 復習:日本とアジア各地の王墓について、規模と主体部・副葬遺物を比較し、まとめること。(標準学習時間180分)
1 2 回	予習:日本の古代瓦について参考書などから基礎的な情報を集め、まとめておくこと。 復習:中国由来の瓦が東アジア全域にどのように広がったのか、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)
1 3 回	予習:藤原京や平城京の特徴について、参考書などから情報を集め、まとめておくこと。 復習:東アジア各地の古代都城について、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)
1 4 回	予習:シルクロード(草原の道、オアシスの道、海の道)について情報を集め、まとめておくこと。 復習:それぞれの遺跡がどのような歴史的・宗教的背景のなかで残されたのか、講義の中で説明されたキーワードを中心にまとめること。(標準学習時間180分)
1 5 回	予習:前回までの講義内容について総合的に見直し、整理しておくこと。 復習:学習到達度の確認(試験)の結果をもとに、講義内容を復習すること。(標準学習時間180分)

講義目的	本講義ではまず、考古学の基礎的な方法と考え方について知識を身に付ける。つぎに、日本考古学の時代区分と、それぞれの時代に特徴的な遺跡と遺物について基礎的な知識を身に付ける。さらに、遺物に触れて観察し、拓本を採ることを通して、考古学の技能について理解する。東アジアと東南アジアの考古学について、どの地域にとっても共通して重要なテーマを取り上げることにより、日本とアジアの考古学を比較しながら共通性と異質性を認識する。(社会情報学科の学位授与方針項目BとCにもっとも強く関与する。)
達成目標	1. 考古学の基本的な方法と考え方について説明することができる。(B) 2. 日本考古学の時代区分と、それぞれの時代の特徴について説明できる。(B) 3. アジアの遺跡と遺物について理解することを通して、その土地独特の気候風土と人々の生活の関係について説明できるようになる。(B,C) 4. いくつかの特徴的な遺跡や遺物について、日本の考古学と東アジア・東南アジアの考古学を比較し、その共通点と差異を説明できる。(B,C)
キーワード	アジア、遺跡、遺物、文化、縄文、弥生、古墳、実習、拓本、都城、葬制
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の小テスト 評価割合40%(達成目標1~4を確認)、学習到達度の確認(試験) 評価割合40%(達成目標1~4を確認)、実習課題提出 評価割合20%(主に達成目標1を確認)により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	講義で資料を配布する。
関連科目	
参考書	西谷正編/『東アジア考古学辞典』/東京堂出版/ 2007年:田中琢、佐原真編集代表/『日本考古学事典』/三省堂/2011年:坂井隆・新田栄治・西村正雄/『東南アジアの考古学』/同成社/1998年:大貫静夫/『東北アジアの考古学』/同成社/1998年:小澤正人・西江清高・谷豊信/『中国の考古学』/同成社/1999年:韓国考古学会編、庄田慎矢、山本孝文訳/『概説韓国考古学』/同成社/2013年:堤隆/『ビジュアル版 旧石器時代ガイドブック』/新泉社/2008年:勅使河原彰著/『ビジュアル版 縄文時代ガイドブック』/新泉社/2013年:若狭徹著/『ビジュアル版 古墳時代ガイドブック』/新泉社/2013年:他の参考書については授業の中で紹介する。
連絡先	A1号館7階719山形研究室 直通電話086-256-9847 E-mail:yamariko@mgt.ous.ac.jp オフィスアワーについてはmylogポートフォリオを参照してください。
授業の運営方針	・講義資料は講義開始時に配布する。 ・毎回の講義終了後、講義内容に関する小テストを実施する。その際、配布資料とノートを参照することを許可する。 ・30分以上の遅刻と早退は欠席扱いとする。
アクティブ・ラーニング	実習 実際に縄文土器の破片を手に取り、観察し、紋様の拓本を採る。それぞれの資料について観察結果と拓本を貼り付けたワークシートを作成する。
課題に対するフィードバック	小テストは採点后、コメントを入れて返却する。学習到達度の確認(試験)については模範解答を配布する。実習課題についてもコメントを入れて返却する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	講義中の録音/録画/撮影は他の受講生の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。

科目名	東アジアの歴史(再)【火2金2】 (FIV18300)
英文科目名	History of East Asia
担当教員名	志野敏夫 (しのとしお)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、および、「中国」とは何かについて考える。
2 回	東アジアという地域とはどのようなものかについて、主に地理上の区分から講義する。
3 回	東アジアにある様々な文化圏について講義する。
4 回	復習テストを実施し、その後解説する。 4大文明の一つである黄河文明と、近年発見されつつある長江文明を紹介する。
5 回	古代中国の都市国家の特性について講義する。
6 回	中国史上最初の帝国である、秦と漢王朝について講義する。
7 回	皇帝というものの概念と天の思想、中華思想について講義する。
8 回	中国三国時代から南北朝時代について解説し、東アジア世界を形成することになる冊封体制について講義する。
9 回	復習テストを実施し、その後解説する。 南北朝から隋唐時代に周辺民族との交流により新しい世界帝国が作られ、東アジア世界が形成されていくことを講義する。
1 0 回	新しい文明の移入により、いわゆる中華文明が形成されたことを講義する。
1 1 回	いわゆる異民族が中華帝国の主人公となる様子について講義する。
1 2 回	東アジア世界には今までにはなかったタイプの文明との接触と、中華世界の反応について解説し、東アジアにとって「近代」化とはどのようなことかを講義する。
1 3 回	東アジア世界の諸国が、ヨーロッパ列強の侵略にどのように対応していったかを概観し、東アジアがどのように変容したかについて講義する。
1 4 回	近代ヨーロッパ文明と、伝統的東アジア文明とを比較し、現代の私たちの中にある「東アジア」について考察する。
1 5 回	復習テストを実施し、解説を行い、本講義の学習内容を確認する。

回数	準備学習
1 回	【予習】 高校の「世界史」のうち、中国史に関するところを復習しておくこと。(標準学習時間180分)
2 回	【予習】 世界地図で「アジア」地域を確認しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	【復習】 第2回の講義について復習しておくこと。(標準学習時間50分)
4 回	【復習】 これまで3回の講義の復習をしておくこと。【予習】 高校「世界史」の中国史のうち、古代文明について復習しておくこと。(標準学習時間180分)
5 回	【復習】 第4回の講義について復習しておくこと。【予習】 「邑」とは何かについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	【予習】 高校「世界史」の中国史のうち、秦漢帝国について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	【復習】 第6回の講義について復習しておくこと。【予習】 古代ローマと中国の「皇帝」という言葉の意味を調べておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	【復習】 第7回の復習をしておくこと。【予習】 日本史の卑弥呼の時代から倭の五王について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	【復習】 第4回から前回までの復習をしておくこと。【予習】 高校「世界史」の中国史のうち、隋・唐王朝について復習しておくこと。(標準学習時間180分)
1 0 回	【予習】 高校「世界史」の中国史のうち、宋・元および遼・金王朝について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	【予習】 高校「世界史」の中国史のうち、明・清王朝について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	【予習】 高校「世界史」で、「近代社会」とはどのような要件をもった社会であるかについて復習、レポートを作成しておくこと。(標準学習時間180分)
1 3 回	【復習】 第12回の講義について復習しておくこと。【予習】 できれば、日本史の近代史の部分を復習しておくこと。(標準学習時間150分)
1 4 回	【復習】 ここまでの講義を復習し、各人の中にある「東アジア的」なものについて整理しておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	【復習】 ここまで学習した事について復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	1、「東アジア」とはどのような概念であるかを理解する。
------	-----------------------------

	2、「中国」の多様性を理解する。 3、現代世界における東アジアの位置づけについて考察する。 (社会情報学科の学位授与方針のBに最も強く関与する)
達成目標	1、「東アジア」とはどのような概念であるかを記述できる。(社会情報学科の学位授与方針のBに最も強く関与する) 2、「中国」が様々な文化・文明を吸収して成り立っていることを記述できる。(社会情報学科の学位授与方針のBに最も強く関与する) 3、現代世界における東アジアの位置づけについて考察し、それを論述することができる。(社会情報学科の学位授与方針のCに最も強く関与する)
キーワード	「東アジア」、「中国」、多様性、近代化
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	復習テスト(70%)(達成目標1,2,3)、レポート(30%)(達成目標3)により評価し、これらを総合して全体で60%以上の得点率で合格とする。
教科書	特に無い。講義で資料を配布する。
関連科目	外国史
参考書	高校「世界史」「日本史」、およびその他講義中に適宜紹介する。
連絡先	研究室：A1号館6階
授業の運営方針	・第1回授業のオリエンテーションで遅刻の取り扱いなどを含む授業の運営方針を詳しく述べるので、必ず聞くこと。履修訂正により遅れて講義に参加する学生は、必ず個別に聞きに来ること。 ・復習テストにおけるカンニングなどや、レポートにおける剽窃やコピペなど、不正行為があった場合には、本授業の成績評価の対象から外すので、絶対に行わないように。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・復習テストの際は、テスト実施の後でフィードバック(解説)を行う。 ・提出されたレポートは、採点后、授業中に返却し、フィードバック(解説)を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	歴史学(再)【火1金1】(FIV18400)
英文科目名	History
担当教員名	志野敏夫(しのとしお)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションおよび、導入を行う。歴史をなぜ学ぶのかについて考える。
2回	「歴史」とは何か、グループ討論によって考える。
3回	中国語および日本語における「歴史」という言葉について講義する。
4回	復習テストを行い、解説する。西洋における「歴史」という言葉について講義する。
5回	古代中国における歴史学の概念と学問研究における位置づけについて、主に『春秋』と『史記』によって講義する。
6回	中国における歴史学の概念と社会的位置づけについて、主に『資治通鑑』によって講義する。
7回	ヨーロッパ中世における歴史学の位置づけについて講義する。
8回	第4回から第7回までの復習テストを行い、解説をする。西洋ルネサンス期における科学革命の概要について講義する。
9回	西洋ルネサンス期における歴史学の始まりについて講義する。
10回	ヨーロッパ近世社会の変化と歴史学の関係について講義する。
11回	ヨーロッパ近代社会の展開と、歴史学の変化について講義する。
12回	マルクスの唯物史観と、それが歴史学および社会に与えた影響について講義する。
13回	歴史学と近代自然科学が定義する「科学」の概念との相違とその問題点について講義する。
14回	歴史学研究におけるテキストクリティークの重要性について講義する。
15回	前回までの復習テストを行い、その解説をして本講義の学習内容を復習しつつ、歴史が持つ「力」について考える

回数	準備学習
1回	各人どの地域、どの時代の歴史に興味があるか確認しておくこと。(標準学習時間50分)
2回	【予習】辞書で「歴史」という言葉を調べておくとともに、各人で「歴史」とは何か、考えておくこと。(標準学習時間50分)
3回	【復習】第2回講義の復習をしておくこと。【予習】漢字の「歴」と「史」の意味を漢和辞典で調べておくこと(標準学習時間120分)
4回	【復習】第1回から第3回までの講義の復習をしておくこと。(標準学習時間180分)
5回	【復習】第3回講義の復習をしておくこと。【予習】『春秋』と『史記』という書について調べておくこと。(標準学習時間120分)
6回	【復習】第5回講義の復習をしておくこと。【予習】『資治通鑑』という書について調べておくこと。(標準学習時間100分)
7回	【復習】第4回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間50分)
8回	【復習】第4回から第7回までの講義の復習をしておくこと。【予習】ルネサンス期について調べておくこと。(標準学習時間210分)
9回	【復習】第8回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間50分)
10回	【復習】第9回講義の復習をしておくこと。【予習】宗教革命について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	【復習】第10回講義の復習をしておくこと。【予習】近代市民革命について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	【復習】第11回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間50分)
13回	【復習】第13回講義の復習をしておくとともに、第8回の講義についても復習しておくこと。(標準学習時間100分)
14回	【予習】「テキストクリティーク」という語について調べておくこと。(標準学習時間50分)
15回	【復習】前回までのすべての講義の復習をしておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	1、「歴史」とは何かを理解できる。 2、歴史学研究と自然科学研究との関係や相違について理解できる。 3、歴史資料の特性とテキストクリティークの重要性を理解できる。 4、歴史がもつ意義について考え、自らの歴史観を養成しようとする態度をもつ。 (経営学科の学位授与方針Cにもっとも強く関与する。)
達成目標	1、「歴史」とは何かについて他者と議論することができる。(社会情報学科の学位授与方針Bにもっとも強く関与する。) 2、歴史学研究と自然科学研究との関係や相違について記述できる。(社会情報学科の学位授与方針Cにもっとも強く関与する。)

	3、テキストクリティークとは何か、またそれがなぜ重要であるのかを記述できる。（社会情報学科の学位授与方針Cにもっとも強く関与する。） 4、歴史をなぜ学ぶのかということについて自分なりの答えを考え出すことができる。（社会情報学科の学位授与方針Bにもっとも強く関与する。）
キーワード	歴史、歴史学、自然科学の概念、テキストクリティーク、歴史観
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・第2回講義で行うグループでのディスカッションをもとに自分の考えをまとめて書いて提出したもの（10%）（達成目標1） ・復習テスト（70%）（達成目標2,3,4） ・準備学習において【予習】したことを適宜レポートとして提出したもの。（20%）（達成目標2,3） で評価し、それらを総合して全体の60%以上で合格とする。
教科書	特に無い
関連科目	外国史
参考書	『歴史学概論』（講談社学術文庫）増田四郎著、『歴史とは何か』（岩波新書）E.H. カーク著、清水幾太郎訳、その他講義中に適宜紹介する
連絡先	志野研究室：A1号館6階
授業の運営方針	・第1回授業のオリエンテーションで遅刻の取り扱いなどを含む授業の運営方針を詳しく述べるので、必ず聞くこと。履修訂正により遅れて講義に参加する学生は、必ず個別に聞きに来ること。 ・復習認テストにおけるカンニングなどや、レポートにおける剽窃やコピペなど、不正行為があった場合には、本授業の成績評価の対象から外すので、絶対に行わないように。 ・複数人によるグループ活動を行いそれを評価するので、そのことを了解したうえで履修すること。
アクティブ・ラーニング	・この講義ではアクティブラーニングを促すためグループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	復習テストは、行った後に毎回解説を行う。 提出を求めるレポートは、次回の授業の予習となるものなので、その講義内容と各人が調べたことを比べながら授業を受けること。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	歴史資料解析(再)【火1金1】 (FIV18500)
英文科目名	Analysis of Historical Sources
担当教員名	志野敏夫 (しのとしお)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション、および歴史の研究対象＝史料について講義する。
2回	歴史研究におけるテキストクリティックの重要性について講義し、歴史叙述に関する実験を行う。
3回	前回到引き続き、歴史研究におけるテキストクリティックの重要性について講義する。その後、歴史研究に必要な工具書、Webサイトを紹介する。
4回	レポートに基づき、引き続き工具書の解説を行ない、また、書籍の表題から内容についてどう推測するかについて講義する。
5回	漢字の持つ文化史的意義について講義する。
6回	漢字の訓読みと音読みの歴史的意味について講義する。
7回	『大漢和辞典』の紹介と引き方を講義し、実習する。
8回	漢字と漢文の特性を解説し、漢文理解の方法(漢文の読み方)を講義する。
9回	前回到引き続き、漢文理解の方法を講義する。
10回	『三国志』の著者陳寿の紹介と、『魏志倭人伝』のテキストクリティックを行なう。
11回	曹操と劉備を例にとり、彼らに対してどのような人物像が描かれているかを講義する。
12回	『魏志倭人伝』を読解し、そこにどのような問題が見いだせ、それをどのように考えるか、いくつかの考え方を紹介する。
13回	前回到引き続き『魏志倭人伝』を読解し、そこにどのような問題が見いだせ、それをどのように考えるか、いくつかの考え方を紹介する。
14回	前回到引き続き『魏志倭人伝』を読解するとともに、その史料を基に歴史を復元する方法を講義する。
15回	これまでの講義とレポートの内容に基づく小テストを行い、その解説をして本講義の学習内容を復習する。

回数	準備学習
1回	われわれはどのようにして「歴史」を知るのかについて、各人考えまとめておくこと。(標準学習時間50分)
2回	【復習】第1回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間50分)
3回	【予習】第2回の授業最後に、各人に特定の書籍名を与えるので、それをどのようにすれば手に入れて読むことができるかを調べておくこと。(標準学習時間80分)
4回	【復習・予習】工具所の一種である歴史概説書に関するレポートを課すので、それを行っておくこと。(標準学習時間180分)
5回	【予習】日本に漢字が普及する過程について調べておくこと。(標準学習時間120分)
6回	【予習】漢字の音読みと訓読みの違いについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
7回	【予習】各人の持つ漢和辞典で、引き方を思い出しておくこと。(標準学習時間50分)
8回	【予習】高校で学習した漢文文法の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
9回	【復習】第8回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間50分)
10回	【予習】『正史 三国志』(ちくま学芸文庫)の解説部分を読んで、『三国志』とはどのような書物であるのかを知っておくこと。(標準学習時間120分)
11回	【復習】第10回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
12回	【予習】『正史 三国志4』(ちくま学芸文庫)の「魏志倭人伝」部分を一読し、内容を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	【復習】いわゆる「里程問題」についてレポートを作成すること。(標準学習時間180分)
14回	【復習】第13回講義の復習をし、問題へのアプローチについて各自で考えておくこと。(標準学習時間60分)
15回	【復習】『正史 三国志4』(ちくま学芸文庫)の「魏志倭人伝」部分を参考にして、配布している「魏志倭人伝」原文の読み下しを行っておくこと。また、各自がこれまでに提出したレポートを再度確認し、各人それぞれの問題解決へのアプローチ方法について再考しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	1. 歴史研究に必要な方法論を講義・実習することにより歴研究の方法を理解する。 2. 近代以前の日本や東アジアの歴史理解に必要な、漢文史料の読解を通じて漢文資料研究の基礎を理解する。 (社会情報学科の学位授与方針のCに最も強く関与する)
達成目標	1. 初歩的な歴史研究を実践することができる。(社会情報学科の学位授与方針のCに最も強く関与)

	する) 2.大漢和辞典を使うことができる。(社会情報学科の学位授与方針のCに最も強く関与する) 3.漢文史料から当時の歴史を再構成したものを記述することができる。(社会情報学科の学位授与方針のBに最も強く関与する)
キーワード	歴史研究、テキストクリティック、漢字文化、漢文読解
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	レポート(60%)(達成目標1、2)、小テスト(40%)(達成目標1、2、3)で評価し、総合して全体の60%以上で合格とする。
教科書	特に無い
関連科目	東アジアの歴史、歴史学、社会情報実習ⅳ
参考書	『大漢和辞典』(購入する必要はない) 『正史 三国志4』ちくま学芸文庫(購入する必要はない) その他、講義中に紹介する
連絡先	研究室:A1号館6階
授業の運営方針	・第1回授業のオリエンテーションで遅刻の取り扱いなどを含む授業の運営方針を詳しく述べるので、必ず聞くこと。履修訂正により遅れて講義に参加する学生は、必ず個別に聞きに来ること。 ・小テストにおけるカンニングなどや、レポートにおける剽窃やコピペなど、不正行為があった場合には、本授業の成績評価の対象から外すので、絶対に行わないように。
アクティブ・ラーニング	・アクティブラーニングを促すため、出されたレポートをもとにグループによるディスカッションを行うことがある。 ・歴史史料とは何かを理解するために、実験を行う。
課題に対するフィードバック	・提出されたレポートは、採点后、授業中に返却し、フィードバック(解説)を行う。 ・小テストの後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	民俗学(再)【火2金2】 (FIV18600)
英文科目名	Folklore
担当教員名	志野敏夫 (しのとしお)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションと導入。「民俗学」とはどのような学問か、「民族学」とはどう違うのか、講義する。
2回	日本における「民俗学」はどのような学問か、「歴史学」「考古学」と比較しながら講義する。
3回	第1回・2回の授業内容についての確認テストを行い、その後解説を行う。無形文化遺産という概念を出発点に、民俗学の資料と歴史学の史料について考える。
4回	日本や海外のさまざまな人の一生にまつわる民俗について講義する(1)。誕生・出産から成人式までを扱う。
5回	日本や海外のさまざまな人の一生にまつわる民俗について講義する(2)。結婚から葬式までを扱う。
6回	日本の神社とはどのような空間であるのかを講義する。
7回	京都祇園祭を例に、神社と祭礼、日本の神話について講義する。
8回	第3回～7回の授業内容についての確認テストを行い、その後解説を行う。照葉樹林文化圏について講義する。
9回	照葉樹林文化圏の中と考えられる、中国四川省の山岳民の生活を紹介し、日本の民俗と比較する。
10回	照葉樹林文化についての確認テストを行い、その後解説を行う。民俗学的調査の方法について講義する。
11回	身近な民俗についてのアクティブラーニングを行う(1)。グループ分けをし、アイスブレイクの後、各グループでテーマと各人の調査事項を決める。
12回	身近な民俗についてのアクティブラーニングを行う(2)。各人が調べたことを持ち寄り、グループとしての発表資料にまとめる。
13回	身近な民俗についてのアクティブラーニングを行う(3)。前回不足していたことなどについて各人が調べたことを持ち寄り、グループとしての発表資料にまとめる。次回の発表に備え、役割を決める。
14回	身近な民俗についてのアクティブラーニングを行う(4)。これまで調べまとめてきたことを、グループ毎に発表する。同時に、他のグループの発表について、各人がルーブリックに基づいて評価し、それを各グループごとにまとめる。
15回	身近な民俗についてのアクティブラーニングを行う(5)。前回行った各グループによる他グループに対する評価を発表し、相互評価を行う。

回数	準備学習
1回	「民俗」と聞いてどのようなことを連想するかを尋ねるので、各人考えておくこと。(標準学習時間40分)
2回	柳田國男という人物について調べておくこと。(レポートの提出を求める)(標準学習時間120分)
3回	これまでの授業内容について復習しておくこと。また、無形文化遺産とは何かについて、各人調べておくこと。(標準学習時間120分)
4回	「穢れ」「お七夜」「お宮参り」について各人調べておくこと。レポートとして、日本では成人式がいつ始まったかについて調べ、提出すること。(標準学習時間180分)
5回	「初七日」「一周忌」「三十三回忌」について調べておくこと。(標準学習時間120分)
6回	各人の居住地にある神社について調べておくこと。(レポートの提出を求める)(標準学習時間180分)
7回	日本の神話における、スサノヲノミコトという神について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8回	高校で学習した、地理の気候区分について復習しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	照葉樹林文化とは何であったか、前回の講義内容について復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
10回	民俗学的調査方法について調べておくこと。(標準学習時間120分)
11回	予習として、前回学習した民俗学的調査方法に基づき、いままで作成・提出してきたレポートが、そのようにできていたか否かを確認しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	各人に割り当てられた調査をしておくこと。(標準学習時間180分)
13回	各人に割り当てられた調査をしておくこと。また、グループでどのような発表にするか、各人で考えておくこと。(標準学習時間180分)
14回	各人の役割分担に応じて発表に備えること。発表はパワーポイントを使用して行う。(標準学習時間180分)

	間180分)
15回	各人が記入したルーブリックを持ち寄り、グループとしての他者評価をまとめておくこと。
講義目的	グローバル化がすすむ現在、今いちど日本の伝統文化を見直そうとする動きがある。本講義では、民俗学を通じて日本人の生活や伝統文化の特質を理解することを目的とする。こうした自文化への理解を深めることは、将来的には異文化を理解するための基礎となる。講義のなかでは、基本的には日本のことを学ぶが、アジアの生活習慣や伝統文化の事例を紹介することにより、比較という視点を混ぜつつ日本文化への理解を深めていく。(社会情報学科の学位授与方針項目Bにもっとも強く関与する)
達成目標	(1) 民俗学とは何を研究する学問であるのか、また日本の民俗学の特質について記述できる。(社会情報学科の学位授与方針のBにもっとも強く関与する) (2) 人の一生におけるさまざまな民俗、および日本の神社について記述できる。(社会情報学科の学位授与方針のBにもっとも強く関与する) (3) 照葉樹林文化圏を発見することになった考え方、および照葉樹林文化の内容について記述できる。(社会情報学科の学位授与方針のBにもっとも強く関与する) (4) 民俗学に関する様々なことを自ら調べ、適切にまとめて文章化することができる。(社会情報学科の学位授与方針のCにもっとも強く関与する) (5) 身近な生活や伝統文化について、複数人でグループを作り、民俗学的手法に従って調べ、発表することができる。(社会情報学科の学位授与方針のCにもっとも強く関与する)
キーワード	日本民俗学、柳田國男、無形文化遺産、人の一生の民俗、照葉樹林文化、民俗調査
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	授業時間内の筆記による確認テスト30%(達成目標(1)(2)(3)を確認)、レポート30%(達成目標(4)を確認)、グループ発表に対するルーブリック30%およびグループ活動における各人の活動状況10%(達成目標(5)を確認)により評価し、これらを総合して全体で60%以上の得点率で合格とする。
教科書	特に無い
関連科目	地域と伝統、日本の歴史、中国の歴史、東南アジアの歴史、アジアの考古学、地理学、世界地誌、比較文化論
参考書	適宜授業中に紹介する
連絡先	A1号館6階 志野研究室 / 直通電話086-256-9631 / E-mail: shino@mgt.ous.ac.jp / オフィスアワー:
授業の運営方針	・第1回授業のオリエンテーションで遅刻の取り扱いなどを含む授業の運営方針を詳しく述べるので、必ず聞くこと。履修訂正により遅れて講義に参加する学生は、必ず個別に聞きに来ること。・確認テストにおけるカンニングなどや、レポートにおける剽窃やコピペなど、不正行為があった場合には、本授業の成績評価の対象から外すので、絶対に行わないように。・複数人によるグループ活動を行いそれを評価するので、そのことを了解したうえで履修すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティング(レポート)。詳しくは上記の「授業内容」および「準備学習内容」を参照のこと。
課題に対するフィードバック	確認テストは、行った後に毎回解説を行う。 提出を求めるレポートは、次回の授業の予習となるものなので、その講義内容と各人が調べたことを比べながら授業を受けること。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 【上記記述は消さないでください】
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	民族・民俗学演習(再)【火2金2】(FIV18700)
英文科目名	Exercises in Ethnology and Folklore
担当教員名	山形真理子(やまがたまりこ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方と内容、成績評価の方針について説明を受ける。さらに、グループワークの方法について説明を受ける。グループごとに課題を選び、調べ学習の進め方について討論する。
2回	日本の文化財の分類、文化財保護の歴史と基本的な仕組みについて学習する。
3回	ユネスコ世界遺産の概要と登録・管理システムについて学習する。
4回	ベトナム・ホイアン：町並み保存の歴史と観光の現状について学習する。
5回	中国雲南省・麗江：観光開発とナシ族の文化変容の関係について学習する。
6回	プレゼンテーションとディスカッション：グループ学習の成果発表と前2回の講義を踏まえ、文化遺産と観光の関係について日本とアジアの例を比較する。
7回	ベトナム・ミーソン遺跡：チャンパの遺跡とチャム族のアイデンティティの関係について学習する。
8回	タイ・バンチェン遺跡：考古学研究と遺跡の活用について学習する。
9回	プレゼンテーションとディスカッション：グループ学習の成果発表と前2回の講義を踏まえ、考古遺跡の活用とその現状について日本とアジアの例を比較する。
10回	カンボジア・アンコール遺跡群：巨大な世界遺産と地域住民の関係について学習する。
11回	マレーシア・ペナンとマラッカ：多民族都市の文化遺産保護について学習する。
12回	プレゼンテーションとディスカッション：グループ学習の成果発表と前2回の講義を踏まえ、文化遺産の保護と地域住民との関係について日本とアジアの例を比較する。
13回	シルクロードの遺跡群：国境を越えた「道」の世界遺産について学習する。
14回	プレゼンテーションとディスカッション：グループ学習の成果発表と前回の講義を踏まえ、国境を越えて文化遺産を関連付け、保護しようとする試みについて、日本とアジアの例を比較する。
15回	授業のまとめ：前回までの授業を踏まえ、日本とアジアの文化遺産が直面する課題について比較文化的視点から考察し、課題解決の方向性について討論する。文化遺産の保護と活用の意義について意見を述べる。

回数	準備学習
1回	予習:シラバスをよく読み、自分の関心のある内容についてまとめておくこと。 復習:グループの課題について調べ学習を始めること。(標準学習時間180分)
2回	予習:文化財保護法について情報を集め、まとめておくこと。 復習:日本の文化財の分類と、現行の文化財保護法制定に至る歴史についてまとめておくこと。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
3回	予習:ユネスコ世界遺産について情報を集め、まとめておくこと。 復習:ユネスコ世界遺産の登録と管理のシステムについてまとめておくこと。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
4回	予習:ベトナムの世界遺産・ホイアンについて情報を集め、まとめておくこと。 復習:ホイアンと日本との関係についてまとめておくこと。町並み保存と観光振興の関係について意見をまとめておくこと。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
5回	予習:中国雲南省の世界遺産・麗江について情報を集め、まとめておくこと。 復習:麗江の観光開発がナシ族の文化に与えた影響についてまとめておくこと。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
6回	予習:グループでプレゼンテーションに向けた準備を行うこと。文化遺産と観光の関係について意見をまとめておくこと。 復習:各プレゼンテーションとディスカッションに対するReflectionをMomocampusに記入すること。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
7回	予習:ベトナムの世界遺産・ミーソン寺院遺跡について情報を集め、まとめておくこと。 復習:チャンパの遺跡が活用されることと、チャム族の文化振興がどのように関係しているか、自分の考えをまとめておくこと。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
8回	予習:タイの世界遺産・バンチェン遺跡について情報を集め、まとめておくこと。 復習:バンチェン遺跡に関する考古学研究が遺跡の活用とどのように関係してきたか、まとめておくこと。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
9回	予習:グループでプレゼンテーションに向けた準備を行うこと。考古遺跡の活用について自分の意

	見をまとめておくこと。 復習:各プレゼンテーションとディスカッションに対するReflectionをMomocampusに記入すること。 。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
10回	予習:カンボジアの世界遺産・アンコール遺跡群について情報を集め、まとめておくこと。 復習:世界遺産登録が地元の住民に幸福と豊かさをもたらしたのかどうか、自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間180分)
11回	予習:マレーシアの世界遺産・マラッカとジョージタウン(ペナン)について情報を集め、まとめておくこと。 復習:多民族が暮らす都市の文化遺産をどのように継承し活用すべきか、自分の意見をまとめておくこと。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
12回	予習:グループでプレゼンテーションに向けた準備を行うこと。文化遺産の保護と地域住民の生活がどのように関係するのが望ましいのか、自分の考えをまとめておくこと。 復習:各プレゼンテーションとディスカッションに対するReflectionをMomocampusに記入すること。 。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
13回	予習:中国と中央アジアのシルクロードに関連する遺跡について情報を集め、まとめておくこと。 復習:シルクロードの各遺跡の概要についてまとめておくこと。(標準学習時間180分)
14回	予習:グループでプレゼンテーションに向けた準備を行うこと。国境を越えた「道」を世界遺産とする意図と意義について、自分の考えをまとめておくこと。 復習:各プレゼンテーションとディスカッションに対するReflectionをMomocampusに記入すること。 。グループの課題について調べ学習を継続すること。(標準学習時間180分)
15回	予習:授業の中で気づいた文化遺産をめぐる課題(問題点)について、まとめておくこと。文化遺産を保護し活用することの意義について、自分の考えをまとめておくこと。 復習:授業全体のReflectionをMomocampusに記入すること。(標準学習時間180分)

講義目的	日本とアジア諸国の文化遺産に注目し、国や地域の中で文化遺産がどのように保護され活用されているか、日本とアジア各国の例を比較しながら考察する能力を身につける。文化遺産の中でも特に世界遺産に注目し、講義とグループワークを通して世界遺産の概要を学び、それぞれの遺産が抱える課題について理解し、ディスカッションを行う。その過程でアジアの多様な民族とその文化に対する理解を深め、文化遺産を保護し活用する意義について考える。(社会情報学科の学位授与方針項目C、Fにもっとも強く関与、項目B、Dに強く関与する)
達成目標	1.自分たちが選択した世界遺産についてグループで調べ学習を行い、その成果についてパワーポイントを利用してプレゼンテーションを行うことができる。(C,D,F) 2.講義内容、プレゼンテーション、ディスカッションを踏まえて、自分の振り返り(Reflection)を述べるができる。(C,D) 3.日本における文化財の分類体系、ユネスコ世界遺産の枠組と登録へのプロセスなどについて具体的に説明できる。(B) 4.日本とアジア諸国の事例を比較検討することを通して、文化遺産とそれに関わる人々が直面する課題を見出し、解決の方向性を提案することができる。(C) 5.文化遺産を保護し活用する意義について、自分の意見を述べるができる。(C)
キーワード	アジア、文化遺産、世界遺産、比較、遺跡、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	グループワークの提出物(パワーポイントファイルと配布資料)(達成目標1,4,5を評価)評価割合40%、授業時間中に実施する小テスト(達成目標3,4,5を評価)評価割合40%、Reflectionへの評価(達成目標2を評価)評価割合20%、以上により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
教科書	講義で資料を配布する。
関連科目	
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A1号館7階719山形研究室 直通電話086-256-9847 E-mail:yamariko@mgt.ous.ac.jp オフィスアワーについてはmylogポートフォリオを参照してください。
授業の運営方針	・授業は教員が講義を行う回と、受講生が主体となるプレゼンテーションとディスカッションの回からなる。 ・講義資料は講義開始時に配布する。 ・講義の回には、講義内容に関する小テストを実施する。その際、配布資料とノートを参照することを許可する。 ・プレゼンテーションとディスカッションを中心とする回の終了後、Reflectionを提出することが求められる。 ・他の受講生と意見を出し合いながらグループワークを行うので、協調性と積極性が求められる。 ・30分以上の遅刻と早退は欠席扱いとする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション

グ	数名からなるグループに分かれ、世界遺産に関する課題を選び、調べ学習と成果発表（プレゼンテーション）を行う。また、教員による講義とプレゼンテーションの内容をもとに、受講生によるディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	小テストは採点后、コメントを入れて返却する。ReflectionについてもMomocampusのフィードバックを利用してコメントを返す。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・「社会調査士」の認定科目である。 ・講義中の録音/録画/撮影は他の受講生の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。

科目名	世界地誌(再)【月4月5】(FIV19200)
英文科目名	World Topography
担当教員名	辻貴志＊(つじたかし＊)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義のガイダンスを行う。併せて、スマホをオフにし、自分の目、肌、足で感じて世界を歩く、世界地誌を学ぶ上で有用な「フィールドワーク」の重要性について解説する。フィールドワークについて説明できるよう復習すること。
2回	統計で見る日本人の平均
3回	人類と環境適応-形質から見える人類の法則
4回	人口と環境問題
5回	漁撈活動
6回	農業
7回	ヒトの身体とジェスチャーを見る
8回	食糧と栄養
9回	狩猟
10回	ドメスティケーション-野生生物の「家畜化」と「栽培化」
11回	食べ物とそのカテゴリー
12回	世界の民話と日本の民話
13回	生物を利用した生業
14回	人類と感染症
15回	世界の言語問題-日本の方言を中心に
16回	最終評価試験

回数	準備学習
1回	受講に適した科目かどうか判断するために、シラバスによく目を通しておくこと。わからない点は積極的に質問すること。第2回講義の「統計で見る日本人の平均」について、参考文献などを利用し予習すること。(標準学習時間:120分)
2回	「統計で見る日本人の平均」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第3回講義「人類と環境適応-形質から見える人類の法則」について予習すること。(標準学習時間:120分)
3回	「人類と環境適応-形質から見える人類の法則」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第4回講義「人口と環境問題」について予習すること。(標準学習時間:120分)
4回	「人口と環境問題」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第5回講義「漁撈活動」について予習すること。(標準学習時間:120分)
5回	「漁撈活動」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第6回講義「農業」について予習すること。(標準学習時間:120分)
6回	「農業」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第7回講義「ヒトの身体とジェスチャーを見る」について予習すること。(標準学習時間:120分)
7回	「ヒトの身体とジェスチャーを見る」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第8回講義「食糧と栄養」について予習すること。(標準学習時間:120分)
8回	「食糧と栄養」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第9回講義「狩猟」について予習すること。(標準学習時間:120分)
9回	「狩猟」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第10回講義「ドメスティケーション-野生生物の「家畜化」と「栽培化」」について予習すること。(標準学習時間:120分)
10回	「ドメスティケーション-野生生物の「家畜化」と「栽培化」」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第11回講義「食べ物とそのカテゴリー」について予習すること。(標準学習時間:120分)
11回	「食べ物とそのカテゴリー」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第12回講義「世界の民話と日本の民話」について予習すること。(標準学習時間:120分)
12回	「世界の民話と日本の民話」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第13回講義「生物を利用した生業」について予習すること。(標準学習時間:120分)
13回	「生物を利用した生業」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第14回講義「人類と感染症」について予習すること。(標準学習時間:120分)
14回	「人類と感染症」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第15回講義「世界の言語問題-日本の方言を中心に」について予習すること。(標準学習時間:120分)

	)
15回	「世界の言語問題ー日本の方言を中心に」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第16回講義時に実施する最終評価試験について予習すること。（標準学習時間：120分）
16回	1回から15回までの講義内容をレジュメや参考文献などを利用し、よく理解しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	本講義は、世界の様々な事象について、過去から未来まで、基本的かつ重要な世界地誌のトピックを取り上げ、解説していく。そして、世界の問題が日本を含め相互に影響し合っている事実を確認し、プラスの問題は積極的に評価し、マイナスの問題は真摯に解決するための思考能力を身につける練習をする。本講義は教職課程科目であることから、一般的な答えが求められる問題を扱う一方、教員として生徒の可能性を引き出せるよう柔軟でユニークな「考え方」ができるよう意図されている。本講義は、文系の学生だけでなく、理系の学生も視野に入れた内容となっている。内容の多くは、担当教員が異文化世界で独自に入手したものであり、主観的に思われる点はどんどん批判いただき、議論の仕方も学んでゆく。講義では、担当教員のこれまでの異文化の人びとや環境との付き合い方など、失敗例も交え紹介することで、異文化や他者への関心が高まることを期待する。さらに、自分自身で異文化世界を歩き回り、世界地誌の知識を豊かにすることは、人間を理解する上で有効な手段であり、教員としての資質にも大きく役立ってこよう。（経営学科の学位授与方針項目Fにもっとも強く関与する。社会情報学科の学位授与方針項目Bに最も強く関与し、Cに強く関与する）
達成目標	①生の世界に関心を持つ。 ②世界事情を幅広く把握する。 ③世界の動きが自分たちの生活と大きく絡み合っていることを理解する。
キーワード	人類、環境、文化、文明、資源。
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	最終評価試験65%、講義中の小テストと議論35%で評価する。いずれも基本を踏まえた上で、正誤関係なく独自色に富む回答を高く評価する。総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。本講義の内容はテキストに出ていないことを含んでいる。
関連科目	文化史、地理学、民俗学。
参考書	毎回配布するレジュメに参考文献を示す。また、講義中、適宜指示する。
連絡先	連絡はメールにて対応する。メールアドレスは、tsujitakashi4989@gmail.com。携帯メールでの連絡はシステム上、返信できないことがあるので、連絡にはパソコン・メールアドレスを使用すること。講義日当日の質問や相談は、講義の前後に受け付ける。
授業の運営方針	講義形式で講義を行うが、ディスカッションも取り入れる。また、毎回の講義で講義内容に関連した短い民族誌映像を視る。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	毎回の講義中にコメントペーパーを課す。翌週の講義でコメントペーパーに対する回答を行う。最終試験終了時に模範解答と解説を示す。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な学生は事前に相談すること。講義中の録音・録画・撮影などは支援を必要とする学生に限り認める。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、適切な単元においてフィードバックを行う。

科目名	地理学(再)【月4月5】 (FIV19300)
英文科目名	Geography
担当教員名	神田竜也＊ (かんだたつや＊)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンスのレジュメにより、授業内容を確認し、地理学および地誌の学問としての性格を説明できるようにする。地域を見る視点としてマルチスケールの考え方を理解する。
2 回	さまざまな地図に関して、表現方法、地図投影法からみた分類とその特色を理解する。地理情報システム (GIS) の技法を理解する。
3 回	地形図の種類と特色を理解し、読図の基礎 (縮尺、等高線、谷と尾根、地図記号) を修得する。
4 回	扇状地のなりたちと土地利用の特色を理解する。
5 回	日本の河川の特徴をふまえ、河川をつくる地形とその土地利用の特色を理解する。伝統的な水害対策を学び、今後の防災・減災にむけての教訓や対応を考察する。
6 回	人口論の古典や生物界の教訓をもとに、人口の考え方や将来人口を展望する。理論世界の人口構成について、人口転換モデル、人口ピラミッドにみる人口構成の違い、人口政策とその影響を理解する。
7 回	日本の人口は、減少局面に入り、少子高齢化が著しいことを理解し、あわせて少子高齢化の課題を考察する。コーホートからみた地域人口動態の特徴を検討する。
8 回	都市の誕生・発達、都市の中心地機能や内部構造の特徴を理解する。
9 回	イギリスの都市計画 (田園都市、大ロンドン計画)、ロンドンと日本の都市におけるニュータウンの違いを理解する。いろいろな都市問題の諸相とコンパクトなまちづくりについて理解する。
1 0 回	都市交通問題の発生とその背景、対応について、欧米の事例も参照しつつ、理解する。日本における公共交通の復権について考察する。
1 1 回	村落の形態 (集村と散村)、村落社会の機能を理解する。日本の散村でみられる屋敷林において、その役割と保全への方策を考察する。
1 2 回	村落の衰退過程と集落の小規模化、土地利用問題の本質を理解する。地域づくりの新たな潮流を展望する。
1 3 回	農業の成立条件、三大穀物や家畜の利用について理解する。日本農業の現状と性格、2000年代以降の新たな展開 (農業生産の組織化・法人化など) を理解する。農業地域区分の方法を修得する。
1 4 回	グローバル化への対応として農業の大規模化が果たして現実的か、具体的な事例やデータをもとに検討する。農業地理学の視点と課題を理解する。
1 5 回	農業の環境への影響とその地域対応を理解する。14回目の講義と関連して、小さな農業の役割について検討する。
1 6 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	ガイダンスのレジュメにより、授業内容を確認し、地理学の学問としての性格を説明できるように復習すること。また、図書館などで2、3の参考文献を自分の目で見えてみる (標準学習時間60分)。
2 回	地図の分類と主題図の表現方法について、説明ができるように復習すること (標準学習時間60分)。
3 回	地形図の基礎 (縮尺、等高線、谷と尾根、地図記号) が説明できるように復習し、地形図の読図の精度を高めること (標準学習時間90分)。
4 回	扇状地のなりたちと土地利用の特色を、地形図上および模式的に図示して説明できるように復習し、前回に引き続き、地形図の読図の精度を高めること (標準学習時間90分)。
5 回	日本の河川の特徴、河川がつくる地形、地形と災害との関係を説明できるように復習すること。また、第6回授業までに、人口問題に関する書籍や新聞記事等を読んで、次回学習内容の予習を行うこと (標準学習時間120分)。
6 回	人口理論の流れ、世界の人口構成を説明できるように復習すること (標準学習時間60分)。
7 回	日本の人口動態、人口問題を説明できるように復習すること (標準学習時間60分)。
8 回	都市の起源と発達を、具体的な都市をあげながら説明できるように復習すること (標準学習時間60分)。
9 回	都市計画の目的、イギリスの田園都市、日本の都市計画史を説明できるように復習すること (標準学習時間60分)。
1 0 回	公共交通問題を説明できるように復習すること (標準学習時間60分)。
1 1 回	村落の形態・機能・構造を説明できるように復習すること (標準学習時間60分)。
1 2 回	村落の衰退過程と、新たな潮流としての地域づくり、田園回帰などを説明できるように復習すること。第13回授業までに、農業問題に関する書籍や新聞記事を読んで、次回学習内容の予習を行うこと

	と（標準学習時間120分）。
1 3 回	日本農業の現状を説明できるように復習すること（標準学習時間60分）。
1 4 回	農産物の輸入自由化と、その国内産地の影響を説明できるように復習すること（標準学習時間60分）。
1 5 回	農業の環境への影響とその地域対応を説明できるように復習すること（標準学習時間60分）。
1 6 回	これまでの授業内容を説明できるようにすること。授業の内容をふまえたうえで、自ら考えを述べたり、検討したりすること（標準学習時間180分）。

講義目的	地理学がこれまで明らかにしてきた地域的事象に関して、地理的知識の定着を図るとともに、その見方・考え方の技能を修得する。おもなテーマとしては、地形と災害、人口、都市と村落、産業を取り上げる。また、その地域的事象を明らかにするための「地図」について、その読み取り（読図）や作製方法を学ぶ。経営学科の学位授与方針の項目Bにもっとも強く関与、項目Cに強く関与する。
達成目標	1) 地理学、地誌学の諸課題について、その見方・考え方を身につけることができる。（B、C） 2) 地図、統計類を読み解く技能が修得できる。（B） （ ）内は、経営学科の学位授与方針の項目Bにもっとも強く関与、項目Cに強く関与する。
キーワード	地理学、マルチスケール、地図、地形図の読図、土地利用、地形と災害、人口、都市と村落、グローバル化
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	定期試験60%、提出物（授業中の実習課題、ミニツツペーパーなどを含む）40%として、達成目標1) 2)を確認し、計60点以上を合格とする。
教科書	なし。ノート式のプリントを配布する。
関連科目	
参考書	
連絡先	担当教員不在時の連絡等は、受け入れ担当教員（徳澤）までお願いします。
授業の運営方針	出席の際は授業マナーを守ること（スマホ、私語、無断退出）。同意できない者は、他の学生の迷惑になるので登録しないこと。講義資料は講義開始時に配布する。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	提出課題については、次回の講義時にフィードバックを行う。最終評価試験については、試験後またはMomo-campusにおいて模範解答を提示する。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	ア) 高等学校の現教員経験者、イ) 中等教育の指導経験を活かして、各講義内容に関する中等教育レベルの教授法や地理教育の議論なども適宜紹介したい。
その他（注意・備考）	

科目名	地理情報解析(再) (FIV19400)
英文科目名	Geographic Information Analysis
担当教員名	佐藤丈晴 (さとうたけはる)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	指導の方針と目的を説明する。講義の進め方と基本的ルールを確認する。また、成績のつけ方について具体的に説明する。
2回	国土地理院で発行されている地図について説明する。
3回	さまざまな縮尺の地図の作成について説明する。
4回	地図を読むという感覚について説明する。
5回	座標系について説明する。
6回	第5回までの学習内容について問題演習を行う。
7回	小テストを実施する。 小テスト後、フィードバックを行い、学生が理解する。
8回	平面直角座標系について説明する。
9回	地理情報システムについて説明する。
10回	地理情報について説明する。
11回	航空レーザ測量について説明する。
12回	小テストを実施する。 小テスト後、フィードバックを行い、学生が理解する。
13回	第12回までの学習内容について問題演習を行う。
14回	第13回までの学習内容について問題演習を行う。
15回	小テストを実施する。 小テスト後、フィードバックを行い、学生が理解する。

回数	準備学習
1回	ノートを準備 (第1回目の講義には持参) すること。
2回	国土地理院発行の地形図を予習しておくこと (標準学習時間90分)。国土地理院について確認すること (標準学習時間20分)。
3回	さまざまな縮尺の地形図を目的・用途について予習しておくこと (標準学習時間90分)。さまざまな縮尺の地図の長さを計算できるようにしておくこと (標準学習時間20分)。
4回	地図を「読む」ことについて調べておくこと (標準学習時間90分)。地図記号を用いて現地の状況が把握できるように訓練すること (標準学習時間20分)。
5回	座標系を予習しておくこと (標準学習時間90分)。座標系について確認すること (標準学習時間20分)。
6回	第5回までの学習内容について復習しておくこと (標準学習時間90分)。演習した問題が解けるように復習すること (標準学習時間20分)。
7回	テスト範囲について勉強しておくこと (標準学習時間180分)。小テストで出題された問題を解けるようにしておくこと (標準学習時間20分)。
8回	平面直角座標系を予習しておくこと (標準学習時間90分)。平面直角座標系の問題を解けるようにしておくこと (標準学習時間20分)。
9回	地理情報システムを予習しておくこと (標準学習時間90分)。地理情報システムの問題を解けるようにしておくこと (標準学習時間20分)。
10回	地理情報を予習しておくこと (標準学習時間90分)。地理情報について説明できるようにしておくこと (標準学習時間20分)。
11回	航空レーザ測量を予習しておくこと (標準学習時間90分)。航空レーザ測量について理解すること (標準学習時間20分)。
12回	テスト範囲について勉強しておくこと (標準学習時間180分)。
13回	第12回までの学習内容について復習しておくこと (標準学習時間90分)。
14回	第13回までの学習内容について復習しておくこと (標準学習時間90分)。
15回	テスト範囲について勉強しておくこと (標準学習時間180分)。

講義目的	地図についての基本的な読み方を学び、地図から地域の地形地質等地球科学的現象の取得について説明する。さらに電子地図の利用により、従来からの紙ベースの地図から大幅に取り扱える情報が増加し、様々な情報が地理空間情報として利活用されている実態を理解する。その情報を基に地理情報システムを用いて空間解析ができることを理解する。(生物地球学科学学位授与の方針Bに最も強く関与、およびAに強く関与、およびCはある程度関与)
達成目標	1) 地図に関する基本的知識を有し、理解する。

	2)地理情報システムの基本的知識を有し、実際に取り扱える。 3)人前で積極的に発言できる。 (生物地球学科学学位授与の方針Bに最も強く関与、およびAに強く関与、およびCはある程度関与)
キーワード	地図、測地系、GIS、主題図
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	小テストの結果（達成目標1・2を評価）（100点）で評価する。小テストは3回を計画している。最終評価試験は実施しない。 授業回数の1/3以上の欠席が認められた場合には試験成績は無効とみなし、E評価とする。 講義中の質疑に対する発言及び講義への積極的姿勢が認められた場合は別途加点評価する（達成目標3を評価）。詳細は第1回講義にて説明する。 小テストとこの加点によって100点を超える場合は100点と評価する。評価の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
教科書	特にありません。
関連科目	・地球科学概論を受講しておくことが望ましい。 ・地球・気象学コースで気象分野（防災）を希望する人は、水文気象観測学、応用地質学、土砂災害防止法を履修することが望ましい。
参考書	データ、プリントなどを配布し、説明補助資料として用いる。 Momo-campusにて配布する。第1回講義で紹介する。
連絡先	C2号館6階 佐藤研究室
授業の運営方針	講義の受講における詳細は、第1回講義で説明するため、必ず出席すること。 本講義では、事前に与えられたテーマについて毎講義プレゼンテーション及び質疑応答を行う。履修者は毎時間レポートを提出する。 講義中の録音、録画、撮影は基本的に認めない。特に事情のある学生はガイダンス時に申し出ること。
アクティブ・ラーニング	講義中に適宜、口頭ならびにスライドを用いて質問し、学生が自主的に挙手・板書して自分の考えを履修者全員に披露する。
課題に対するフィードバック	・この講義では各自の理解を深めるために、毎時間開始時に前講義の復習問題、および講義終了時に当日の問題演習を課し、直後に解答解説を行う。 ・小テストや講義中の質疑の解答・解説のフィードバックは講義中およびMomo-campusを通じておこなう。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 ・配布資料やMomo-campusの資料は、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用を禁止する。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。例えば障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、必ず相談すること。
実務経験のある教員	・元建設コンサルタント企業勤務（技術士（建設）） ・国土交通省や都道府県の土砂災害警戒情報の発表基準を設定し、地理情報システムを用いた防災事業計画を策定した経験を活かして、国土交通省が実施している具体的事例を基に、生物地球学科学学位授与の方針B記載の「実践的に解決する能力」を育成する。
その他（注意・備考）	第1回目の講義には必ず出席すること。

科目名	社会情報実習ⅳ(再) (FIV19500)
英文科目名	Socio-Information Practice ⅳ
担当教員名	志野敏夫(しのとしお)
対象学年	2年
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションおよび導入。歴史学、考古学、民俗学の違いなどについて講義する。
2回	なぜ歴史を勉強するかについて、討論形式で考察する。(志野敏夫)
3回	「歴史の多様性」について、討論形式で考察する。 (志野 敏夫)
4回	各人が調べてきたことをもとに、地名から歴史を探る方法について紹介する。(志野 敏夫)
5回	前回到引き続き、各人が調べてきたことをもとに、地名から歴史を探る方法について紹介する。(志野 敏夫)
6回	残された史料から歴史を再構築する方法について講義する。その際に、例として、吉備津神社に伝わる温羅伝説を用いる。(志野 敏夫)
7回	引き続き、残された史料から歴史を再構築する方法について講義する。その際に、例として、吉備津神社に伝わる温羅伝説を用いる。またさらに、「桃太郎説話」とからめるとどのように考えられるかを講義し、歴史の多様性について理解を深める。(志野 敏夫)
8回	改めて、歴史を勉強する意義について討論を行う。 (志野 敏夫)
9回	考古資料と文献史料それぞれの特性について、討論形式で考察し、その双方にもとづいて歴史を探る方法について講義する。(山形真理子)
10回	考古資料を実際に扱う実習(縄文土器の拓本実習)を行う。(山形真理子)
11回	前回到引き続き、考古資料を実際に扱う実習(縄文土器の拓本実習)を行う。(山形真理子)
12回	各人が調べてきたことをもとに、岡山県内の遺跡について紹介する。(山形真理子)
13回	前回到引き続き、各人が調べてきたことをもとに、岡山県内の遺跡について紹介する。(山形真理子)
14回	残された遺跡と遺物から歴史を再構築する方法について講義する。その際に、例として、弥生墳丘墓から前方後円墳の成立までの過程について講義する。(山形真理子)
15回	改めて、歴史学としての考古学を勉強する意義について討論を行う。(山形真理子)

回数	準備学習
1回	「歴史学」「考古学」「民俗学」ということばについて調べておくこと(標準学習時間60分)
2回	各自「歴史とは何か」について考えておくこと。(標準学習時間50分)
3回	前回の講義を踏まえて、「歴史とは何か」について考えておくこと。(標準学習時間90分)
4回	各人の居住地の地名について調べておくこと。(標準学習時間120分)
5回	前回講義を踏まえ、各自のレポートについて再考しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	吉備津神社について調べておくこと。(標準学習時間120分)
7回	陰陽五行説について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでの講義、討論、レポートを再度確認しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	考古資料と文献史料の違いについて調べておくこと。(標準学習時間90分)
10回	拓本とは何か、情報を集めておくこと(標準学習時間90分)
11回	拓本を採った土器資料について調べておくこと(標準学習時間90分)
12回	各人が岡山県内の遺跡を一つ選び、その概要について調べておくこと。(標準学習時間120分)
13回	前回講義を踏まえ、各自のレポートについて再考しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	弥生墳丘墓と前方後円墳について調べておくこと。(標準学習時間90分)
15回	これまでの講義、討論、レポートを再度確認しておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	歴史・考古・民俗学を学び研究するに際し、必要で不可欠な基礎的な知識と方法、および基本的スキルを、自ら実践することで習得することを目指す。(社会情報学科の学位授与方針項目B、C、Dにもっとも強く関与する)
達成目標	①歴史学・考古学・民俗学という学問についての基礎的な知識を記述することができる。 ②歴史学の研究方法について討論することができる。 ③考古資料の特性について討論することができる。 (社会情報学科の学位授与方針項目B、C、Dにもっとも強く関与する)
キーワード	歴史学、民俗学、考古学
試験実施	実施しない

成績評価(合格基準60) 志野: 討論における論理性・妥当性(40%) (達成目標2)、レポート(60%) (達成目標1)で評

点)	価する。 山形：討論における論理性・妥当性（30%）（達成目標3）、提出課題（20%）、レポート（50%）（達成目標1）で評価する。 総合して全体の60%以上で合格とする。
教科書	特に無い
関連科目	志野：東アジアの歴史、歴史学、歴史資料解析、外国史（B2） 山形：遺跡と遺物、遺跡遺物情報解析
参考書	各授業の時に指示する
連絡先	志野：A1号館6階 山形：A1号館7階
授業の運営方針	・第1回授業のオリエンテーションで遅刻の取り扱いなどを含む授業の運営方針を詳しく述べるので、必ず聞くこと。履修訂正により遅れて講義に参加する学生は、必ず個別に志野まで聞きに来ること。 ・レポートにおける剽窃やコピペなど、不正行為があった場合には、本授業の成績評価の対象から外すので、絶対に行わないように。 ・複数人によるグループ活動を行いそれを評価するので、そのことを了解したうえで履修すること。 ・講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
アクティブ・ラーニング	この講義ではアクティブラーニングを促すためグループディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・レポートなどは、グループディスカッションなどの中でフィードバックしていく。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	ビジネス実務総論(再) (FIV20000)
英文科目名	Information of Business Practice
担当教員名	八木力俊* (やぎりきとし*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「オリエンテーション」～この講座目的とキャリアの考え方について説明する。
2回	「キャリアデザインの時代を生きる」～なぜキャリアデザインを考えなければならないか？人生全体のキャリアや今までの自分を考察する。
3回	「大学生生活とキャリアの関係について」～大学生活全般及び岡山理科大学や経営学部でできることについて説明する。
4回	「人生100年時代のキャリアデザイン」～AIの急速な進化や寿命が100年を超えるのが当たり前といわれる現代においては変化をとらえることが必要とされる。その考えを学び自らのキャリアデザインに役立てるよう解説する。
5回	「大学生のゴールと就職活動」～大学を終えた後の自分を想像するとともに、履歴書を書くことの意味と基本について説明する。
6回	「資格を活かす生き方」～資格の種類を説明し、取得することのメリットや意味について考える。複数の資格を説明して今後の参考にする。
7回	「学ぶことと経験することについてⅠ」～学ぶことと経験することについてグループで考える。最後にメンバー同士のフィードバックを行い自らのスキルについて考察する。
8回	「学ぶことと経験することについてⅡ」～学ぶことと経験することについて演習を通じて考える。最後にメンバー同士のフィードバックを行い自らのスキルについて考察する。(グループワーク)
9回	「会話による情報伝達Ⅰ」～話し方、聴き方について説明する。演習を通じて日常生活で意識し使えるように練習する。
10回	「会話による情報伝達Ⅱ」～就職試験で用いられるグループディスカッションを体験して意見の違いをまとめる練習をする。
11回	「メディアから情報を得る方法」～新聞や雑誌、インターネット、テレビなど様々な媒体から情報を得る方法を学習し習慣化する。
12回	「要約するための技術を学ぶ」～11回で学んだ内容を文章にして伝える練習をする。
13回	「発表するための技術を学ぶ」～発表するための文章の技術を学び、文章を作成する。
14回	「計画された偶然を引き寄せる」～ブランド・ハプンスタンス理論をベースに世の中にある機会を前向きにとらえる方法を学ぶ。
15回	キャリアプラン、ライフプランの作成を説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	書籍やインターネットを参考にして「キャリア」とは何か自分なりの意見をまとめてくること。(標準学習時間60分)
2回	書籍やインターネットを参考にして「なぜキャリアデザインを考えなければならないか？」自分なりの意見をまとめてくること。(標準学習時間60分)
3回	大学のホームページを見たり、改めて志望動機を思い返し、大学生活とはなにか自分なりの意見を考えておくこと。やりたいことや目標も考えておくこと。(標準学習時間60分)
4回	書籍やインターネットを参考にして「人生100年時代」について調べ、自分なりの意見をまとめてくること。(標準学習時間60分)
5回	ワークで履歴書を作成してPRを行う。経歴や自己PRなどを考えておくこと。(標準学習時間60分)
6回	興味のある分野の資格について調べておくこと。(標準学習時間40分)
7回	「まなぶこと」や「経験すること」について自分なりの意見をまとめてくること。また一番長く続けていることについて考えてくること。(標準学習時間60分)
8回	経験により学んだことを思い出して箇条書きにしておくこと。(標準学習時間60分)
9回	自己PRを行うので、自分の強みや好きなこと苦手なことなどを自己分析しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	事前に「グループディスカッション」について調べてくること。(標準学習時間60分)
11回	日常どのようなメディアを利用して情報を得ているかメンバーに説明できるようにまとめておくこと。(標準学習時間60分)
12回	新聞やインターネットから気になった記事を選んで持ってくること。(標準学習時間60分)
13回	前回作成した原稿を発表するための準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
14回	事前に「ブランド・ハプンスタンス理論」について調べてくること。(標準学習時間60分)
15回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと、またこれまでに配布した資料に目を通して

	くこと。（標準学習時間60分）
16回	講義内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）
講義目的	経営学部から広がる将来展望に必要な考え方や学生生活について学び、学問的・専門的知識を獲得すると共に、将来を見据えた計画を立て、自らキャリアを主体的に進めていくことを目的とする。必要とされる資格や能力、人とのかかわり方「社会人基礎力」を演習から習得できるようアクティブラーニングを中心とした内容で進める。 （経営学科の学位授与方針項目Dにもっとも強く関与する）
達成目標	①経営学部から広がる将来への可能性や学生生活について説明することができる（D） ②学問的・専門的知識を獲得すると共に将来を見据えた計画を立てることができる（D） ③自らキャリアデザインを描き、計画を立てて学生生活を送ることができる（D） ④課題を見つけ将来に向けて学生生活を主体的、行動的に過ごすことができる（D） ⑤社会で必要とされる能力や人とのかかわり方を演習から習得することができる（D） ※（）内は経営学科の「学位授与の方針」に対応する項目（学科のホームページ参照）
キーワード	自己分析、キャリアデザイン、コミュニケーション、就職活動、目標設定、社会人基礎力、ライフシフト
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する。達成目標①～⑤を確認し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	各回の講義で必要に応じてプリントを配布する。
関連科目	「コミュニケーション論」は本講座の「人と関わる力」のスキルアップにつながる。 「実践キャリア学Ⅱ」を受講することで継続して学生生活のキャリアを考えることができる。
参考書	特になし
連絡先	A1号館7階山口研究室
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい。 ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める。 ・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい。 ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う。 ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する。 ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する。
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい。

科目名	政治学(再)【月4木4】(FIV20100)
英文科目名	Politics
担当教員名	松村博行(まつむらひろゆき)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスとして講義の進め方を説明する。また、公共政策とは何か、政治とは何かについて概説する。
2回	国家と権力：政治学の基本的な概念である権力について説明する。
3回	市民革命と民主主義：自由主義や民主主義がどのように誕生したのかを説明する。
4回	現代の民主主義：民主主義と権威主義のそれぞれの特徴について説明する。
5回	現代の福祉国家：福祉国家がいかにして誕生したのか、その経緯や背景にある思想を説明する。
6回	選挙制度①：さまざまな選挙制度の特徴について説明する。
7回	選挙制度②：日本の選挙制度の特徴について説明する。 オピニオンシート①：日本の選挙制度について
8回	第1回達成度確認テスト(30分) テストの内容解説(20分) オピニオンシートの検討(40分)
9回	世論とマスメディア：マスメディアの報道が有権者の投票行動に与える影響について説明する。
10回	国会と立法：日本の国会の機能や特徴について、他国の議会と比較しながら説明する。
11回	内閣と行政：行政をを担う内閣や府省の機能や特徴、そして官僚制について説明する。
12回	政党：政党はなぜ存在するのか、そして国によって政党の数が違うのはなぜかについてそれぞれ説明する。
13回	利益団体：利益団体の政治的機能と政官財の関係について説明する。
14回	地方自治：地方と中央の関係を中心に、地方自治の意義や現在の日本が抱える問題点について説明する。 オピニオンシート②：国民の政治への関心を高めるのはだれか？
15回	第2回達成度確認テスト(30分) テストの内容解説(20分) オピニオンシートの検討会(40分)

回数	準備学習
1回	予習：政治に関するニュースを新聞で読み、そこに出てくる用語で分からなかったものについて意味を調べておくこと。 復習：シルバー民主主義について整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
2回	予習：第2章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習：権力の類型を整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
3回	予習：第4章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習：ロックとホブズの社会契約説の相違点を整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
4回	予習：第5章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習：さまざまな権威主義体制について整理しておくこと。
5回	予習：第6章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習：日本の社会保障制度について整理し、持続可能な社会保障のあり方について自分の考えをまとめておくこと。 (標準学習時間：120分)
6回	予習：第8章の1と2をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習：「多数代表」と「比例代表」の考え方にに基づき、さまざまな選挙制度について整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
7回	予習：第8章の3をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習：1993年の公職選挙法改正の理由とその後の選挙への影響についてまとめておくこと。 (標準学習時間：120分)
8回	予習：第1回から第7回の講義内容を復習しておくこと。テキストは持ち込み可。第9章の1をよく読み、内容を理解しておくこと。 (標準学習時間：180分)

9回	予習： 第9章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 新強力効果説、アナウンスメント効果について理解しておくこと。 (標準学習時間：120分)
10回	予習： 第10章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： なぜ日本は閣法の成立率が低いのか、その理由が説明できるよう整理しておくこと。 (標準学習時間：180分)
11回	予習： 第11章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 官僚制について、ヴェーバーとマートンの所論を整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
12回	予習： 第12章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： サルトーリの政党システムについて整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
13回	予習： 第13章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 多元的民主主義と利益集団自由主義の相違について整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
14回	予習： 第14章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 地方選挙の投票率が低くなる傾向について説明できるようにしておくこと。 (標準学習時間：120分)
15回	予習： 第8回から第14回までの内容を復習しておくこと。 (標準学習時間：180分)

講義目的	公共政策とは、私たちの生活する公的な社会の問題について策定され、そして社会広くに適用される政策のことを意味します。そしてそれを策定するのは政府や自治体です。つまり、公共政策は政治の機能の一部と言えます。この講義では、公共政策を取り巻く政治の仕組みを理解することを目的とします。(社会情報学科の学位授与方針の項目Bにもっとも強く関与する)
達成目標	1. 日本の政治の仕組みについて理解し、説明することできる(B) 2. 国民の政治参加の方法について理解し、説明することできる(B) 3. 種々の政治イシューについて、自身の見解を述べることできる(B) ※ () 内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	権力の正統性 古典的自由主義 新しい自由主義 社会権 大きな政府 小さな政府 新自由主義 権威主義 選挙制度改革 メディアの強力効果説 アナウンスメント効果 戦略投票 議院内閣制 首相の権力資源 鉄の三角形
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	(1)達成度確認テスト：60点(30点×2回)(達成目標1・2を確認) (2)ミニテスト：30点(3点×10回)(達成目標1・2を確認) (3)オピニオンシートの提出：10点(5点×2回)(達成目標3を確認)
教科書	『はじめての政治学〔第2版〕』／佐藤史郎・上野友也・松村博行／法律文化社／978-4-589-03832-6
関連科目	国際政治学
参考書	授業内で適宜紹介する
連絡先	松村研究室 A1号館702号室
授業の運営方針	・配布資料は、毎回授業の最初に配布する。 ・毎回、授業の初めに5分程度のミニテストをwebで実施する。スマホ所有者は毎回持参するように。未所有者はペーパーにて実施する。 ・他の受講生の妨害になる振る舞い(雑談等)については、退場も含めて厳しく対処する。 ・飲食のうち、「食」についてはガムやアメも含めて認めない。
アクティブ・ラーニング	質問・議論・ライティング ※google formやオピニオンシートを活用した対話を行います。また、こちらから質問を投げかけたり、自由な発言の時間を設定するので、有意義に活用して下さい。
課題に対するフィードバック	・毎回のミニテストは、実施直後に解説を行います。 ・達成度確認テストについても、実施後に解説を行います。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	

科目名	簿記会計(再)【月4木4】 (FIV20500)
英文科目名	Bookkeeping Accounting Theory
担当教員名	岡部勝成 (おかべかつよし)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	企業の簿記に関する簿記の意味、簿記の目的、簿記の役割、簿記の種類を説明する。
2 回	簿記の要素に関する貸借対照表、とりわけ資産と負債、純資産について説明する。
3 回	簿記の要素に関する損益計算書、とりわけ収益と費用について説明する。
4 回	取引と勘定に関するさまざまな簿記に関する取引やその勘定について具体的事例を用いて説明する。
5 回	仕訳と転記に関するさまざまな簿記に関する取引やその勘定について、取引要素の結合関係を説明する。
6 回	仕訳と転記に関する取引を勘定に記入する前に、取引内容を分析し、どの勘定科目を、貸借どちらか、幾らの金額を記入するのか説明する。さらに総勘定元帳に転記することを説明する。
7 回	仕訳帳と元帳に関する仕訳帳とその役割、仕訳帳の記入法、元帳の意味と役割、さらに元帳の記入法を説明する。
8 回	試算表に関する意味と種類、その作成、試算表と貸借平均の原理について説明する。
9 回	精算表に関するその貸借合計が一致しない場合の調査法、試算表でも発見できない誤り、精算表について説明する。
1 0 回	決算（その 1）に関する決算の意味と手続き、元帳の締切り、繰越試算表の作成について説明する。
1 1 回	決算（その 2）に関する仕訳帳・補助簿の締切り、財務諸表の作成について説明する。
1 2 回	現金・預金の記帳に関する現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、当座借越について説明する。
1 3 回	現金・預金の記帳に関する当座預金出納帳、その他の預貯金、小口現金、小口現金出納帳について説明する。
1 4 回	商品売買取引に関する傷害商品売買の処理法（分記法、総額法、三分法）について説明するとともに、講義の総括をする。
1 5 回	1回～14回までの範囲の到達度確認テストを実施し、その後解答解説を行う。

回数	準備学習
1 回	テキストを購入し簿記の意味・目的・役割・種類を理解しておくこと。また、1回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説するため復習をすること（標準学習時間120分）。
2 回	簿記の要素に関する貸借対照表、とりわけ資産と負債、純資産について説明する。
3 回	3回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
4 回	4回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
5 回	5回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
6 回	6回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
7 回	7回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
8 回	8回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
9 回	9回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
1 0 回	10回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
1 1 回	11回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
1 2 回	12回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
1 3 回	13回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
1 4 回	14回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。

	こと（標準学習時間120分）。
15回	1回～14回までの範囲の到達度確認テストを実施し、その後解答解説を行う。
講義目的	商業簿記を初めて学ぶ学生のために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説する。本講義では、企業や商店の日々の経営活動を記録・集計・計算して、経営成績と財政状態を明らかにする技術とその理論を修得することを目的としている（社会情報学科の学位授与方針項目Bにもっとも強く関与、項目Cに強く関与する）。
達成目標	1) 簿記を理解することによって、経理事務に必要な会計知識を習得できる（B） 2) 基礎的で適正な会計処理を行う能力を習得し、経営管理ができる（C） 3) 財務諸表を読む力を習得できる（C） ※（ ）内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	商業簿記、工業簿記、財務会計、管理会計、ファイナンシャルプランニング
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・到達度確認テスト(100%)により達成目標1)、2)、3)を評価し、60%以上を合格とする ・日商簿記検定試験および国家資格ファイナンシャル・プランニング技能検定試験を受験すると加点する。すでに、それらの合格者も加点する。
教科書	岡部勝成編著『入門簿記のエッセンシャル』中央経済社、2018年、978-4-502-26211-1
関連科目	簿記原理、財務諸表論、ファイナンシャルプランニング
参考書	適宜指示する。
連絡先	A1号館6階岡部研究室、オフスアワー（月曜日昼休み）、メールアドレス（okabe@mgt.ous.ac.jp）、研究室電話（086-256-9848）
授業の運営方針	・安易に欠席すると講義が理解できなくなる恐れがあるため毎回出席すること。 ・予習・復習を必ず行うことを前提にして授業に取り組むこと。 ・到達度確認テストは15回目に行い、試験形態は筆記試験とする。 ・ファイナンシャルプランニングは必ず履修すること。
アクティブ・ラーニング	・演習問題やその関連の質問に対して多くの課題を解くとともに解答解説を詳細に行うことにより簿記の技術・技能を習得し、併せて理論的思考も学習する。 ・内容の講義も取り入れるため理論と実践からシナジー効果を図る。 ・実務的な資格第1位である日商簿記検定試験および国家資格ファイナンシャル・プランニング技能検定試験受験への導きや当事者意識の醸成を図る。 ・企業が求める
課題に対するフィードバック	・簿記は一定のルールに基づいて学習しているため、その規定・規準を理解し技術・技能を効率よく正確に習得する。 ・リアクションペーパーによりフィードバックを行う。 ・毎回の試験は15回目の前半45分筆記試験、後半45分は解答解説によるフィードバックを行う。 ・最終評価試験
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。ただし、他の学生の妨げにならないように注意すること。 ・配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロード含む）や転用は禁止する。 ・配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能である。
実務経験のある教員	ア) 金融機関勤務、イ) 金融機関の経験を活かして、今日的な教育的な課題（簿記の技能・技術習得、国際化の影響等）とその対策方法について講義する。
その他（注意・備考）	・電卓もしくはそろばんを持参すること（ただし、到達度確認テストでは電子手帳、携帯電話は禁止する）。

科目名	サービス経営(再)【月1木1】 (FIV20700)
英文科目名	Service Management
担当教員名	村松潤一 (むらまつじゅんいち)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション (授業の狙いと進め方について説明する。サービス経営学とは何かを概説する。)
2回	サービス経営のマネジメントについて説明する。
3回	サービス創造のマネジメントについて説明する。
4回	サービス経験のマネジメントについて説明する。
5回	サービス人材のマネジメントについて説明する。
6回	サービス品質のマネジメントについて説明する。
7回	第1回小テスト及びフィードバック (発展問題を含む) を実施する。
8回	顧客ロイヤルティのマネジメントについて説明する。
9回	サービスによる価値創造について説明する。
10回	モバイル技術による価値創造について説明する。
11回	ITによる価値創造について説明する。
12回	ヒトとモノによる価値創造について説明する。
13回	需給調整による価値創造について説明する。
14回	サービスの新たな展開について説明する。
15回	第2回小テスト及びフィードバック (発展問題を含む)

回数	準備学習
1回	予習：サービスとは何かを具体的にイメージしておくこと。 復習：今日の社会、経済にあって、何故、サービスが重要となったかについて理解しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	予習：経営とマネジメントの違いについて考えておくこと。 復習：サービス経営をマネジメントすることの意味を理解しておくこと。(標準学習時間90分)
3回	予習：サービスを創造するとはどのようなことか考えておくこと。 復習：サービスが創造的な行為であることを理解しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	予習：サービスにとって経験はどのような役割を果たすか考えておくこと。 復習：サービス経験をマネジメントする仕組みを理解しておくこと。(標準学習時間90分)
5回	予習：サービスにとって人材はどのような役割を果たすか考えておくこと。 復習：サービスの善し悪しは従業員によるコミュニケーション対応に大きく依存していることを理解しておくこと。(標準学習時間90分)
6回	予習：サービスの品質を評価するとはどのようなことか考えておくこと。 復習：知覚品質についてよく理解しておくこと。(標準学習時間90分)
7回	予習：第1回から第6回までの講義についてまとめておくこと。 復習：テストのフィードバック内容について十分に理解しておくこと。(標準学習時間90分)
8回	顧客の「強い思い」はサービスとモノとではどのように違うか予習しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	予習：企業が顧客に提供するサービスによって何が生み出されるか考えておくこと。 復習：企業と顧客の価値創造とは何か理解しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	予習：情報化の進展によってどのようなサービス提供が始まったか調べておくこと。 復習：モバイル技術による価値共創の仕組みを理解しておくこと。(標準予習時間90分)
11回	予習：ITを利用した価値創造の事例にどのようなものがあるか調べておくこと。 復習：ITによる価値共創の仕組みを理解しておくこと。(標準学習時間90分)
12回	予習：ヒトを中心としたサービスにおけるモノとは何か考えておくこと。復習：サービスにおけるヒトとモノの関係を理解しておくこと。(標準学習時間90分)
13回	予習：需要と供給の調整は如何にして行われるかについて考えておくこと。 復習：移動サービスについて理解しておくこと。(標準学習時間90分)

14回	予習：モノとして捉えるサービスの限界について考えておくこと。復習：プロセスとしてのサービスについて理解しておくこと。（標準学習時間90分）
15回	予習：第1回から第14回までの講義についてまとめておくこと。復習：テストのフィードバック内容について十分に理解しておくこと。（標準学習時間90分）
講義目的	サービスの考え方を多面的に捉え、その本質を明らかにする。（社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与、項目Bに強く関与、項目Eにある程度関与する）
達成目標	1. サービスとは何かについて説明できる。（B） 2. そのことを通じて、多様なサービス現象の本質を論理的に捉え、説明できる。（C） 3. その上で、サービス手法のいくつかについて、実践に結び付けることができる。（E） （ ）内は社会情報学科の「学位授与方針」の対応する項目
キーワード	サービス、マネジメント、ビジネス、価値創造
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	達成目標1～3を2回の小テストで確認し、第1回小テストを40%、第2回小テストを60%の配分として、成績を評価する。
教科書	1からのサービス経営／伊藤宗彦・高室裕史／碩学社／978-4502676109
関連科目	マーケティング戦略、サービス社会システム
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7階 村松潤一研究室 086-256-9845 jmura@mgt.ous.ac.jp オフィスアワーについては春・秋学期とも月曜日2限目、木曜日4限目。
授業の運営方針	・講義資料(PPT)は、毎回、講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り、後日の配布に応じない。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別な理由がある場合、事前に相談すること。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・小テストのフィードバックは講義中に行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を行うので、必要な場合は、事前に相談すること。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	国際ビジネス(再)【月4木4】(FIV20800)
英文科目名	International business
担当教員名	張セイ(ちょうせい)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の進め方を説明する。企業が海外進出する要因について説明する。
2回	異文化と国際化と文化のダイナミックスについて説明する。
3回	異文化間の消費者行動について説明する。
4回	国際マーケティングの全体像とその標準化-適応化戦略について説明する。 第1回目小テストを行う。
5回	国際市場調査について説明する。
6回	第1回目小テストのフィードバックを行う。 国際市場規模の推定について説明する。
7回	国際市場セグメンテーションについて説明する。
8回	国際市場参入戦略とタイミングについて説明する。
9回	国際マーケティングにおける製品政策について説明する。
10回	国際マーケティングにおける価格政策について説明する。
11回	国際マーケティングにおけるチャネル政策について説明する。
12回	国際マーケティングにおける販促政策について説明と、異文化間のマーケティング・コミュニケーションについて説明する。 第2回目小テストを行う。
13回	国際ビジネスにおける組織戦略について説明する。
14回	第2回目小テストのフィードバックを行う。 国際ビジネスにおける人的資源管理戦略について説明する。
15回	事例から海外企業の日本進出、日本企業の海外進出について説明する。 国際マーケティングの新たな展開について説明する。

回数	準備学習
1回	予習：本講義のシラバスをよく読み、授業内容を確認するとともに、グローバル企業の特徴について予習すること。 復習：企業の海外進出要因を復習すること。 (標準学習時間90分)
2回	予習：文化や習慣が消費者の行動にどのような影響を与えるのかについて考えておくこと。 復習：異文化と国際化の関係について復習すること。 (標準学習時間90分)
3回	予習：異文化間の消費者行動について復習すること。 復習：国際的消費者行動モデルとその活用を復習すること。
4回	予習：国によるマクドナルドメニューの違いについて調べておくこと。 復習：国際マーケティングの体系について復習すること。 (標準学習時間90分)
5回	予習：国境を越えて市場調査する際に、どのような情報が必要であるのかを整理しておくこと。 復習：国境を越えた市場調査の進め方、2次データと1次データの使い方について復習すること。 (標準学習時間90分)
6回	予習：クロスセクション回帰分析の手法を予習すること。 復習：市場規模測定における3つの手法をまとめること。 (標準学習時間90分)
7回	予習：キャノンの国際市場セグメンテーションの進め方について予習しておくこと。 復習：国際市場セグメンテーションにおける3つの戦略を復習すること。 (標準学習時間90分)
8回	予習：参入方法の決定要因を予習すること。 復習：比較優位理論と国際プロダクト・サイクル理論を復習すること。 (標準学習時間90分)
9回	予習：企業が海外進出する際における3つの製品戦略を整理しておくこと。

	復習：標準化と適応化の視点に基づいて、製品政策の拡張と適応を復習すること。 (標準学習時間90分)
10回	予習：価格がどのような基準で決定されるのかについて考えておくこと。 復習：スターバックスの事例を参考して、価格設定のプロセスと影響要因を復習すること。 (標準学習時間90分)
11回	予習：中間業者の分類と役割を整理しておくこと。 復習：国際物流とロジスティクスの違いを復習すること。 (標準学習時間90分)
12回	予習：外国のCMを視聴し、日本のCMとどのような点が異なるのかについて考えておくこと。 復習：第9回～第12回の内容を整理して、国際マーケティング・プログラムを復習すること。 (標準学習時間90分)
13回	予習：海外組織（子会社等）が直面する問題を考えておくこと。 復習：企業組織の構成と特徴について復習すること。 (標準学習時間90分)
14回	予習：日本の雇用制度の特徴について調べておくこと。 復習：国際市場における人的資源管理の原則と戦略を復習すること。 (標準学習時間90分)
15回	予習：国際するなかで、企業はどのように顧客のニーズに対応するかについて考えておくこと。 復習：小売業とサービス業の国際マーケティングの特徴と戦略を復習すること。 (標準学習時間90分)

講義目的	消費者行動や企業のマーケティング行為は国際的に多様である。例えば、国によって「マクドナルドでの食事」の意味は異なる。したがって、企業は進出しようとする国の文化などの理解が欠かせない。そこで、本講義では、製品開発、販売行動や顧客ニーズの対応といったマーケティング・マネジメントがどのように現地の事情に応じて展開されているのかについて明らかにすることを目的とする。（社会情報学科の学位授与方針項目B、Cにもっとも強く関与する）
達成目標	1.国際ビジネスや国際マーケティングに対して興味・関心を持つこと、特に国際マーケティングについての基盤的な概念や理論を理解できる。（社会情報学科の「学位授与の方針」のB項目と関連している。） 2.国際ビジネスや国際マーケティングの理論知識を用いて、講義中に取り上げている典型事例を分析できる。（社会情報学科の「学位授与の方針」のC項目と関連している。） 3.国際ビジネスや国際マーケティングの現象について、自ら問いを立て、理論知識を活用して、解釈・分析できる。（社会情報学科の「学位授与の方針」のC項目と関連している。）
キーワード	国際化戦略、国際マーケティング、文化
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	小テスト2回及び最終課題レポートで成績を評価する。 ・第1回小テスト 評価割合15%（達成目標1を確認） ・第2回小テスト 評価割合15%（達成目標2と3を確認） ・最終課題レポート 評価割合70%（達成目標1～3を確認） 総計で60%以上を合格とする。
教科書	使用しない。講義で資料を配布する。
関連科目	マーケティング論、マーケティング戦略
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7階 張婧研究室 直通電話 086-256-9850 E-mail:j-zhang@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー 春学期月曜日2限、木曜日2限 秋学期月曜日3限、木曜日3限
授業の運営方針	・資料を配布する。 ・講義中の撮影は他の受講者の防げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・試験のフィードバックについて、小テストは採点后講義中で行い、最終課題レポートはMomo-campusのフィードバック機能を用いて行う。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	・試験のフィードバックについて、小テストは採点后講義中で行い、最終課題レポートはMomo-campusのフィードバック機能を用いて行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	

その他（注意・備考）	
------------	--

科目名	ファイナンシャルプランニング(再)【火2金2】(FIV20900)
英文科目名	Financial planning
担当教員名	岡部勝成(おかべかつよし)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ライフプランニングと資金計画①について説明する。FPと倫理・関連法規、ライフプランニングの考え方・手法、公的医療保険、公的介護保険、労災保険・雇用保険、公的年金の概要、老齢給付(国民年金)、老齢給付(厚生年金保険)
2回	ライフプランニングと資金計画②について説明する。障害給付、遺族給付、企業年金等、住宅取得プランニング、教育資金プランニング、中小法人の資金計画、ローンとカード
3回	リスク管理①について説明する。保険制度と契約者保護制度、生命保険の基礎知識、生命保険商品・第三分野の保険、体保険・法人と生命保険、生命保険料控除、個人の生命保険の税務
4回	リスク管理②について説明する。法人の生命保険の税務、損害保険の基礎知識、火災保険等、自動車保険、傷害保険・賠償責任保険、個人の損害保険の税務、個人事業主・法人の損害保険の税務
5回	金融資産運用①について説明する。金融政策と金利、経済指標、貯蓄型商品・金投資、債券投資の基礎知識、債券の利回り、債券投資のリスク
6回	金融資産運用②について説明する。株式投資の基礎知識、株式の投資尺度、投資信託、外貨建商品、金融派生商品、ポートフォリオ運用、金融商品と税金、セーフティネット、金融商品取引の関連法規
7回	タックスプランニング①について説明する。税の分類、所得税の仕組み、利子所得・配当所得、給与所得・退職所得、不動産所得・事業所得・雑所得、譲渡所得・一時所得・山林所得
8回	タックスプランニング②について説明する。損益通算・繰越控除、所得控除(物的控除)、所得控除(人的控除)、税額控除、所得税の申告・納付、個人住民税・個人事業税、法人税、消費税、会社役員間の税務
9回	不動産①について説明する。不動産登記、不動産の価格、借地借家法、区分所有法・宅地建物取引業法、売買契約上の留意点、都市計画法、建築基準法、その他法令上の制限
10回	不動産②について説明する。不動産の取得・保有と税金、不動産の譲渡と税金、居住用財産の譲渡の特例、その他の不動産の譲渡と税金、土地の有効活用、不動産の証券化
11回	相続・事業承継①について説明する。贈与と贈与税、贈与税の計算と申告・納付、相続時精算課税制度、相続と法律、遺産分割、遺言・遺留分、相続税の基礎知識、相続税の計算、相続税の申告・納付
12回	相続・事業承継②について説明する。財産評価、小規模宅地等についての相続税の課税価格の計算の特例、非上場株式の評価非上場株式の相続対策、会社法
13回	1回～6回までの総復習を行い再度説明する。
14回	7回～12回までの総復習を行い再度説明する。
15回	1回～14回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	テキストを購入しライフプランニングと資金計画の基礎を理解しておくこと。また、1回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説するため復習をすること(標準学習時間120分)。
2回	2回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間120分)。
3回	3回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間120分)。
4回	4回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間120分)。
5回	5回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間120分)。
6回	6回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間120分)。
7回	7回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間120分)。
8回	8回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間120分)。
9回	9回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間120分)。
10回	10回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間120分)。

	こと（標準学習時間120分）。
1 1 回	11回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
1 2 回	12回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
1 3 回	13回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
1 4 回	14回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間120分）。
1 5 回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	国家資格であるファイナンシャル・プランナー（Financial Planner：FP）の育成とファイナンシャル・プランニング技能検定試験に合格するレベルをめざす。FPとは、顧客である個人から、収支・負債・家族構成・資産状況などの情報の提供を受け、それに基づいて住居・教育・老後など将来のライフプランニングに即した資金計画やアドバイスを行う職業・職種、およびその職に就く者をさすため、それに合致した理論とその技術・計算方法を修得することを目的としている（社会情報学科の学位授与方針項目BおよびEにもっとも強く関与、項目Cに強く関与する）。
達成目標	1) ファイナンシャルプランニングを理解することによって、ライフプランニングに必要な会計ファイナンス知識を習得できる（B） 2) 基礎的で適正な金融・年金・不動産・相続等の各計算処理を行う能力を習得し、ライフプランニング管理ができる（C） 3) 個人や中小企業等に関する課題解決力を習得できる（E） ※（ ）内は経営学科の「学位授与の方針」の対応する項目
キーワード	キャッシュ・フロー、金融、税制、不動産、住宅ローン、簿記会計
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	・到達度確認テスト(100%)により達成目標1)、2)、3)を評価し、60%以上を合格とする。 ・国家資格ファイナンシャル・プランニング技能検定試験および日商簿記検定試験を受験すると加点する。すでに、それらの合格者は加点する。
教科書	19～'20年版最短合格 2級FP技能士／きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著／きんざい／毎年7月頃に改訂版が出版されるので、最も新しいものを購入すること。
関連科目	簿記基礎、簿記原理、財務諸表論
参考書	適宜指示する。
連絡先	A1号館 6階岡部研究室、オフスアワー（月曜日昼休み）、メールアドレス（okabe@mgt.ous.ac.jp）、研究室電話（086-256-9848）
授業の運営方針	・安易に欠席すると講義が理解できなくなる恐れがあるため毎回出席すること。 ・予習・復習を必ず行うことを前提にして授業に取り組むこと。 ・到達度確認テストは15回目に行い、試験形態は筆記試験とする。 ・簿記原理は必ず履修すること。
アクティブ・ラーニング	・演習問題やその関連の質問に対して多くの課題を解くとともに解答解説を詳細に行うことによりファイナンシャルプランニングの技術・技能を習得し、併せて理論的思考も学習する。 ・実務的内容の講義も取り入れるため理論と実践からシナジー効果を図る。 ・国家資格ファイナンシャル・プランニング技能検定試験および企業が求める資格第1位である日商簿記検定試験受験への導きや当事者意識の醸成を図る。
課題に対するフィードバック	・ファイナンシャルプランニングはさまざまな法令・規定に基づいて学習しているため、それらを理解し技術・技能を効率よく正確に習得する。 ・毎回のリアクションペーパーによりフィードバックを行う。 ・最終評価試験は15回目の前半45分筆記試験、後半45分は解答解説によるフィードバックを行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しているので、配慮が必要な場合は、事前に相談すること。 ・障がいに応じて補助器具（ICレコーダー、タブレット型端末の撮影、録画機能）の使用を認めるので、事前に相談すること。ただし、他の学生の妨げにならないように注意すること。 ・配布資料や録画データなどは他者への再配布（ネットへのアップロード含む）や転用は禁止する。 ・配慮が必要と認められた場合は、参考資料を事前に提供することが可能である。
実務経験のある教員	ア) 金融機関勤務、イ) 金融機関の経験を活かして、今日的な教育的な課題（簿記の技能・技術習得、国際化の影響等）とその対策方法について講義する。
その他（注意・備考）	・電卓もしくはそろばんを持参すること（ただし、到達度確認テストでは電子手帳、携帯電話は禁止する）。

科目名	キャリアデザイン(再) (FIV21000)
英文科目名	Career Design
担当教員名	八木力俊＊ (やぎりきとし＊)
対象学年	2年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「オリエンテーション」～実践キャリア学Ⅱで学ぶことについて説明する
2回	「現在までのキャリアを振り返る」～大学1年生のキャリアを棚卸する。初めて受講する学生もいるのでキャリアデザインをなぜ学ぶ必要があるかについても解説する
3回	「大学の学びを将来に活かす」～エンプロイアビリティと将来に向けて繋げるスキルを学ぶ
4回	「ワークスタイルからみる働き方」～正社員、フリーランサー、フリーターなど様々な働き方がある中で、それぞれの特徴を学び未来を考える
5回	「自己分析Ⅰ」～アセスメントを通じて自分を理解する方法を学ぶ。ペアになって他者評価を受け、傍目の自分に気づくことを目的とする
6回	「自己分析Ⅱ」～質問から回答を通じて自分を理解する方法を学ぶ。ペアになって他者評価を受け、傍目の自分に気づくことを目的とする
7回	「内的キャリアと外的キャリア」～自己分析とグループワークを通じて将来を決めるカギとなる経験を見つける
8回	「適職とはどのようなものか」～自己分析とグループワークで適職について考える
9回	「社会で求められる力Ⅰ」～社会人基礎力について学びそれを醸成するためのワークに挑戦する
10回	「社会で求められる力Ⅱ」～前回学んだことを踏まえてグループワークにて体験する
11回	「社会で求められる力Ⅲ」～課題解決とロジカルコミュニケーションについて説明する
12回	「社会で求められる力Ⅳ」～前回学んだことを踏まえてグループワークにて体験する
13回	社会構造の変化Ⅰ～変化に適応する力とワークライフバランスについて説明する
14回	社会構造の変化②：変化に適応する力：イノベーションについて説明する
15回	「大学後半に向けてのキャリアデザイン」～今までの学びを振り返り、今後の学生生活の計画と目標を立てる
16回	最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1回	キャリアの意味を調べてくること。実践キャリア学Ⅰを受講している者は配布資料に目を通してくること (標準学習時間60分)
2回	1年生の学生生活について他のメンバーに発表できるように振り返ってメモしてくる。実践キャリア学Ⅰを受講している者は配布資料に目を通してくること (標準学習時間60分)
3回	エンプロイアビリティの意味をメンバーに説明できるように調べて授業に参加すること (標準学習時間30分)
4回	「正社員」と「非正規社員」の違いや「フリーランサー」の意味をメンバーに説明できるように調べて授業に参加すること (標準学習時間30分)
5回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること (標準学習時間30分)
6回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること (標準学習時間30分)
7回	「内的キャリア」「外的キャリア」の意味をメンバーに説明できるように調べて授業に参加すること (標準学習時間30分)
8回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること (標準学習時間30分)
9回	「社会人基礎力」とは何か？メンバーに説明できるように整理して授業に参加すること (標準学習時間30分)
10回	グループワークの進め方を調べて参加すること (標準学習時間30分)
11回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること (標準学習時間30分)
12回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること (標準学習時間30分)
13回	「ワークライフバランス」の意味をメンバーに説明できるように調べて授業に参加すること (標準学習時間30分)
14回	「イノベーション」の意味をメンバーに説明できるように調べて授業に参加すること (標準学習時間30分)
15回	これまでのレポートで復習して授業に参加すること (標準学習時間90分)
16回	講義内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間90分)

講義目的	終身雇用・年功序列・右肩上がりといった、会社がキャリアを保障する時代から、キャリアの自律を求められる時代に変化した今、大学時代から自分のキャリアをデザインすることが求められている。本講義は、自分が社会ではどのように働き、どんな人生を送りたいのかという、自律・自立した「自分らしい生き方」をデザインして実践できる力をつけることを目的とする。
------	---

	自己分析や演習を通じて3年生からの就職活動への意識を高める。 「対話」や「プレゼンテーション」等のコミュニケーション技術を理解して実践できるようになる。 。（経営学科の学位授与方針項目Dにもっとも強く関与する）
達成目標	①自己と自分の強みと弱みを理解し、他者との円滑な意思疎通が行えるようになる。（D） ②対話を通じて視野を広げ、将来を見据えた行動が行えるようになる（D） ③問題解決の方法を身につけ、イノベーションや変化に対応できるようになる（D） ④目標を見つけ、学生生活を能動的に過ごすことができるようになる（D） ⑤働く意味を理解し、就職に向けて情報収集することができるようになる（D） ※（ ）内は経営学科の「学位授与の方針」に対応する項目（学科のホームページ参照）
キーワード	自己分析、キャリアデザイン、コミュニケーション、就職活動、目標設定、社会人基礎力、ライフシフト
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・最終評価試験において100%評価する。達成目標①～⑤を確認し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	各回の講義で必要に応じてプリントを配布する。
関連科目	「実践キャリア学Ⅰ」、「コミュニケーション論」を受講することでこの授業の意味が更に深く理解できると考える。
参考書	特になし
連絡先	A 1 号館 7 階山口研究室
授業の運営方針	・毎回記述式のプリントを配布して講義を進める。各自ファイルに綴じて反復して学習することが望ましい。 ・授業の進め方は、講師と学生、または学生同士で話し合いをしながら対話方式で進める。 ・席替えやグループ分けを通じて多くのクラスメイトと意思疎通を図り対人関係能力を醸成することを目指したい。 ・社会人への予期的活動として授業態度やマナーなどを指導する。将来に役立つこととして受け入れ習慣化してほしい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング（反転授業） ・基本的に、まず自分で考えてから、ペア、グループディスカッションを通して授業を進める。グループワークによる合意形成や発表、相互評価、自己評価を行う。 ・予習で調査した内容について授業中でグループディスカッションを実施して、グループで意見を集約して発表する。
課題に対するフィードバック	・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する。 ・最終評価試験のフィードバックとして、試験終了後に模範解答を解説する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき進めるため、配慮が必要な場合は事前に相談すること。
実務経験のある教員	社会人経験及び企業コンサルティング並びにキャリアコンサルタントの経験を基に社会人の生活や新卒採用、マネジメントに関するスキル、知識について講義する。
その他（注意・備考）	・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい。

科目名	犯罪と法(再)【月2木2】 (FIV21200)
英文科目名	Criminal Law
担当教員名	川島聡 (かわしまさとし)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション：講義の進め方を説明する。社会福祉法を解説するとともに、特に障害法の総論を説明する：『障害法』1～3章
2 回	前回に続き、社会福祉法を解説するとともに、特に障害法の総論を説明する：『障害法』1～3章
3 回	障害と憲法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは憲法の判例を取り上げる。
4 回	前回に続き、障害と憲法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは憲法の判例を取り上げる。
5 回	障害と民法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは民法の判例を取り上げる。
6 回	引き続き、障害と民法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは民法の判例を取り上げる。
7 回	障害と差別禁止法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは障害者差別の判例を取り上げる。
8 回	引き続き、障害と差別禁止法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは障害者差別の判例を取り上げる。
9 回	障害と労働法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは労働法の判例を取り上げる。
1 0 回	引き続き、障害と労働法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは労働法の判例を取り上げる。
1 1 回	障害と教育法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは教育法の判例を取り上げる。
1 2 回	引き続き、障害と教育法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは教育法の判例を取り上げる。
1 3 回	障害と社会保障法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは社会保障法の判例を取り上げる。
1 4 回	障害と刑事司法の関係を説明する（『障害法』4章）。グループワークでは刑事司法の判例を取り上げる。
1 5 回	1回～14回までの復習を行う。
1 6 回	第15回に続き、1回～14回までの復習をするとともに、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	予習として社会福祉に関する新聞記事をひとつ探してくること。（標準学習時間60分）
2 回	予習として社会福祉に関する新聞記事をひとつ探してくること。（標準学習時間60分）
3 回	予習として、障害者の憲法上の権利について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
4 回	予習として、障害者の憲法上の権利について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
5 回	予習として、障害と民法について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
6 回	予習として、障害と民法について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
7 回	予習として、障害者差別について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
8 回	予習として、障害者差別について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
9 回	予習として、障害者の労働について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
1 0 回	予習として、障害者の労働について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
1 1 回	予習として、障害者の教育について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
1 2 回	予習として、障害者の教育について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
1 3 回	予習として、障害者の社会保障について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）

14回	予習として、障害者の刑事問題について考えてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
15回	予習・復習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）
16回	予習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	刑事司法、社会福祉、特に障害福祉における法に関する講義をおこなう。また、グループワークでは関係判例を扱う。これにより、刑事司法、社会福祉、特に障害福祉における法の役割、機能、限界を理解することを本講義の目的とする。（社会情報学科の「学位授与の方針」の項目BとFにもっとも強く関与し、項目CとEに強く関与する）
達成目標	1) 社会福祉法・刑事司法の基本を正確に身につける。 2) 障害法の基本を自分の言葉で説明することができる。
キーワード	社会福祉、障害、憲法、差別、労働、教育、刑事司法
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	基本的に最終評価試験100%により成績を評価し、100点満点中、60点以上を合格とする。
教科書	障害法／菊池馨実・中川純・川島聡／成文堂／978-4-7923-2670-8
関連科目	「法学基礎」など。
参考書	六法（出版社・種類は問わない）
連絡先	川島研究室 A1号館7階
授業の運営方針	アクティブラーニングを中心とした授業を行う
アクティブ・ラーニング	ケースに関してグループワーク、発表を行い、それに対するフィードバックを行う。
課題に対するフィードバック	随時行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1) 授業では、グループワークやディスカッションを含むアクティブラーニングの手法を採用する。 2) 予習と復習をすること。 3) 授業中の私語を禁ずる。

科目名	科学技術文化史(再)【月2木2】 (FIV21300)
英文科目名	Cultural History of Science,Technology
担当教員名	横山ひとみ (よこやまひとみ)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業のオリエンテーションとして、授業の進め方、授業の内容、成績評価の方針について説明する。続いて、論理とは何かについて理解する。
2回	論理学の言語について学習する。論理学が扱う推論とは何か、命題とは何か、論理的結合子とは何か、真理値、真理表について理解する。
3回	否定について学習する。否定の意味、日常の否定と論理学の否定について理解する。
4回	排中律について学習する。排中律の意味、二重否定、二重否定則について理解する。
5回	矛盾と背理法について学習し、理解する。
6回	連言について学習する。演繹法と帰納法、連言、連言の導入則と除去則について理解する。
7回	選言について学習する。選言、選言の導入則と除去則、ド・モルガンの法則について理解する。
8回	条件法について学習する。条件法、条件法の導入則と除去則について理解する。
9回	条件法について学習する。「ならば」の否定、条件命題の対偶・逆・裏、「ならば」の連鎖について理解する。
10回	命題論理のやり方について学習する。命題論理の体系、肯定式と否定式、証明、論理法則について理解する。
11回	命題論理のやり方について学習する。公理系と意味論、健全性と完全性について理解する。
12回	述語論理について学習する。命題論理の限界、述語論理、述語論理に関連する用語を理解する。
13回	述語論理について学習する。述語論理での命題の記号化の方法、述語論理に関連する用語を理解する。
14回	述語論理の公理系について学習する。全称量化と存在量化の導入則と除去則を理解する。伝統的論理学について説明する。
15回	第1回目から第14回目までの範囲の達成度確認テストを実施し、解説を行う。

回数	準備学習
1回	論理について自分の考えをまとめておくこと (標準学習時間90分)
2回	命題と論理式、論理結合子、真理表について予習しておくこと (標準学習時間90分)
3回	否定、否定の真理表について予習しておくこと (標準学習時間90分)
4回	排中律、排中律の真理表について予習しておくこと (標準学習時間120分)
5回	矛盾、矛盾の真理表と背理法について予習しておくこと (標準学習時間120分)
6回	連言、連言の真理表について予習しておくこと (標準学習時間120分)
7回	選言、選言の真理表について予習しておくこと (標準学習時間120分)
8回	条件法、条件法の真理表について予習しておくこと (標準学習時間120分)
9回	条件命題の対偶、逆、裏について予習しておくこと (標準学習時間90分)
10回	標準的な命題論理の体系についてまとめておくこと (標準学習時間120分)
11回	形式的アプローチである公理系と内容的アプローチである意味論の違いについてまとめておくこと (標準学習時間120分)
12回	命題論理の限界と述語論理について予習しておくこと (標準学習時間120分)
13回	述語論理での命題の記号化の方法について予習しておくこと (標準学習時間120分)
14回	述語論理の公理系についてまとめておくこと (標準学習時間120分)
15回	第1回目から第14回目までの講義内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間240分)

講義目的	論理学では、我々が特に意識せずに行っている推論や議論のうち、正しいものと誤ったものを区別する原理的な方法を探求する。本講義では、論理学に関する基礎的な知識を学び、様々な具体例に基づいた問題に取り組むことで知識を修得する。
達成目標	1) キーワードを自身の言葉で説明できる 2) 具体例に対応する論理式を記述できる 3) 論理式に対応する具体例を作成することができる
キーワード	命題論理、述語論理、真理表、論理的結合子、否定、連言、選言、条件法、排中律、矛盾、公理系、健全性、完全性、全称量化子、存在量化子
試験実施	実施する
成績評価 (合格基準60点)	授業時間内の課題：評価割合40% (達成目標2と3を確認) と達成度確認テスト：評価割合60% (達成目標1～3を確認) により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	使用しない

関連科目	指定しない
参考書	入門！論理学／野矢茂樹著／中公新書／ISBN4-12-101862-1：論理学をつくる／戸山田和久著／名古屋大学出版会／ISBN978-4-8158-0390-2：マグロウヒル大学演習 現代論理学（Ⅰ）／John Nolt（著）、Dennis Rohatyn（著）、加地大介（訳）／オーム社／ISBN978-4-274-13032-8
連絡先	研究室：A1号館7階 横山研究室 直通電話：086-256-9618 E-mail：yokoyama@mgt.ous.ac.jp オフィスアワー：火曜日5限目
授業の運営方針	・授業時間内に「達成度確認テスト」を実施しますが、不正行為に対しては厳格な対処を行います。 ・提出課題に対する不正行為を見つけた場合にも、厳正な対処を行います。 ・他の受講者に迷惑をかける行為を認めた場合は、注意をした後に退出させる場合があります。 ・資料は講義時に配布します。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じません。
アクティブ・ラーニング	質問 ・授業中に質問を投げかけられ、回答をする場合があります。 ライティング ・授業の最後に学習のまとめとして学んだ内容や疑問に思ったことを記入する場合があります。
課題に対するフィードバック	・提出課題については、講義中に模範解答を示す、あるいは提出プリントの添削によってフィードバックを行います。 ・達成度確認テストについては、テスト終了時に解説を行うことによってフィードバックします。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	・講義中の録音／録画／撮影は原則認めません。特別の理由がある場合事前に相談してください。 ・配布資料や講義で使用したデータや資料などは他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）や転用は禁止します。

科目名	文化記号論(再) (FIV21400)
英文科目名	Cultural Semiotics
担当教員名	志野敏夫 (しのとしお)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 文化記号論とは何かについて講義する
2回	文化記号論とは何かについて、レポートを基にディスカッションを行う。
3回	フェルナン＝ド＝シュールの記号論について講義する。
4回	チャールズ＝サンダース＝パースの記号論について講義する。
5回	クラード＝レヴィ＝ストロースの構造主義について講義する。
6回	これまでの確認テストを行い、その後テストの解説を行う。
7回	現代の記号論について講義する。
8回	神社の構造と、それらが表象することについてディスカッションを行う。
9回	神社の構造と、それらが表象することについて、前回のディスカッションの内容に基づきつつ、先行研究を紹介する。
10回	第8回、第9回の授業を踏まえ、神社の原初的形態についてディスカッションを行う。
11回	レポートを起点として、神社の御利益と、記紀に登場する神々（天津神）の物語について講義し、それがどのように神社という構造物に表されているかを考える。
12回	レポートを起点として、神社の御利益と、記紀に登場する神々（国津神）の物語について講義し、それがどのように神社という構造物に表されているかを考える。
13回	レポートを起点として、神社の御利益と、記紀に登場しない神々の物語について講義し、それがどのように神社という構造物に表されているかを考える。
14回	吉備津神社の「温羅伝説」について分析する。
15回	第8回から第14回までの授業内容について、復習テストを行い、その後その解説を行う。

回数	準備学習
1回	文化記号論とは何かについて調べておくこと。（標準学習時間50分）
2回	第1回講義を復習し、記号論について調べ、レポートを作成しておくこと。（標準学習時間120分）
3回	フェルナン＝ド＝シュールの記号論について調べ、レポートを作成しておくこと。（標準学習時間120分）
4回	チャールズ＝サンダース＝パースの記号論について調べ、レポートを作成しておくこと。（標準学習時間120分）
5回	クラード＝レヴィ＝ストロースの構造主義について調べ、レポートを作成しておくこと。（標準学習時間120分）
6回	これまでの講義、レポート、ディスカッションについて復習しておくこと。（標準学習時間180分）
7回	第6回授業の中で挙げる研究者のうち一人を選び、その研究者の文化研究について調べてレポートを作成すること。（標準学習時間120分）
8回	神社境内はどのようになり、どのような建物があるかを調べてレポートを作成すること。（標準学習時間60分）
9回	第8回のディスカッションの内容についてまとめ、レポートを作成すること。（標準学習時間60分）
10回	第8回、第9回の授業内容を復習し、神社の原初的形態について考えておくこと。（標準学習時間90分）
11回	第10回授業の中で指定する神社について調べ、レポートを作成しておくこと。（標準学習時間120分）
12回	第11回授業の中で指定する神社について調べ、レポートを作成しておくこと。（標準学習時間120分）
13回	第12回授業の中で指定する神社について調べ、レポートを作成しておくこと。（標準学習時間120分）
14回	吉備津神社の「温羅伝説」を調べてレポートを作成すること。（標準学習時間120分）
15回	第8回から第14回までの授業内容について復習しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	社会情報学科では、私たちがよりよく生きていくために、私たちを取り巻く社会がどのようなものかを様々な角度から考える学科であるが、その際に我々を取り巻くすべての物を「記号」ととらえて分析することが有効である。本講義では「我々を取り巻くすべての物を「記号」ととら
------	--

	える」とはということかについて、理解し、具体的にその方法を実践できるようにすることを目的とする。（社会情報学科の学位授与方針のCに最も強く関与する）
達成目標	1) 文化記号論とは何かについて記述することができる。（B, C） 2) 神社について自分で調べ、それを文化記号論的方法によりディスカッションをすることができる。（C） 3) 文化記号論のさまざまなことについて自分で調べてディスカッションしたことを要約することができる。（C）
キーワード	文化記号論、構造主義、記号、表象、神社、神
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	・レポート50%（達成目標2、3）ディスカッション20%（達成目標2、3）、確認テスト30%（達成目標1、3）で評価し、その合計の60%で合格とする。
教科書	ない
関連科目	民俗学、歴史学、民俗・民族学演習、歴史資料解析、遺跡と遺物
参考書	授業中に適宜紹介する
連絡先	A1号館6階、志野研究室
授業の運営方針	・第1回の講義で、授業の運営方針について詳しく述べるので、事情によりこの授業に出席できなかった学生は、第2回講義までに必ず志野まで聞きに来ること。 ・全11回のレポートを課すが、全てそれを基に授業を展開するので、必ず提出すること。 ・したがってレポートの提出期限は次回の講義の開始直後となるので厳守すること。 ・テストでのカンニング、他人のレポートの剽窃など、不正行為は絶対に行わないこと。
アクティブ・ラーニング	・教員と、あるいはグループでのディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	・毎回のレポートは必ず授業の中で取り上げ、解説やディスカッションを行う。 ・確認テストは、実施後に解説を行う。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	

科目名	行政と法(再) (FIV21800)
英文科目名	Administrative Law
担当教員名	川島聡 (かわしまさとし)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：講義の進め方を説明する。「行政法とは何か」を具体例を用いて考える。
2回	法律による行政の原理について説明する。グループワークでは最高裁平成3年3月8日判決（ヨット係留施設の撤去）を扱う。
3回	行政法の法源について説明する。グループワークでは最高裁昭和56年1月27日判決（信頼保護）を扱う。
4回	法治主義の目的、法律の留保の原則の分類、法律の優位の原則について説明する。グループワークでは最高裁平成3年7月9日判決（旧監獄法施行規則と委任の範囲）と最高裁平成14年1月31日判決（児童扶養手当法施行令と法律の委任）を扱う。
5回	瑕疵のある行政行為などについて説明する。最高裁昭和47年10月12日判決（行政代行的な業の許可裁量）と最高裁平成4年10月29日判決（専門技術的判断と裁判所の審査）を扱う。
6回	行政裁量などについて説明する。グループワークでは最高裁昭和53年5月26日判決（余目町個室付浴場事件）と最高裁昭和63年6月17日判決（行政行為の明文なき撤回）を扱う。
7回	不利益処分手続などについて説明する。最高裁昭和62年5月19日判決（随意契約制限違反）と最高裁昭和34年6月26日判決（退職願の撤回）を扱う。
8回	行政指導などについて説明する。グループワークでは最高裁昭和41年2月8日判決（国家試験と司法審査）と最高裁昭和52年3月10日決定（退去強制）を扱う。
9回	抗告訴訟などについて説明する。グループワークでは最高裁昭和62年2月6日判決（学校事故に関する国家賠償責任）と最高裁昭和57年4月1日判決（国家賠償における加害者の特定）を扱う。
10回	行政指導、行政立法、行政計画、行政契約などについて説明する。グループワークでは最高裁平成3年4月19日判決（小樽予防接種禍訴訟）を扱う。
11回	行政事件訴訟法について説明する。グループワークでは最高裁昭和45年8月20日判決（道路管理の瑕疵）を扱う。
12回	行政不服申立制度、不服申立審査などについて説明する。グループワークでは最高裁昭和61年3月25日判決（点字ブロックのない駅ホーム）を扱う。
13回	国家賠償法1条などについて説明する。グループワークでは最高裁平成5年3月30日判決（校庭開放中の自己）を扱う。
14回	収用補償などについて説明する。グループワークでは最高裁昭和28年12月23日判決（正当な補償）を扱う。
15回	1回～14回までを復習する。
16回	前回に続き1回～14回までを復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習として情報関係の法律問題に関する新聞記事をひとつ探してくること。（標準学習時間60分）
2回	予習として最高裁平成3年3月8日判決（ヨット係留施設の撤去）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
3回	予習として最高裁昭和56年1月27日判決（信頼保護）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
4回	予習として最高裁平成3年7月9日判決（旧監獄法施行規則と委任の範囲）と最高裁平成14年1月31日判決（児童扶養手当法施行令と法律の委任）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
5回	予習として最高裁昭和47年10月12日判決（行政代行的な業の許可裁量）と最高裁平成4年10月29日判決（専門技術的判断と裁判所の審査）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
6回	予習として最高裁昭和53年5月26日判決（余目町個室付浴場事件）と最高裁昭和63年6月17日判決（行政行為の明文なき撤回）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
7回	予習として最高裁昭和62年5月19日判決（随意契約制限違反）と最高裁昭和34年6月26日判決（退職願の撤回）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
8回	予習として最高裁昭和41年2月8日判決（国家試験と司法審査）と最高裁昭和52年3月10日決定（退去強制）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）

	んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
9回	予習として最高裁昭和62年2月6日判決（学校事故に関する国家賠償責任）と最高裁昭和57年4月1日判決（国家賠償における加害者の特定）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
10回	予習として最高裁平成3年4月19日判決（小樽予防接種禍訴訟）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
11回	予習として最高裁昭和45年8月20日判決（道路管理の瑕疵）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
12回	予習として最高裁昭和61年3月25日判決（点字ブロックのない駅ホーム）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
13回	予習として最高裁平成5年3月30日判決（校庭開放中の自己）の事実の概要と判旨を読んておくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
14回	予習として最高裁昭和28年12月23日判決（正当な補償）の事実の概要と判旨を読んておくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
15回	予習・復習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）
16回	予習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	行政法に関する講義をおこなう。また、グループワークでは行政法に関する判例を扱う。これにより、社会における行政法の役割、機能、限界を理解することを本講義の目的とする。（社会情報学科の「学位授与の方針」の項目Cにもっとも強く関与し、項目Bに強く関与する）
達成目標	1) 行政法の基本を正確に身につける（B・C）。 2) 行政法の基本を自分で説明することができる（B・C）。 ※（ ）内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目（学科のホームページ参照）
キーワード	公行政行為、行政手続、行政救済
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	基本的に最終評価試験100%により成績を評価し、100点満点中、60点以上を合格とする。
教科書	使用しない。レジメと資料を授業中に配布する。
関連科目	「市民生活と法」「情報法」など。
参考書	六法（出版社・種類は問わない）
連絡先	川島研究室 A1号館7階
授業の運営方針	ケーススタディなど、自分で考え、それを表現するスタイルの授業を基本とする。
アクティブ・ラーニング	ケーススタディ、それに対するフィードバックなどを行う。
課題に対するフィードバック	授業中、必要に応じ、随時フィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1) 授業では、グループワークやディスカッションを含むアクティブラーニングの手法を採用する。 2) 教科書は用いず、レジメと資料を授業中に配布する。 3) 予習と復習をすること。 4) 授業中の私語を禁ずる。 5) 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合には事前に相談すること。 6) 授業中の演習課題についてのフィードバックは、Momo-campusのフィードバック機能を用いるか、あるいはその授業中に行う。

科目名	憲法要論(再)【月2木2】 (FIV21900)
英文科目名	Review of Constitution
担当教員名	川島聡 (かわしまさとし)
対象学年	3年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：講義の進め方を説明する。「法と何か」を具体例を用いて考える。
2回	憲法①（人権論）について解説する。グループワークでは最高裁昭和44年6月25日判決（夕刊和歌山時事事件）と最高裁平成15年3月14日判決（長良川事件報道訴訟）を扱う。
3回	憲法②（統治論）について解説する。グループワークでは最高裁昭和56年4月7日判決（板まんだら事件）と最高裁昭和34年12月16日判決（砂川事件）を扱う
4回	行政法①（総論）について解説する。グループワークでは最高裁昭和63年6月17日判決（行政行為の撤回の可否）と最高裁昭和61年3月25日判決（点字ブロック）を扱う。
5回	行政法②（行政救済法）について解説する。グループワークでは最高裁平成5年3月30日判決（校庭開放中の事故）と最高裁昭和6年2月6日判決（学校事故と国家賠償）を扱う。
6回	民法①（総則）について解説する。グループワークでは最高裁昭和61年6月11日判決（北方ジャーナル事件）と最高裁昭和56年3月24日判決（男女別定年制度）を扱う。
7回	民法②（物権・債権）について解説する。グループワークでは最高裁昭和60年11月29日判決（贈与と書面）と最高裁平成3年4月2日判決（敷地利用権付建物の売買と瑕疵担保）を扱う。
8回	民法③（親族・相続）について解説する。グループワークでは最高裁昭和45年4月21日判決（意識不明の間に受理された婚姻届の効力）と東京家裁八王子支部平成6年1月31日審判（親の命名権）を扱う。
9回	刑法①（基本概念）について解説する。グループワークでは最高裁平成元年12月15日決定（不作為の因果関係）と最高裁平成17年7月4日決定（不作為による殺人）を扱う。
10回	刑法②（構成要件）について解説する。グループワークでは最高裁平成15年7月16日決定（高速道路侵入と因果関係）と昭和42年10月24日決定（他人の行為と因果関係）を扱う。
11回	刑法③（違法性）について解説する。グループワークでは最高裁平成元年11月13日判決（防衛行為の相当性）と大阪高裁平成14年9月4日判決（誤想防衛）を扱う。
12回	刑法④（有責性）について解説する。グループワークでは長崎地裁平成4年1月14日判決（実行行為と責任能力）と大阪地裁昭和51年3月4日判決（原因において事由な行為）を扱う。
13回	国際法①（法源）について解説する。グループワークでは札幌地裁平成9年3月27日判決（二風谷ダム事件）と最高裁昭和53年10月4日判決（マクリーン事件）を扱う。
14回	国際法②（共存と協力の国際法）について解説する。グループワークでは札幌地裁平成14年11月11日判決（小樽入浴拒否事件）と高松高裁平成9年11月25日判決（受刑者接見妨害事件）を扱う。
15回	1回～14回までの復習を行う。
16回	第15回に続き、1回～14回までの復習をするとともに、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習として法律に関する新聞記事をひとつ探してくること。（標準学習時間60分）
2回	予習として最高裁昭和44年6月25日判決（夕刊和歌山時事事件）と最高裁平成15年3月14日判決（長良川事件報道訴訟）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
3回	予習として最高裁昭和56年4月7日判決（板まんだら事件）と最高裁昭和34年12月16日判決（砂川事件）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
4回	予習として最高裁昭和63年6月17日判決（行政行為の撤回の可否）と最高裁昭和61年3月25日判決（点字ブロック）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
5回	予習として最高裁平成5年3月30日判決（校庭開放中の事故）と最高裁昭和6年2月6日判決（学校事故と国家賠償）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
6回	予習として最高裁昭和61年6月11日判決（北方ジャーナル事件）と最高裁昭和56年3月24日判決（男女別定年制度）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
7回	予習として最高裁昭和60年11月29日判決（贈与と書面）と最高裁平成3年4月2日判決（敷地利用権付建物の売買と瑕疵担保）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
8回	予習として最高裁昭和45年4月21日判決（意識不明の間に受理された婚姻届の効力）と東京家裁八王子支部平成6年1月31日審判（親の命名権）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、

	授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
9回	予習として最高裁平成元年12月15日決定（不作為の因果関係）と最高裁平成17年7月4日決定（不作為による殺人）の事実の概要と決定要旨を読んでもくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
10回	予習として最高裁平成15年7月16日決定（高速道路侵入と因果関係）と昭和42年10月24日決定（他人の行為と因果関係）の事実の概要と決定要旨を読んでもくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
11回	予習として最高裁平成元年11月13日判決（防衛行為の相当性）と大阪高裁平成14年9月4日判決（誤想防衛）の事実の概要と判旨を読んでもくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
12回	予習として長崎地裁平成4年1月14日判決（実行行為と責任能力）と大阪地裁昭和51年3月4日判決（原因において事由な行為）の事実の概要と判旨を読んでもくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
13回	予習として札幌地裁平成9年3月27日判決（二風谷ダム事件）と最高裁昭和53年10月4日判決（マクリーン事件）の事実の概要と判旨を読んでもくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
14回	予習として札幌地裁平成14年11月11日判決（小樽入浴拒否事件）と高松高裁平成9年11月25日判決（受刑者接見妨害事件）の事実の概要と判旨を読んでもくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
15回	予習・復習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）
16回	予習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	さまざまな社会問題、政治問題、経済問題、文化問題を法的観点から考えるためには、法的な考え方（リーガル・マインド）を身につける必要がある。そこで、本講義では、法的観点から、現実にある種々の問題に対して、どのようにアプローチすべきかについて判例と学説を中心に解説する。そして、多様な問題をとりあげながら、憲法、民法、刑法、労働法、社会保障法、経済法、国際法について説明するとともに、判例を取り上げることで、社会における法の役割、機能、限界を理解することを本講義の目的とする。（経営学科の「学位授与の方針」の項目Bにもっとも強く関与し、項目Fに強く関与し、項目Aにある程度関与する）（社会情報学科の「学位授与の方針」の項目BおよびFにもっとも強く関与し、項目Cに強く関与する）
達成目標	（1）憲法・行政法・民法・刑法・国際法の基本概念を身につける。 （2）憲法・行政法・民法・刑法・国際法の基本判例を身につける。 （3）憲法・行政法・民法・刑法・国際法を中心に法分野横断的な観点から、グループワークやディスカッションを通じて、法が果たしている役割を理解することができる。
キーワード	憲法・行政法・民法・刑法・国際法
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	基本的に最終評価試験100%により成績を評価し、100点満点中、60点以上を合格とする。
教科書	使用しない。レジメと資料を授業中に配布する。
関連科目	「国際社会と法」「情報法」など
参考書	六法（出版社・種類は問わない）
連絡先	川島研究室 A1号館7階
授業の運営方針	ケーススタディなど、自分で考え、それを表現するスタイルの授業を基本とする。
アクティブ・ラーニング	ケーススタディ、それに対するフィードバックなどを行う。
課題に対するフィードバック	授業中、必要に応じ、随時フィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	1) 授業では、グループワークやディスカッションを含むアクティブラーニングの手法を採用する。 2) 教科書は用いず、レジメと資料を授業中に配布する。 3) 予習と復習をすること。 4) 授業中の私語を禁ずる。 5) 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合には事前に相談すること。 6) 授業中の演習課題についてのフィードバックは、Momo-campusのフィードバック機能を用いるか、あるいはその授業中に行う。

科目名	卒業研究Ⅰ（FIV99100）
英文科目名	Graduation ThesisⅠ
担当教員名	村松潤一（むらまつじゅんいち）、黒田正博（くろだまさひろ）、徳澤啓一（とくさわけいいち）、水谷直樹（みずたになおき）、辻野義雄（つじのよしお）、松村博行（まつむらひろゆき）、大藪亮（おおやぶあきら）、八木一郎（やぎいちろう）、張セイ（ちょうせい）、川島聡（かわしまさとし）、大田靖（おおたやすし）、山形真理子（やまがたまりこ）、岡部勝成（おかべかつよし）、鷲見哲男（わしみてつお）、志野敏夫（しのとしお）、森裕一（もりゆういち）
対象学年	4年
単位数	4.0
授業形態	実験実習
授業内容	オリエンテーション 卒業研究テーマの設定、関連基礎知識の習得、関連研究の調査（4～9月）
準備学習	・社会情報研究Ⅰ、Ⅱの復習 ・各研究テーマにおける基本的文献の読了
講義目的	配属された指導教員の下、各教員の専門分野について、各自が卒業研究の課題を設定。資料・データの収集・整理などを通して十分な知識を蓄え、卒業論文を作成、研究発表を行う。（社会情報学科の学位授与方針項目C、Dにもっとも強く関与する）
達成目標	各研究室で各自が策定した卒業論文テーマを完成させる。 1. 研究分野について、積極的に研究・学習計画を立てる。 2. 研究分野について、資料・データ収集と整理が出来る。 3. 論文を作成、発表が出来る。
キーワード	ゼミナール、研究課題の策定・考察、資料・データ収集、資料・データ整理、論文作成
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	研究内容はもちろん、各自のテーマへの取り組み（研究課題策定）まとめ（文章化、プレゼンテーション）など、総合的に判断、60点以上を合格とする。
教科書	指導教員が指示する。
関連科目	社会情報研究Ⅰ、Ⅱ（3年前期・後期、必須）並びに社会情報学科科目
参考書	指導教員が指示する。
連絡先	各指導教員または学科長
授業の運営方針	各自が自発的にテーマを吟味し、自発的に研究を行い、その成果や研究を進める上で課題となっていることなどを明らかにし、それを持って指導に臨むこと。
アクティブ・ラーニング	学生自らが研究し、論文を書き、指導教員がそれらに対するフィードバックを行う。
課題に対するフィードバック	卒論指導の中で、研究課題で行ったことに対してフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	金融、マスメディア、旅行会社、メーカーなどで長期間従事した教員が数名授業を行う
その他（注意・備考）	この講義では、適宜、課題演習を行い、理解度に応じたフィードバックを行う。講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。

科目名	卒業研究Ⅱ（FIV99200）
英文科目名	Graduation Thesis II
担当教員名	村松潤一（むらまつじゅんいち）、黒田正博（くろだまさひろ）、徳澤啓一（とくさわけいいち）、水谷直樹（みずたになおき）、辻野義雄（つじのよしお）、松村博行（まつむらひろゆき）、大藪亮（おおやぶあきら）、八木一郎（やぎいちろう）、張セイ（ちょうせい）、川島聡（かわしまさとし）、大田靖（おおたやすし）、山形真理子（やまがたまりこ）、岡部勝成（おかべかつよし）、鷲見哲男（わしみてつお）、志野敏夫（しのとしお）、森裕一（もりゆういち）
対象学年	4年
単位数	4.0
授業形態	実験実習
授業内容	卒業研究の推進（10～11月）卒業研究中間発表（11～12月）卒業研究の推進、卒業論文・要旨の作成（1月）卒業論文提出および卒業研究発表（1～2月）
準備学習	・社会情報研究Ⅰ、Ⅱの復習 ・各研究テーマにおける基本的文献の読了 ・各研究テーマの研究に合う研究方法の構築
講義目的	配属された指導教員の下、各教員の専門分野について、各自が卒業研究の課題を設定。資料・データの収集・整理などを通して十分な知識を蓄え、卒業論文を作成、研究発表を行う。（社会情報学科の学位授与方針項目C、Dにもっとも強く関与する）
達成目標	各研究室で各自が策定した卒業論文テーマを完成させる。 1. 研究分野について、積極的に研究・学習計画を立てる。 2. 研究分野について、資料・データ収集と整理が出来る。 3. 論文を作成、発表が出来る。
キーワード	ゼミナール、研究課題の策定・考察、資料・データ収集、資料・データ整理、論文作成
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	研究内容はもちろん、各自のテーマへの取り組み（研究課題策定）まとめ（文章化、プレゼンテーション）など、総合的に判断、60点以上を合格とする。
教科書	指導教員が指示する。
関連科目	社会情報研究Ⅰ、Ⅱ（3年前期・後期、必須）並びに社会情報学科科目
参考書	指導教員が指示する。
連絡先	各指導教員または学科長
授業の運営方針	各自が自発的にテーマを吟味し、自発的に研究を行い、その成果や研究を進める上で課題となっていることなどを明らかにし、それを持って指導に臨むこと。
アクティブ・ラーニング	学生自らが研究し、論文を書き、指導教員がそれらに対するフィードバックを行う。
課題に対するフィードバック	卒論指導の中で、研究課題で行ったことに対してフィードバックする。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	金融、マスメディア、旅行会社、メーカーなどで長期間従事した教員が数名授業を行う
その他（注意・備考）	この講義では、適宜、課題演習を行い、理解度に応じたフィードバックを行う。講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。